

自ら將來に戒むる所あるを信す。今此結果を見る、悲しむべしと雖、固より永久に日本の功業を動かすものにあらざるなり。現に今日ルーター電報は露軍が奉天に糧食に苦むを報ずるは、これ即ち所謂クロバトキンの機變縱横なる戦術の結果なりと。

已にして我軍大に沙河に露軍を撃破せり。此戦ひは即ち沙河の大會戦是なり、會戦に關し、佛國新聞紙は孰れも之を以て日軍の赫々たる成功にして、露國に取つて重大なる敗北なるを認め、クロバトキン將軍の攻勢開始の宣言と、其結果の爾かく慘憺たるものあるを對照して、之に冷評を加へたり。又斯かる冒險的行動に出でたるの責任問題に就きては、各紙皆取りつゝの論評を試みたり。かの親露派及び國民派の諸新聞紙が、依然我日本軍の大捷を成るべく輕視せしめんと努むるは、固より怪しむに足らず。之に反し社會黨の新聞は、露軍の無能を論難するに於て筆端毫も憚る所なし。社會黨の領袖たるジウレス氏は、十五日のユマヌラ新聞紙上に論じて曰く、

極東に出現しつゝある重大なる出來事に關し、當國の新聞紙が如何に興業を欺

かんと欲するも、此くの如きは到底長く其効なき者なり。當國新聞の大多數が、沙河會戦の結果を輕視せしめんと、百万盡力するに拘らず、茲に一事の争ふべからざるものあり。即ち露國將軍が一たび高言して攻勢を取ること宣言するや、大に全世界を發動し、特に露國民の腦裏に信念を起さしめたるも、其一度敵鋒に接するや、此等の信念は全然消失せるにあらずやと。

同氏は更に進んで、右無法の攻戦に論及し、自説を表白して曰く、露國兵力の價値に就き、虚空の妄想を抛棄するの機は既に熟せり。而も今日は已に業に露國の利益の爲めにも戦争を終止せしむるの策を講ずるの時機に達せりと。

十月十五日オウロール新聞に掲げたるアレキサンドル・ウラル氏の論文は、遠慮なく露國の軍略を批難したる後、無謀なる攻勢の結果は失敗に歸し、露國內地の状態は之が爲め少なからざる影響を蒙るべし。但し此度攻勢開始の宣言は、或は假面を装へる革命の鼓吹に出づるなきやと推問せり。ジルプラス新聞の軍事記者は、十月十五日の同新聞に於て、從來日軍の行動の特徴たる用意周到、忍耐敏活

自ら將來に戒むる所あるを信ず。今此結果を見る、悲しむべしと雖、固より永久に日本の功業を動かすものにあらざるなり。現に今日ルーター電報は、露軍が奉天に糧食に苦むを報ずるは、これ即ち所謂クロバトキンの機變縱横なる戰術の結果なりと。

已にして我軍大に沙河に露軍を撃破せり。此戦ひは即ち沙河の大會戰是なり、會戰に關し、佛國新聞紙は、孰れも之を以て日軍の赫々たる成功にして、露國に取つて重大なる敗北なるを認め、クロバトキン將軍の攻勢開始の宣言と、其結果の爾かく慘憺たるものあるを對照して、之に冷評を加へたり。又斯かる冒險的行動に出でたるの責任問題に就きては、各紙皆取りつゝの論評を試みたり。かの親露派及び國民派の諸新聞紙が、依然我日本軍の大捷を成るべく輕視せしめんと努むるは、固より怪しむに足らず。之に反し社會黨の新聞は、露軍の無能を論難するに於て筆端毫も憚る所なし。社會黨の領袖たるジョウレス氏は、十五日のユマユラ新聞紙上に論じて曰く、

極東に出現しつゝある重大なる出來事に關し、當國の新聞紙が如何に輿衆を欺かんと欲するも、此くの如きは到底長く其効なき者なり。當國新聞の大多數が、沙河會戰の結果を輕視せしめんと百方盡力するに拘らず、茲に一事の争ふべからざるものあり。即ち露國將軍が一たび高言して攻勢を取ること宣言するや、大に全世界を發動し、特に露國民の腦裏に信念を起さしめたるも、其一度敵鋒に接するや、此等の信念は全然消失せるにあらずやと。

同氏は更に進んで、右無法の攻戰に論及し、自説を表白して曰く、

露國兵力の價値に就き、虚空の妄想を拋棄するの機は既に熟せり。而も今日は已に業に露國の利益の爲めにも戰爭を終止せしむるの策を講ずるの時機に達せり。

十月十五日オウロー新聞に掲げたるアレキサンドル・ウラル氏の論文は、遠慮なく露國の軍略を批難したる後、無謀なる攻勢の結果は失敗に歸し、露國內地の状態は之が爲め少なからざる影響を蒙るべし。但し此度攻勢開始の宣言は、或は假面を装へる革命の鼓吹に出づるなきやと推問せり。ジルプラス新聞の軍事記者は、十月十五日の同新聞に於て、從來日軍の行動の特徴たる用意周到、忍耐敏活

及び堅實なる性質と、今回露人の企てたる輕卒無謀無定見なる攻戰とを對照して曰く、露國は曩には守戰に於て多少見るべきの成功をなしたるも遂に擊攘せられ、今や又攻勢を取りて果して潰走を招けり。是に至つて全然其不能を證明し盡くしたりと。

今回敗戰の露國公衆に及ぼすべき心理の結果に關し、佛國各新聞に掲げられたる十月十六日附アウツ通信に曰く、さなきだに人心銷沈の折柄、今や何人も外國電報に依り、露國滿洲軍の敗北を知るに拘らず、露國は固く秘して公報を發表せざるが爲め苦心一層を加へたり。斯く公報を發表せざるは、必らずや何人も事實を直言するに忍びざる程の大災難のあるが爲めなるべしと做し、一般人心はクロバトキン將軍が攻勢開始の誇張なる宣言を敢てしながら、斯かる状態に陥りたりとて、同將軍に對する批難忿怒の聲漸く高まれり。

又獨逸の各新聞は孰れも之を以てクロバトキン將軍の失敗に歸し、露軍は攻戰に於ても亦守戰に於けるが如く、全く日軍に劣ることを表明せるものなりと評

と合へり。

フオッシュシエツアイング曰く、過般露軍が愈々攻勢を取らんとして誇張の宣言をなせるに當りてや、我獨國の軍人社會は頗る懷疑の念を以てこれを迎へたり。果せるかな、日軍の敏捷なる疾く此倨傲の行動を利用し、露軍をして危殆の位置に陥らしめたり。

ベルリトネル、ターゲブラット曰く、露國今回の戰敗は口筆の能く之を盡くすべきにあらず。露軍が野戰に於ても、山地戰に於ても、日軍の軍略に對比し得ざること、今や争ふべからざるに至れり。蓋し西歐に於ては、露國の兵力を以て甚だ恐るべきものとなし、之を尊重せること茲に年ありしが、今や露國の軍威は開戰以來著しく失墜し、而して此感覺を洗除せんこと容易の業にあらず。思ふに今後戰局の進むに及んで、歐洲大國の政策上全然一新發展を見んこと之なきを保せざるべきか。

倫敦發電報に據れば、該地の各新聞紙は遼陽の北方に於ける日本軍の大捷を十分に認めたり。尤も戰鬪は未だ結了に至らず。其終局の結果、及び露軍敗衄の程度

は、尙不確定に屬し、又日本軍が其便利を如何に利用するを得べきや等の件も未だ明かならざるを以て、今日までは右戦闘に關して最後の斷案を下すことを避け、續報の到るを待つゝの狀あり。然れども露軍の攻撃は全然失敗に歸し、自ら退却するの止むを得ざるに至りたるを共に、日本軍の逆襲其功を奏したるの事實は、單に此一點のみにも、既に最も重きを置くに足るものと認めたり。これ實にクロバトキン大將の有名なる宣言に續發せる事實なればなり。尤も今回同大將の前進は、政治上の理由に依り上長より強ひらるゝ所なるを以て、大將の名を以て發せる宣言中の斯かる傲語に就きては責任なきものと認められたり。されば彼に對して、深く之に同情を表するもの多し。

我戰捷が當時の輿論に及ぼしたる影響は、十月十四日日本公債が一磅方騰貴し、露國公債が半磅方下落せるに徴しても知るべし。

又十七日發倫敦よりの電報に依れば、該地諸新聞紙は目下尙續行中なる戦闘の終局の結果を待ちつゝあるも、共に我軍が大捷を博し、露軍は最大なる災厄を受けたりとの最近の報道に接し、益々満足の意を表せり。我軍の露軍に優れるを認む

ること之によりて今や一層深きを加へたり。沙河會戰に關する米國各新聞の論評は、概してクロバトキンが其意に反し、露帝の勅命に依りて止むを得ず戦へるものなりとするに殆ど一致せり。

紐育タイムスは曰く、露軍は從來逆境に處して能く局面を挽回し、敗軍を以て目せらるゝことを否定するの例少なからざるが故に、今日に於て直に露軍の全敗を斷言するは早計に失す。然れども、連戦連敗の大勢は、今後露國司令官に於て、最早之を回復するの見込なきと殆ど云ふを俟たざるが如し。特に旅順の救援の一事に至つては、到底望みなき者とせざるを得ざるべし。追つて旅順陥落し、又クロバトキン大將が奉天若くは其以北に驅逐せらるゝに至らば、日本軍に取りて戦争の目的を達したるものと云ふべし。若し露國に於て斯かる結果を以て終極の者と承認せず、更に之を繼續せんには、蓋し非常なる覺悟を要すべし。何となれば彼等は風説に於てのみ勝利を得るの外、事實に於て何等の成功の要件を備へざるものにして、兵備に關しても日本の援軍は、單に水路に依りて朝鮮の東岸に輸送し得らるゝに反し、露國は甚だしき不利の地位に立ちつゝあればなり。

紐育サンも亦曰く、沙河會戰の結果は、日本軍に取り未だ終極的大勝とは目し難きも、之に依り露國は痛く其勢力を損耗し、更に其兵力を増進する事に就いては、已に戰爭の爲め、又疾病の爲めに受けたる損失は甚だ大なるを以て、これ蓋し容易の業にあらざるべし。

現下露軍の援兵は、日に僅に四百人の割合を以て、司令官の下に輸送されつゝある事は確かなる説にして、且つ露軍に於ける衛生設備は甚だ不完全なるが故に、明年春期戰鬪の初めまでは、露國は大に優勢なる軍隊を有し得べしとは殆ど信すべからざるなりと。

トリビュン新聞は、先づ戰爭の狀況并に露軍の敗績に就き、詳述したる後論じて曰く、此敗戰の結果として、露軍は確に非常なる損害、恐らくは遼陽に於けるよりも一層重大なる損害を蒙りたるものなり。今回の會戰は其兵力の莫大なる點に於て、恐らく世界大戰爭の内に其地位を占むるものならん。尤も決勝的なる語が此會戰に對し如何なる程度まで適用せらるべきかは明かならざれども、要するに其戰鬪の結果は、遼陽に於けるよりも遙に重大なりしは事實なるべし。併し此

戰鬪に於ける露國の全敗は、即ち奉天の陥落を意味するものと見做して大過なかるべし。

(ロ) 此時期に於ける戰局に對し彼等は如何なる觀察を下せしか

沙河大會戰の頃は恰もバルチック艦隊東遣の決行せられし時なり。一方には旅順港内に尙敗餘の戰艦は潜めり。旅順の陸面攻撃は日に進行しつゝあり、戰局は懸つて此要塞の陥落するや又は救援せられ得べきやにあり。

獨逸のフォッシェツァイツングは曰く、所謂滿洲情報なるものは、前週に於て漸く再び許多の材料を與へたり。滿洲に於ける戰局の發展遅々たるが爲め、多數の軍事通信者が嫌厭の情あると、多數の通信員が軍事上の知識に乏しきと、更に地名の書方區々錯然たることは、戰況の眞情を傳ふる上に於て、頗る精確を缺くに至らしめたる所以なり。殊に露國側より出でたる日本側より出でたることを問はず、各其戰勝として傳へらるゝ所の總ての電報は、之に多少の評論を加へ、紙上に掲載する迄には幾度か慎重なる考査を

加へざるべからざるなり。加ふるに官邊に於ても、這般事實の捏造をなすことなきにしもあらず、新聞紙を利用して虚報を傳へしむるが如き事は、敢て珍らしきことにあらず、已にフリードリヒ大王は當時猶よく嶄新なる此利器を應用してその目的を達し、また拿破翁も新聞を利用して敵を迷はし、以て自家の優勢を占めたることあり。されば吾人は又近世の戦争に於て、軍事大權及び自家防衛の必要により、一時言論の自由を制せざるに於ては、新聞紙の記事は、却つて敵に糧を送るが如き危険なる結果を來すに至ることあるを知る。現に一八七〇年乃至一八七一年の戦役に於て、吾人が倫敦を経て聞き込みたる所の佛國新聞の記事例へば佛國のセゲン行進を傳へたるが如きは、獨逸の軍略を決断せしむるの因たりしとあり。現下の交戦國中にありて、殊に日本は夙に此新軍器の効力と危険とを見抜きたるものゝ如し。

金州の役以來幾多の戦報傳はり、世人頗る之を信せしも、深く之を研究するときには、殆ど一も事實を傳へたるものあらず。近く旅順の砲撃に際し、日本が二隻の水雷艇を失ひたると、鳳凰城の北方に於て少數の騎兵衝突ありたるの外、一も戦闘

あらざりしなり。唯金州の戦ひにて、日本軍の博したる勝利は、頗る大なりとの報道は、日を逐うて増加せり。從來吾人の間には、常に日本の勝利を否認し、假令之ありとするも、是多大の損害を以て買ひ得たる勝利に過ぎざるべしとの想像一般に傳播したりと雖、今や思慮ある人士は、かの露國最負の人が唱道する所の今回の戦地たる、猶鴨綠江畔に於けるが如く、唯是前進陣地たるに過ぎざるなり、たとひ之を占領し居るも何等の價値なき者にして、露軍は陽に防戦の風を示して敵兵を誘惑し、之をして多大の損害を受けしめたる後、敵が無上の高價を此地に擲ちたるを冷笑して、靜に退却したる者なりとの空言に耳を傾くる者なきに至れり。思ふに斯くの如き辯護は、偶以て露國人の名譽を毀損する者と云ふべし。フォック將軍の戦狀を以て、前進陣地となすの口實は、其兵數より云ふも、將、戦地の狀況より云ふも、到底其當を得たる者にあらずるなり。されど此事は暫らく措いて之を問はずとするも、専ら時日を遷延せんが爲めに戦ひ、止むを得ざる理由なきに陣地は敵の略取に任せ、而して戦局は纏て一變するに至らんと希望を以て、無邪氣なる國民を慰さめんとするは、漫りに虚飾を加へて一時を糊塗せんとする

虚飾的戦術たるを免れず。思ふに露人は決して此くの如き虚飾戦術家にあざるなり。フオック將軍は南山の陣地を長く固守するの意なかりしと固より明かにして陣地を固守するは近世戦術家の執らざる所にして、彼は唯陣地に據り敵を撃破せんを努むる者なり。將軍の欲したる所は、唯昨今上陸したる敵の一部隊を撃退するにあり。かの大戦闘に際し、フオック將軍にして、若し能く敵の歩兵の突貫だけにても撃攘するを得たらば、進撃の準備を整へたる露の豫備本隊は、容易に困憊したる敵兵を破つて之を其圏内に撃退するを得しならん。凡そ要塞類似の防禦ある敵陣に對して、一門の曲射砲をも有せざる攻撃が、其効を奏せんとは蓋し露人の夢寐にも豫想せざりし事にして、あらゆる戦術の敵へに矛盾したる者なり。露軍は戦況最も不利の場合に於ても、猶敵の追撃を受くることなく、陣地を撤して北方に退却するの餘裕ありたるが故に、苟くも之を決行したらんには、敵をして旅順より背後を襲はるゝの危険に陥らしむるを得たり。今にして知る、當時の露軍の敗れたるは、單に數に於て日本軍が優越なるに依るにあらずし、何を何となれば日本軍を假りに優越なりとするも、決戦場の地勢たる大兵を集中

するに適せず。而も露の豫備軍の強壓に對しては、直に之に對抗するを得るを以て、毫も大兵を要せざればなり。又日本海軍の協力も結局の勝利を助成したる者にあらず。何となれば、軍艦は此くの如き戦争に對して、缺くべからざる曲射砲を有せざればなり。加之、日本の軍艦は露國軍艦に備へざるべからざる者ありしを以て、之に依つて之を觀れば、今回の戦勝は一に日本兵の勇武絶倫なりしによる者にして、學説上不可能の事をも敢て之を行ひたるは、猶普國近衛のセント・プリウアートに於ける如きものありしに依らずんばあらず。此勇卒を率ゐるに、作戦に卓絶なる將校を以てす。勝敗已に自ら定まるものあるなり。

日本軍の多大なる損害に就きて一言せんに、大なる勝利は大なる損害を以て購ひ得べしとは、古來勝者の打算せざるべからざりし處なり。蓋し非常の損害を顧みずして能く攻撃の目的を達するは、是、即ち良將勇卒たる所以にして、かのトルカウの役に於ける普軍の死傷は、奥國に比して三倍の多きに上り、トラウテナウ役の戦勝者は、總軍百に就いて十三を失ひたれども、戦敗者は僅に四を失ひたるに過ぎざりき。またスピッヘルン役に於ける獨佛軍損傷の比例は、十三に對する

七にして、マルス・ラ・トゥールの役は二十二に對する九、グラゴットの役は十に對する六にして、此くの如き先例は枚擧に遑あらざるなり。是故に死傷の數は、以て戰勝の價値を左右するに足らざる者とす。近時某専門官は作戰上より着眼して、今回日本戰勝の價値なき、宛もかのウエルト及びスピツヘルシ二役の戰術上何等の價値なきが如しとなし、その意見を本紙に載せたり。然れども、二役の戰勝に對する評論は吾人の決して首肯する能はざる所なり。それ戰爭に於ける精神上の效果は、人の豫想するより遙に重大なるものあり。これ劈頭第一戰に敗れたるものは、概して其戰役中花々しき勝運に遭遇すること稀なる所以とす。吾人は頃日金州攻撃の成功は、作戰上極めて廣大なる影響を有するに至るべきを論せしが、今や旅順に通ずる陸路は全く遮断せられ、遼東半島は確實に占領せられ、又露軍が青窪泥の如き主要地點を撤退するに至りたるは、吾人の所論の空しからざるを示すものゝ如し。然り而して、露軍金州の敗北後、週日以内に旅順陥落の報なかりしは固より當然なり。日本軍の指揮官が、作戰の準備をなすに小心翼翼たるは、蓋しその將校卓絶せる所以とす。何となれば一面には兵を海外に動かすべき

這般戰爭に就きては、特種の事情の存するあり。又他の一面に於ては、今回の戰地は道路に乏しきを以てなり。故に此くの如き事情の異なるものに對し、歐洲の規矩を以て之を律せんとし、或は當地の某大學教授の如く、輕々にも日本軍の進行遲々たるを見て、直に軍制の不完全なるに基づくものと速了すべからず。吾人は寧ろ反對の意見を有するものにして、不日一大決戰あるべしと豫期せらるる所の鳳凰城遼陽間の地區に於ても、次週に於ては唯前哨の衝突あるに過ぎざるべしと思考する者なり。日本の騎兵斥候隊には其後援として常に少數の歩兵を附隨せしむるを例とす。これ地形に適するの處置なると同時に、日本の騎兵は其數に於て露國の騎兵に如かざるを以てなり。されば騎兵斥候隊と衝突したる場合、に於て歩兵出現の報に接するも、直に以て其主力の行進し來たるものと推測すべからざるなり。思ふに今や殆ど連絡を全うしたる日本の第一軍及び第三軍は、旅順陥落に至るまで依然として安全なる山地に依り、其監視態度を持續するところあり。斯くして、旅順方面を引揚げ來たる所の第二軍を以て蓋平側面攻撃に充て、茲に全軍相聯絡せんとする事あるべし。尤も其間に於てクロバトキン將



軍は、吾人が此頃論じたる如く、東方に向つて飛躍を試み、戦局を一變することを保せざるなり。日本軍が浦鹽附近に上陸したるは、日本の司令官が此方面に注目して、實に此くの如き戦局に備へんとするの意あるを證するものにあらずや。クロバトキンにして、果して此舉に出でんとせば、須らく速に地の利を利用せざるべからず。何となれば、露軍若し躊躇遷延するに於ては、浦鹽この聯絡を断たれ、頗る苦境に陥るべきを以てなり。

又半官報フレンジンプラットは論じて曰く、

露兵の勇敢も、遂に其敵を制止するに足らざりき。蓋し日本軍は、其兵數に於て恐らくは優勢を占めたるにあらずと雖、指揮官の伎倆に於ては、確に露國に卓越せる所ありたればなり。此くの如き事情に於ては、露軍にして果して奉天を支持することを得べきや疑ふべく、吾人は寧ろクロバトキン大將が同地を撤退するに至るべきを期するものなり。奉天の喪失は、今後戦局の發展に關して顯著なる結果を及ぼすべきこと、旅順の陥落に劣らざるものあるべし。奉天及び旅順は、戦局の依りて懸かる二大要地なり。若し日本にして奉天及び旅順を占有せんか、日本

に取りて戦争の主なる目的は、茲に達せられたるものと云ふべし。若しそれ韓國に至りては、最初より無條件に日本の勢力に服せるものなり。日本は今や防止一方に力を用ふるを得べく、露國は其敵を撃退するに就き多大の困難を感すべし。

日本は清國の領土を奪取せざる旨を屢次宣言せると同時に、韓國に對する保護權の保障に就きては、日露交渉中既に之を主張せり。今や日本は事實上此目的を達し、又遠からずして滿洲及び其沿岸の最要地點に旭旗翻へるを見んとす。事茲に至つては、露國は條件に依り清國より得たる要地を回收せんが爲めには、新に戦闘を開始するの外なかるべし。恐らくは露軍は來春まで援軍の至るを待つべく、又其以前に戦闘を開始せざるは、露軍に取りて最上策ならん。今日迄は露軍は其兵力の一小部分を派遣せるに止まれり。恐らくは輸送上の困難に依り、大兵を集中するを得ざりしならむ。然れども秋季に至りては、露軍の幸運茲に來たるべしと信せられたり。今や秋季は至れるも、幸運は遂に來らず。若し露國にして勝利を得んと欲せば、全力を之に傾注せざるべからず。蓋し其對抗するの敵は、徹頭徹尾甲鐵を装へる一大軍國なればなり。

又露國のノールヴェグレンミヤは、其最後の運命は繋つてバルチック艦隊にありと  
 言をなして曰く、  
 日本軍の戰略の主なる者は、既に數次新聞紙上にも掲載せられたるが、日本軍の  
 戰略の根底となりて、最も信頼せらるゝ所の者は、其艦隊の優勢なる點と、今回の  
 戰爭の勝敗は制海權の得否に存すとの信念是なり、故に日本は銳意海軍の擴張  
 を企畫して大に成功し、露國の太平洋艦隊が尠からず彼に遜色あるを觀て密に  
 悦べり、日本が其實力を消滅するに當りて、露國が堅艦巨舶を醸して東洋に現は  
 るは、是即ち日本をして朝鮮と旅順とを占領するの妄想を斷念せしむる所以  
 なり、西伯利亞鐵道完成するも、尙且つ日本は平和を持続せり、是日本の見地より  
 すれば、只これ露國の勢力を陸上に擴張するに過ぎざるを以て、露の陸軍の力は  
 決して日本の政略を錯誤せしむるに足らざるを信じられたればなり、されど彼等は  
 露艦隊の勢力の増加に對しては、暫らくも忍ぶ能はざりしを以て、比較的弱勢な  
 る機會に乗じて直に戰爭を開始せり、彼等が冬期に開戦せる所以の者は、露艦隊  
 をして浦鹽を根據となすの機會を失はしむるの策に出でしなり、若し露艦隊に

して浦鹽に據らんか、對馬海峽は其扼する所となるべきを以て、韓國に對する軍  
 隊輸送は到底意の如くならず、加之浦鹽は二箇の港口を有するを以て、攻むるに  
 難く守るに易く、露艦隊にして浦鹽に根據を占めんか、日本軍隊の輸送は殆ど望  
 みなけん、  
 彼等は狡狴欺騙を以て我艦隊を襲撃し、旅順の港口を閉塞し、其機に乗じて九連  
 城の奇勝を獲たり、これ鴨綠江に其砲艦を遊弋せしめ得たるの賜物なりと云ふ。  
 彼等はスクルイドルフ將軍の提督任命の報を得るや、機失ふべからずとなし、將  
 軍の未だ其任務に就かざるに先だちて旅順を包圍し、其連絡を遮斷せり、日本が  
 殆ど難攻不落の陣地と信せられたる金州を陥落せしめたるは、砲艦驅逐艇等の  
 掩護ありしが故なり、日本軍が韓國經由の不便、遠隔なる連絡線を短縮して、最初  
 には大孤山鴨綠江よりし、後には營口遼河よりするを得たるは、制海權領得の結  
 果なり、惟ふに日本は遼河遼航の爲めに小艦隊を組織し、其支流をも利用して、遼  
 河には遼陽奉天までの航路を開通するなるべし、吃水淺くして厚き装甲を有する  
 砲艦に、速射砲を備へたる船艦は、既に英國がキッチネル將軍の埃及役の時代にも

之を有し常に英米の造船所に於て建造せられたり。日本は既に六箇月前に是等砲艦を購入し種々の荷作りをなして搬送せり。日本軍は是等砲艦を以て遼河に遡航し、クロバトキン將軍をして河線の後部連絡を失はしめ、之を遼陽奉天より哈爾濱に退却するの止むなきに至らしめんとす。

日本軍が露軍を壓迫して止まざるは、是旅順救援を防止せんとするものにて、日本軍はバルチック艦隊の到着までに、ウクトムスキ艦隊を滅して、旅順を攻取せんとするの希望を有せり。日本にして既に斯くの如くなるを得ば、バルチック艦隊來航するも、ウクトムスキ艦隊の加はるなくんば、日本の艦隊はバルチック艦隊よりも優勢なるを以て、これと戦ふは甚だ易く、またバルチック艦隊の到着頃には、既に結氷せんとする浦鹽より外に根據地なきを以て、バルチック艦隊の來航の難きを識れり、彼等が旅順に勸降の交渉をなしたるも、之が爲めなり。旅順の守備防禦者が之を斥けたるも、旅順は這般の重大なる意義を有するが故なり。若しそれ旅順と旅順艦隊にして、日本人の期待するが如く、全く其存在を失はんか、バルチック艦隊の東航は無意義に歸し、更に之を怖るゝに足らざるべし。これ露國人自ら

もバルチック艦隊の劣弱なるを悟り、之を極東に派遣するも何等利益なきを認むるを以てなり。斯くの如くして、日本は始めて樺太島カムサッカ並にコンマンダー島(コンマンダー)はカムサッカ半島の東に位する一小島嶼に過ぎざるも、極北の漁業上最も緊要なる島なる事を忘るべからずを占領するを得べく、露艦隊にして全滅せば、此舉に對して何等障礙をなすを得ざるなり。日本が是等の領土を占領するは、彼等に取りて最も必要とする所なり。これ、日本は是等領土に於て、漁業上莫大の利益を收むる事を得べく、又樺太島の鑛業、特に石炭石油の産額に至りては、殆ど無盡藏といふも可なるを以てなり。此時に當りてクロバトキンは、兵力の充實を得て攻勢に轉するも、既に其目的を遂げ得たる日本は、敢て之に打撃を加ふる事なく、兵を朝鮮に收め、僅に南部滿洲に於て旅順、青窪泥を保有するを以て満足すべし。彼等既に此事を期するを以て、其退却の沿道には十分の防禦工事を施し、陣地の用意をなせり。斯くの如くにして、遂に彼等は其占領地より露人の退去を要求すべし。彼等は期せり、露國は如何に強大なる軍隊を有するも、既に制海權を失ふ以上は、其占領せる地を一も奪はるゝが如き憂ひなきことを、彼等曰く、樺

大は勿論カムサッカと雖、曠大なる地域を以て戦地と隔絶し居るを以て、艦隊の力に依るにあらざれば、之を再び奪はるゝ憂ひなしと。若しそれ、日本は滿洲と旅順とを取るに當つて、其艦隊の援護あるも、尙且つ非常の努力と未曾有なる人命の犠牲を要せりとせば、露國は獨り其艦隊の援助なきのみならず、却つて優勢なる敵艦隊の我に對するあれば、旅順の回復は絶對的に不可能なり。露國が韓國より日本人を放逐し能はざる點に關しては、日本人は左記の如き所見を有せり。露國は僅に一道の鐵道線路に據りて、其根據地を隔つる三百露里以上の地點に於て、其後背に京釜鐵道、京義鐵道、並に自由なる航路を有する三十萬乃至四十萬の日本軍と相對せざるべからず。露軍は其給養を只一道の鐵道線路に依りて、仰ぎ、更に三四百露里間山丘の惡路を輸送せざるべからず。日本人の見解よりすれば、斯くの如き情勢なるを以て、露國は敢て深く朝鮮内地に入らざるも、既に韓國の國境に於てすら、四十萬以上の軍隊を供給するに足らず。况んや四十萬の軍勢にては、既に防禦守勢に轉じたる日本軍に對しては、進撃行動に出るに足らずとなせり。斯くの如く日本の見地よりすれば、露軍の優越せる點を數へ來たるも、露軍に

有利なる點を見ず。露國は自ら戦争を繼續するの無益なるを認め、僅に滿洲占領を以て満足して、旅順、青泥窪、朝鮮樺太、カムサッカ、コンマンデー島を日本に讓與して、和を講ずるに至るべしとは、日本人の所信なり。日本の戰略としては、論理上もあるべき豫想なるも、只日本人は一事の忘却せる者あり。即ち露國が制海權の此戦役に重要な事を認むるは、日本に一步を譲らず。又旅順は尙未だ陥落せず、且つ旅順浦鹽の艦隊尙健在し、バルチック艦隊出發の準備成り、又同艦隊に黒海艦隊の加はるに依りて、其戰鬪力非常に増加すべし。黒海艦隊の出航に關しては、我當局既に成算あり。無數の水雷艇は分解して、既に鐵道輸送をなすの準備成れり。斯くて露國の聯合艦隊は、海上より軍隊の給養を十分ならしめ、我軍の力を増大ならしめ、獨り韓國より日本軍を撃退するのみならず、日本に進撃するを得べし。以上の日本人の軍略を一考し來れば、露國民は海軍擴張とバルチック艦隊東航準備の巨費に對して、政府に援助を與ふるの急務なるを認むべし。吾人は同艦隊の給與十分ならん事を望み、其使命の重大なるを認むるの外、他に囑すべき希望を有せざるなり。願はくは其遠航に天佑あれと。

せざるを得ず。今日何人と雖、旅順攻撃の成行如何を明知するに由なし。何となれば新式の要塞が猛烈なる爆發力を有する砲彈及び最高度の砲火により攻撃せらるゝは今回を以て始めとすればなり。露軍にして士氣沮喪の餘、降伏すれば兎も角然らずんば所謂正式攻城に由らざるべからず、而して正式攻城は急に其効を收むるを得ず。

攻圍軍既に陣地に就きたる後は塹壕に依りて前進せざるべからず。塹壕は深さ四呎幅十呎餘にして夜間作業し、數哩に亘りて穿掘するを要す。乃ち攻圍は勢ひ長月日を要せざるを得ず。

塹壕に數種あり、軍對壕、輜土對壕、深對壕、盲障對壕等是なり。各特殊の効用あり。其事に應じて之を設く、今紙面限りあり、一々之を説明する能はざれども、近接壕及び平行壕の二語は之を知り置くを要す。仍て茲に聊か説明する所あらん。平行壕は要塞に平行して開掘し、其長さ時に數哩に亘る。砲撃開始の際、攻撃軍要塞を距ること四千碼の所に陣すと想定せば、其陣地を稱して第一砲兵陣地と云ふ。而して攻撃軍は漸次前進せんとするが爲めに、要塞を距ること約三千碼の地に第一

平行壕を作成し、而して兵士及び大砲を安全に此平行壕内に進行せしめんが爲めに近接壕を掘穿す。近接壕とは第一砲兵陣地より平行壕に通する若干の塹壕を云ひ、鋸齒形をなす。蓋し直線なるときは敵火に曝露せらるゝの虞れあればなり。

平行壕を開鑿するは、黄昏を待ち、將校若干名工兵を率ゐて前進し、平行壕を開鑿すべき線を劃す。其際各工兵は木材及び卷尺を携帯し、將校は一人の工兵を塹壕線の末端に佇立せしめ、其携ふる所の卷尺を取り、其盡くるまで歩し、それより更に他の工兵を立たしめて、又其携ふる所の卷尺を取りて其盡くるまで歩し、以下孰れも斯くの如くし、而して佇立する所の工兵は地中に材を打込み、之に卷尺を結付け以て作業隊の來るを待つ。作業隊は鶴嘴及び鏟を携へて來り、極力就業して黎明までに各長さ五呎幅六呎半深さ四呎の塹壕一個を穿了するを要す。但し前面十八呎は深さ僅に一呎半に止め、而して掘上げたる土は各兵其前面に盛り胸壁となす。日出の頃塹壕守備兵と稱する強勢なる軍隊をして、此塹壕に據らしむ。尤も土工は未だ竣功したるにあらず、猶爾後兩夜を要す。斯くの如くして落成

第四節 旅順口開城前後に於ける彼等の觀察

其一 彼等是如何に戦局を觀測し得たるか

轉じて一方旅順要塞戰の戦局に對して在芝罘上海マリーキョー通信員は説をなして曰く、

戦争進行に就きては相變らず種々の風説あれども旅順方面にては戦闘は當分中止の有様なりといふは確なるが如し。日本軍は必らず或日限即ち八月廿三日には旅順口を奪取する意思なるを宣言して三日間密集部隊を以て露軍の全線に逼攻したるが折角の盡力と勇氣も殆ど實効なく非常の大損害を以て了りたり。此事は旅順より來たる者の一齊に説く所なれば疑ひなからん。其他の諸戦闘に就き一般の公認する日本軍の死傷數より推斷するに日本軍が此旅順攻圍に於て南山奪取の端緒戰より今日に至るまで其戦闘力を失ひたる兵數は合計三萬人より下らざること確實なるが如し。予が當港に逃れ來たれる人々よりも一層確實にして信すべき筋より聞く所を以てするに、初め旅順攻圍に向けたる

軍隊は衆多なりしも諸處に打破られ日々船載し來たる豫備隊のみにては不足を來たし、因つて北方に運動せる一軍より或部隊を招致して之を増加するの絶對必要を生ずるに至れりと云へり。日本人が何月何日には必らず旅順を奪取すと宣言したるは無法極まれり、予は之に就きて思ひ出すは南阿戰爭の際英國政府が戰場に勤務するブリア兵に對して何時何日にはトランスヴァールを合併す、同日限りまでに投降し來たらざるものは謀叛人として處置せんと宣言したる一事なり。英國政府の此宣言も實に笑ふべき極みなりき。今日は八月廿九日なり、然るに旅順の形勢は依然たり。予は露軍は來月の今日までは必らず旅順を防守し得るを確信するものなり、之がためには如何なる賭をもなすを憚らず。十弗に對して百弗は愚かその幾層倍をも賭くるに躊躇せずと。

又香港テレグラフは曰く、露軍は幾何の間旅順口を防守し得るやは世人の豫測紛々たるも吾人若し守兵勇敢防禦堅固なる要塞を攻圍に由つて略取するには、如何なる方法に由るべき乎に考へ及ぶときは、其期は日本軍が大攻撃を開始したる日より早くも六週間の日子を経ざれば成功すること能はざるべしと思惟

せざるを得ず。今日何人と雖旅順攻撃の成行如何を明知するに由なし。何となれば新式の要塞が猛烈なる爆發力を有する砲彈及び最高度の砲火により攻撃せらるゝは今回を以て始めとすればなり。露軍にして士氣沮喪の餘、降伏すれば兎も角、然らずんば所謂正式攻城に由らざるべからず、而して正式攻城は急に其効を收むるを得ず。

攻圍軍既に陣地に就きたる後は塹壕に依りて前進せざるべからず。塹壕は深さ四呎幅十呎餘にして夜間作業し、數哩に亘りて穿掘するを要す。乃ち攻圍は勢ひ長月日を要せざるを得ず。

塹壕に數種あり、軍對壕、輜土對壕、深對壕、盲障對壕等是なり。各特殊の効用あり。其事に應じて之を設く、今紙面限りあり、一々之を説明する能はざれども、近接壕及び平行壕の二語は之を知り置くを要す。仍て茲に聊か説明する所あらん。平行壕は要塞に平行して開掘し、其長さ時に數哩に亘る。砲撃開始の際、攻撃軍要塞を距ること四千碼の所に陣すと想定せば、其陣地を稱して第一砲兵陣地と云ふ。而して攻撃軍は漸次前進せんとするが爲めに、要塞を距ること約三千碼の地に第一

平行壕を作成し、而して兵士及び大砲を安全に此平行壕内に進行せしめんが爲めに近接壕を掘穿す。近接壕とは第一砲兵陣地より平行壕に通する若干の塹壕を云ひ、鋸齒形をなす。蓋し直線なるときは敵火に曝露せらるゝの處れあればなり。

平行壕を開鑿するは、黄昏を待ち、將校若干名工兵を率ゐて前進し、平行壕を開鑿すべき線を劃す。其際各工兵は木材及び卷尺を携帯し、將校は一人の工兵を塹壕線の末端に佇立せしめ、其携ふる所の卷尺を取り、其盡くるまで歩じ、それより更に他の工兵を立たしめて、又其携ふる所の卷尺を取りて其盡くるまで歩じ、以下孰れも斯くの如くし、而して佇立する所の工兵は地中に材を打込み、之に卷尺を結付け以て作業隊の來るを待つ。作業隊は鶴嘴及び鏟を携へて來り、極力就業して黎明までに各長さ五呎幅六呎半深さ四呎の塹壕一個を穿了するを要す。但し前面十八時は深さ僅に一呎半に止め、而して掘上げたる土は各兵其前面に盛り胸壁となす。日出の頃塹壕守備兵と稱する強勢なる軍隊をして、此塹壕に據らしむ。尤も土工は未だ竣功したるにあらず、猶爾後兩夜を要す。斯くの如くして落成

したる塹壕は、底幅十呎餘、頂幅更に廣く、而して深さは四呎にして前面に階段を設け、高さ四呎半の土壁を以て保護す。

此平行壕の背面には砲兵用のため、掩護地を設けざるべからず。是大事業なり、何となれば砲門を安全ならしめんには、高さ三十呎以上の土を積み上げるを要すればなり。斯くして竣工したる塹壕は、即ち第二砲兵陣地にして砲兵並に進む時は、以前に勝る効果を以て砲火を開き、敵砲を沈黙せしむるの機會を有す。

工兵は斯く第一平行壕より起工して、後更に第二平行壕を設くべき線に達するに得るまで近接壕を開鑿す。第二平行壕は敵の要塞よりも寧ろ第一平行壕に近き所に作らざるべからず。これ敵の突撃する時、敵軍の第二平行壕に達せざるに先ち、援兵を得るの便宜を得んが爲めなり。而して第二平行壕は保籃、柳條製無底大籃を使用して作るものなり。但し其形は第一平行壕に同じ。此作業中工兵は大に敵火に曝露せざるを得ず。而して保籃を用ふれば、急速に遮蔽物を作ることを得。第二平行壕竣成し、味方の軍これに占據するに至るときは、工兵は更に前進して第三平行壕を開鑿せざるべからず。昔時は三個の平行壕を以て足れりとせし

が、近時に於ては彈着距離の大なる砲門あるを以て、三個以上を築くの必要あり。ベルフォルの役、獨軍は要塞より千二百碼の所に第三平行壕を築けり。當時佛軍にして降伏せざりしならば、更に一個の平行壕を穿つの必要ありしならん。又南北戦争の際、フグネル要塞攻撃の時は、五個の平行壕を要したり。今回の旅順攻撃には五個以上を要するならん。

攻圍軍が要塞に近づくに従ひ其行動益、困難なるは論を俟たず。之に由つて、爆發物の投射に對しては、其前面に十分之を防ぎ得るの工事を作製し、其遮蔽物の背後にありて行動せざるべからず。斯くの如き工事は、長時日を要す。然るに要塞は間斷なき砲撃に堪へずして降伏することなしとせざれども、ベルフォルの役にありては五十萬發以上の彈丸を雨注し、要塞内の家屋皆彈丸を蒙らざるものなかりしも、尙能く之を支持し、巴里より命令あるに及んで始めて降伏せり。

高角度の爆彈が露軍に如何なる効果を及ぼすべきや、今之を言ふこと能はず。雖露軍飽くまで支持すとせば、日本軍は最終の處にまで平行壕を開掘し、茲に之を占據して最終の攻撃を開始すべし。其行動の順序は兵語を以て之を云へば左



の如し。

- (一) 通路の占領及び通過
- (二) 内岸及び外岸の破壊
- (三) 壕の通過
- (四) 外部破壊口の占領及び冠塞をなし、引續き大工事の施行
- (五) 内堡即ち複廓の最終の破壊

此攻撃は幾多人命を殞すべき惨憺たるものたらん、而も成功を必ずすべからざるものあり。蓋し攻圍軍は友軍の來援を待み得て、心自ら強きは之あり。而して要塞守兵は之に反して、糧食缺乏の爲めに衰弱し、長時日の砲撃の爲めに意氣沮喪することあり。然れども攻圍軍には幾多の艱難あり。敵の小銃機關砲及び野戦砲の發火に其身體を曝露し、通路には許多の地雷あり。其危険を冒して行動せざるべからざるなり。

旅順口には本堡砦の外方遠く隔離して、分堡砦の存するあり。之を攻拔するにも一々上記の手段を盡くさざるべからず。此等分堡砲砦の全數、又は少くとも二個

を略取する時は、本堡砦に向け、逐次近接壕及び平行壕を築くを要す。されば要塞を攻圍して略取するに至るまで、長時日を要するは明かなり。然れども若干日の砲撃後忽ち降伏したる要塞尠からず、普佛戰爭中之が實例十有餘ありき。

其二 此時期に於て彼等は如何に一般的觀察を下せしか  
 ラ、プチッド・レヒブリックは曰く、露國に取つて最後の希望は、日本が滿洲に於ける一切の陣地より露軍を驅逐せる後、其兵力を西伯利西國境に駐屯せしめ、韓國及び關東半島に日本の勢力を確立するを以て、満足するならんとの一事なりとす。此希望にして果して克く事實を得ば、露國將校等は其曆書に載せたる數多列聖の靈前に於て、或はその敗北の一層甚だしからざりしを謝するならん。蓋し日本人は今日に至るまで、既に十分其思慮に富める事を表示したるに因り、彼等は必ずや西伯利西遠征の如き無謀の計畫に出づる事なかるべし。元來日本の希望は韓國を獲得するにありき。而して、かれ今や既に之を取得し、將來に於ても亦之を保有すべく、此一點を以て日本の欲する所を盡くせるものと云ふべし。  
 露國敗北の理由に至りては、これ吾人の屢、指示したる所なり。惟ふに露國の意氣

銷沈せると未だ嘗て今日の如く甚だじきはなく、同國の上下を通じて勇氣沮喪せりと云はんよりも、寧ろ無頓着の有様なり。聖彼得堡に於ける外國人等は、所謂露國の上流社會なるものが、恰も太平無事の日の如く遊樂に沈溺するを見て、一驚を喫するは尤もの次第なりと云ふべく、劇場は見物人を以て充溢し、諸大公及び近衛の士官等はシャンパンを鯨飲し、衆庶は談笑謠歌せり。人民は尙忍耐力を保有するも、戰場にある兵士は、最早日本軍に對し開戦當時に於ける程の抵抗を試みる者なく、貴族軍隊人民は擧げて祖國の運命を關知せざるものゝ如し。蓋し彼等は過度に熱心を現はすの理なきなり。貴族は唯快樂を求むるの外餘念なく、而して軍隊は新鮮なる食糧の缺乏に依りて衰弱し、軍需屢備はらず、軍艦水雷艇の自ら爆發沈没するが如き、其罪偏に長官等の専門的技能缺乏すると、監督官の私曲多きとに歸するものとす。兵士に至りては果して如何なる動機か克く之を驅りて勇敢ならしむるものぞ。彼等は何物に對し、其忠誠を抽んづべきか。皇帝に向ふか、彼等が皇帝を知るは、其徵稅者たるを以てのみ。然らば祖國に向ふか、彼等の爲めに祖國たるものは、其實決して存在せざるなり。彼等は何等の權利も何等の

保障をも有することなく、生殺與奪の權悉く君主一人の方寸にあるのみ。此一事こそ即ち露西亞帝國の傾頹を致す所以なりとす。凡そ一國人民が戰闘に於て勝者たらんとするには、熱心を以て之に従事することを要す。熱心は理想又は渴望するに因りて生ず。例へば往時蠻人が羅馬を侵略せしは、富有なる掠奪物を得んとの希望に驅られ、又革命當時の佛國農民は自由を愛するの一念に依りて、遂に歐洲を風靡したるが如し。今や露國の兵士は滿洲に於て、自由掠奪兩つながら之を獲取する能はざるを知了せり。これ彼等が退却して、速に荒寒たる地方に至らんことを希望して止まざる所以なり。兵士の長官亦更に熱誠事に當るものなく、露皇は唯徒に涕泣せり。而もこれ決して其臣民を激勵するの途にあらず。若し露國の状態を以て、之を其對手國たる日本の状態に比較せんに、噫、是何等好箇の對照ぞや。日本の將校及び水兵は船體の沈没し了らんとするに際して、毫も紊れず、泰然として一齊射撃を行ひ、死を見る歸するが如く、瞬時と雖躊躇する所なし。又陸上にあつては、諸隊相踵いで必死の巷に突進せり。是皆正に改進の途にある一國民の大活動力にして、何者と雖克く之に抵抗する能はざるべし。日本人は既に

開明國間に伍するにも拘らず、なほ進んで一等國に列せんことを欲せり。彼等は國民的自負心を以て其動機とし、軍事に及び工業上、泰西諸國民に優らざるまでも、少なくとも之と同等の大國民たらんことを欲せり。蓋し彼等は自ら努力して到達し得べき現實の理想を有するものなり。抑も日本國民は、各個人悉く戰勝と利害關係を有することを自覺し、戰勝の結果は、頓て生産の増加を來たし、總て收益及び報償の増加すべき事を期待せり。彼等が愛國心及び勇武の旺盛なる亦故あり、と云ふべきなり。

英國にて有名のヘンリー・ブチア氏は、眞理紙上に述べて曰く、軍事専門家の説に據れば、敵に對しては前面攻撃を加へ、之を撃退するが爲めに、其兵力の幾分を殺傷するを必要とす。而して、この殺傷の割合は歐洲諸國民に於ては殆ど同一なり。予は曾て佛國砲兵隊に従軍したることありしに、其時該隊は幸國歩兵の大部隊を認めて之に向ひたり。該砲兵隊の司令官は予の友人なりしを以て、予は非戰闘員なるも幸國兵は之を認むること能はざるべきを以て、身を退かんと欲す。この意を告げたるに、司令官は予に保證して退かざるも安全なることを告げ、且

つ曰く、進撃軍の或地點に達するや否や之に向つて砲火を開くべく、斯くする時は幸兵如何に勇敢なるも、必らず退却すべきと數學上確實なる所なり。故に予は留まりて事の成行を注視したるに、最初砲門の開かれし時は、幸兵は尙進行したれども、前より緩にして遂に其進行を止めて退却したり。日本兵は殆ど此數學上の原則を知らざるが如し。生存者は多くは戰闘の外に置かれ得るに拘らず、尙進行を繼續せる。日本兵は、死を避くるよりも寧ろ特に之を願ふ者の如し。而して此精神状態は日本兵をして日本兵たらしむる所以なり。之を古へに顧みるに、羅馬帝國の時代に於けるゲルマン人及び其他の野蠻人は、恰も此くの如くなり。彼等は一般に戦ひ勝ちたり、然らずんば死したり、而して彼等の概ね死する者少なかりしは、羅馬人の武器訓練共に優越なりしに因る。されど日本兵は、全歐洲國民の軍隊の如く善く訓練を受け居ると共に、善く武装せり。又其指揮官は戰場に於て歐洲の指揮官に或は優る所あらずとするも、其同等なるは明白なり。米國醫師シーマン氏は、日本兵の強きことに注目し、先般日本に來りてこれを研究したるが、氏は斷言して謂へらく、日本軍の強き所以に就いては、或はその愛國

心盛んなるに由るといひ、或は死を輕んずるに由るといひ、或は天然軍人の才あるに由るといひ、或は此等三原因の相合するに由るといふも、予の見る所を以てすれば、日本人の食物は、其根本原因なるが如しと、氏は尙語つて曰く、日本人は今や益、自ら其力量を發揮し、近代の歴史中、最も世界の注目を惹く國民たらんとす。日本人は非常の忍耐力、潜勢力を有し、殊に其負傷を受けて生存するの力は、各文明國軍隊に優れり。キンシエンチンの會戦には、彼等は三日間百十八哩を行進し、夜間大河を渡り、大優勢の敵を迎へて之を撃破し、更に少時の休憩をもなさず、馬を飛ばして敵を追撃すると百三十九哩、能く其砲を鹵獲せり。此くの如きは、羅馬のシーザーの軍隊に優らざるまでも、相匹儔するに足り、殆ど人力の能くする所にあらず。予は六月日本に來り、病院を訪ふに及んで、益、其異常なるに驚けり。予は傷兵を見るに、彈丸に腦中を貫通せられたるあり、心臟一時の處を貫通せられたるあり、肺を貫通せられたるあり、胃及び腹部等を貫通せられたるあり。而も孰れも能く生存し、漸次快方に向はんとす。こは敢て未曾有の事なりとは謂はざるも、傷者死亡率と軍隊の健康とは、最も予をして注意せしめたるなり。此卓偉の状態

に就きては、唯一の原因あり。日本兵は食ふべき物と、食ふべき時とを知ること、即ち是なり。茲に於て日本人には、ユーリヤ(尿素)の少量なるにあり。各文明國の軍隊は生肉、罐詰植物等の濃厚なる炭素成分の物を食ふが故に、ユーリヤを過度に生ずるに至る。此ユーリヤは外科醫の最も恐るゝ所なり。即ち若し歐米人が軍隊に與ふる濃厚なる食物を取り去れば、病院に於ける死者中の三分の二を救ふことを得ん。日本人の食物は皆身體の營養と化し去るものなり。日本病院に入りて更に眼を惹きたるは、截断手術を行ふこと稀なることなり。予は傷者二十人に就きて、脚部を截断したるものは、僅に二名を見たのみ。今日以前の戦争ならば、必らず多くは截断術を施したるならん。蓋し日本人はバスケツール及びピスタノの非干涉説の大教訓を知了するものなり。彼等は其患者に對するに、主として飲食物、日光、被服に注意して治療は自然療法に一任し、刀を振ふと稀れなり。日本人の近世外科醫術に對する、亦採長補短の利を知るものと謂ふべし云々。

露國のルスコエスロウオ新聞は、日本軍の戰術を評して曰く、曾て吾々が日本人

を矮小なる弱兵と輕侮したるは、抑も誤りの根本にして、今日に及べる戰鬪の経過より之を見れば、其精銳なる強兵たる事は、古來其例を見ざる所、彼等の動作が飽く迄敏捷なると同時に、其戰術の如きも彼等の性質に適合し、所謂最新式のものを集めたるものゝ如く、一二の實例を擧ぐれば、彼等は騎兵を用ふれば諸種の不利益あるを知悉し、騎兵の前進には必らず歩兵一個聯隊を跟隨せしめ、我兵其騎兵を迎へ戦はんとするや、後方の歩兵は急霰の如く射撃を行ひ、我軍をして狼狽なす所を知らしめざりし事あり。又彼等の偵察に巧みなるは、常に我軍に一驚を喫せしむる所にして、其行軍を始むるや、先づ斥候を放ちて、凡そ五露里を隔てて、歩兵より成る一部隊を續行せしめ、若し其地形が山地なる時は、日に僅に七里を進行す。斯かる際には、其一步一步に防禦工事を行ひ、恰も要塞を連結したるが如きものを歩々の間に築造す。其奇々妙々の動作は、驚嘆するの外なく、然も偵察の任務中之を行ふの餘裕ある事に至りては、日本人の外他に斯かる人種あるべからざるを信す。斯くして彼等攻撃を開始せんとするや、前進せる部隊は左右に開展し、以て後方部隊に發火の準備をなさしめ、然る後其前進部隊は後方に駛走

して戰鬪序列に就き、豫備隊を形成す。其間に於て敵狀は前部隊より後部隊に普く通せらる。我露軍が常に意外の大敗を取るは、敵の猿猴に等しき敏捷なる動作の致す所に依らずんばあるべからず。又彼等は此敏捷に加ふるに、飽くまで持重心を保ち、縦隊の外に其周圍に斥候を放ち、山脈を傳うて偵察を行はしむるを以て、行進緩漫なるも危険なる事なしと。黒木軍に従軍したる米國の一通信員は曰く、準備あるもの勝つ。一日露戰爭の教訓は、日々軍事視察者の眼前に顯出するも、今日に至るまで未だ革命的教訓あるを發見せず。凡そ軍事上何よりも緊要なるは、平日より事毎に注意し、事に當りて分秒を差へず、圓滑に活動するの準備あり。日本軍之ありて、露帝の軍之なし。故に勇卒をして、空しく死なしむるなり。露軍の砲兵——七月三十一日塔灣附近に於ける露國砲兵の動作は、日本軍も之を稱讚せり。之を鴨綠江に比すれば、同日の談にあらず。以て露國陸軍砲兵科のために氣を吐くに足る。其砲列陣地は能く地理を察して之を選定し、日本軍は終日苦戦し、砲兵をして數陣地を變換せしむるに至れり。其砲手亦勇猛に射撃し、戦後其

陣地を踏むに、榴霰弾は一呎の下に破裂し、通常榴霰弾は火砲の上面なる地上數呎の處に大孔を穿てり。歐洲新聞には日本砲の優勢を擧ぐるも、今日の成績を以てせば、西諺に所謂成功は善き者を善く用ふる上にあらずして、惡き者を善く用ふるにありといふもの、能く茲に引用すべし。且つ専門家の實地を自撃せる者の意見を以てするに、露軍の砲煩は日本軍の砲煩に優り、日本砲六門を用ふるにあらずんば、露國砲四門を沈黙せしむること能はざるを云へり。唯、露軍の歩兵—は力之に稱はず、若し其據る所の塹壕に於て、プーア人の如き好射手を得て之に據らしむれば、日本軍敢て大損害を冒すにあらずんば、決して之を奪取する能はざるべし。當時其據守せる高地線の頂上及び側面には有力なる塹壕を開掘し、而して日本歩兵が各地中を進み丘陵に接近するに、掩蔽物とては殆ど之なかりしなり。然も露軍歩兵は二十人ばかり射倒さるゝや之を撤退したり。殆ど抵抗なきものなりき。

帥兵の伎倆—加之、露軍の帥兵術は又鴨綠江に於けると同様の失策をなしたり。日本軍左翼の正面に立ちし歩兵は、善く戦ひ、又巧みに機動せしも、夜に入り露軍

歩兵二中隊塔灣の北方に顯はれて日本右翼の正面に出づるや、一發火をもなさずして退却したるが、其運動は思ふに何の目的に出でしやを知らず。警嶺に於ては露兵一千人粉碎せられしが、戦場には樂手戦死し、樂器を委棄しありたり。是、蛤蟆塘に於けるが如く、其士卒の勇猛畢竟犬死たるの好例を示すものなり。現に其猛火中を行進するや、四列の密集縱隊を造り、列伍撃倒せらるゝも、決して一人も隊伍を脱せず、逃走せず、退却せざりき。其勇や稱すべし。然れども其勇も畢竟空用の犠牲たるを免れざるは、皆將校帥兵術を解せざるの責なり。

帥兵術相差ふ—露軍將校就中將官中に死傷多くして、日本將官に少なき所以を按ずるに、蓋し日本將校は戦闘の指導者たるに反し、露國將校は其國スコペレンフ將軍の舊傳來を逐ひて、自ら戦闘部隊の先頭に立ち、親しく之を指揮す。即ち兩者帥兵の原則相差ふに由るものなり。身、日本軍隊の戦線にあつて露軍を臨むに、百般の將校軍隊の前頭に馬を驅るを見ん。然るに露軍より日本軍を望めば之を見ず。蓋し其將校は皆下士卒と同様の服を着し、一見之を識る能はざるのみならず、黒木大將以下の將官は概ね皆戦闘線外にありて、電話電信に依つて戦闘を指導

するが故なり。日本軍電氣の應用——蓋し古來の戰爭にて、最も廣く電氣を利用したるは、日本軍を以て嚆矢とすべし。野戰師團長は皆之に依りて各旅團長に命令し、各旅團長は皆また之に依りて各團隊司令官に命令す。而して電信隊の電線を架設するの輕妙神速なるは、最も驚くべき者あり。縱隊既に發し、正面又既に砲聲を聞く、此時電信隊は其本部を發し、數束の竹を馬に駄し、人夫は電線を車に積み、後より尾して轆き走るなり。竹は皆削りて其先を尖らし、之を地中に刺して柱となり、輪に巻かれたる電線は、人之を解きながら走りて竹より竹へと架し、時を移さずして一條の野戰電話線成る。往いて露軍の管て占據せし處を見るに、電線なく又電柱なく、安平より北京に至る舊支那線あるの外、一も露人の廣く之を使用したる痕あるを見ず。

日本將官は實を貴ぶ——之に由つて露國將官は、日本將官よりも華やかに、隨つて戰團中兵卒を鼓舞する効亦之あらんと雖、日本將官は之に反して極めて事務的なり。貴ぶ處は、實効を收むるにありて、場に上りて自ら伎を演ずるの華役を勤め

ず。日本軍は檢閲嚴にして、時に敵をして我兵力軍隊を視察するの料を與ふるを嫌ふの餘り、大戰團に於て各指揮官の隊號姓名をも通信するを許さず。之が爲めに良將官ありて、世間割合に其人を知らず。岡崎少將は戰略家なり、戰團家なり。七月四日摩天嶺の逆襲に於て、黎明濃霧の中に軍隊を聚致して、以て露軍の爲めに奪取せらるゝなからしめ、又七月十七日ケルレル中將の逆襲に際し、巧みに其軍隊を様子嶺の高地岩石上に配置し、眼下に露兵を射撃し、之を僵すこと一千に及ばしめたり。乃ち之をして英國若くは米國にあらしめば、少將は必らず世間の大立物となりて、持囃されんも、日本新聞紙は特に特派員を出して其軍に従はしめたるものと雖、亦少將の姓名をすら掲ぐるを得ざるなり。若し之をして、他國の陸軍——にあらしめ、將官をして其伎倆を世間に顯はすを得せしめば、則ち如何。此等の事は日本軍に従軍せる通信員にして始めて、之を察し得るなり。人黒木大將の名を知る。黒木大將は恬淡素朴、かの馬を駈り軍を巡り、叱咤獎勵これ事とする將官にあらずして、寧ろモルトケ一流の人物なり。蓋し黒木流は日本陸軍に通ずる流なるが如し。吾人黒木大將を看るに、其戦ひを行ふや、皆豫め計りて熱

する所あるが如く、靜坐無爲、萬其必勝を信じて、念頭又戦ひなき者に似たり。七月三十一日、麾下の歩兵は谷地を行進して、高地の塹壕に據る露軍を攻撃する大危機に際して、大將は遠く隊後一佛寺の中庭に其幕僚と諧謔談笑酒然として、毫も平日に異ならざりき。此等の圖や、机上案を下す畫家の描き及ばざる所なり。靜肅なる軍隊―黒木大將麾下の軍、皆大將に似たり。宜しく之を稱して、緘黙なる軍隊と云ふべし。露國軍隊は皆聯隊軍樂隊を有し、毎日日没に至れば、軍樂を奏し、又その行軍し其攻進するに當りても、皆兵卒は太鼓の聲に伴はれて前進す。又夕にはスーブの鍋を圍み、讚美歌を謠ひ、時あつては其陣營に慷慨愛國の唱歌一齊に起り、聲遠く山を渡り、日本軍哨兵の耳に入る。然れども日本軍營にありては、然らず。歩兵は固より樂隊を具へ、平時の行軍には喇叭の聲に伴はれて行進すと雖、戦線附近にありては、曾て喇叭の聲を聴かず、また軍歌を謠ふを見ず。近衛樂隊は折々司令部に來りて奏樂することあり、鳳凰城戦死者弔魂祭には、祭式の終りに其吹奏を聴きたり。然れども音樂は平素より軍隊の常に樂む所にあらず。唯その熱誠の表現して、我等の耳に入るものとは、戦ひ勝つ時の、かの士氣を振起せし

むる一種の魔力ある萬歳の聲のみ。敵陣を突撃するときは一、同此萬歳を叫びつつ勇ましく前進するなり。さりとして日本軍隊は、他國の軍隊の如く、飲酒の快を取るものにもあらず。從軍を許可せられたる酒保は、巻煙草、扇、靴下、手巾、齒磨、刷子、巻紙、封筒を賣るのみ。酒や麥酒を購はんには、最も近きも後方五十哩なる鳳凰城に到らざるべからず。故に將校は多少之を得る便もあれども、兵卒は全く之を得る能はざるなり。露軍の特有物―故に日本軍隊には三鞭酒及び露國火酒を賣る飲食店なく、紅顏綠髮の歌妓の侍んべる珈琲店なし。こは露國の特有物にして、日本陣中にあつては、婦人は貴きも卑きも一切無用なりとして、近づかじめず。日本兵の娛樂―茶扇、巻煙草は日本兵卒の贅澤品なり。釣を垂れ、手紙を認め、新聞紙を読むは、日本兵卒の此上なき娛樂なり。されば野戰郵便夫は毎日多量の郵便物を運搬し、安東縣と戦地との間を往來するを見るべく、また馬に跨り各陣營を巡れば、數百名の兵卒が樹蔭清涼の處に、跼して筆を執り、巻紙に美術的短歌發句を認め居るを見るなり。將校の最も氣になすは、鐵の大釜なり。行軍の時、之を



網に入れ、二つづゝ馬につけゆくなり。釜は以て中隊が飯を炊き、又行水の湯を沸かす。陣中には壘の幾枚敷を割して湯殿を設け、石を累ねて竈を作り、釜を据ゑ火を焚き浴を取るは、これ彼等が無上の娛樂なり。

日本兵の扇―兵卒、殊に日本兵の如き女々しからざる兵卒にして、扇とは不似合なるが如く、昨日(八月十一日)歩兵一大隊殆ど熱帯の溽熱に等しき赫々たる日光に照らされ、沙塵濛々と立つ畑中を汗たら〜と流し、扇を使ひつゝ行進するを見たり。保守的なる歐洲の従軍武官は、馬の鞍と兵卒の包みより扇と樂鐘とのみ出でたるを見て、頗るこれを異とせしが、これは日本の歐洲化したる軍隊にも舊日本の名残を止めたるものにて、其重量とても格別重からず、而も以て兵士の娛樂を助くること大なれば、毫も咎むるに及ばず。又日本兵卒が本國平生の樂みを齎らせるは、釣魚の遊びなり。兵卒は皆背囊に釣綸を藏め、上は軍司令官より下は主人の馬の後を逐ふ賤しき従僕に至るまで、孰れも釣の名人なり。鋭き眼したる青年兵卒が、谷川の汀に綸を垂れ、釣針の虫に三吋ばかりの鱸魚の掛かるを釣り上げんとて、長き時間堪へ待つあどげなき様を見れば、これが榴霰彈雨注の下

に、岩石峨々たる絶壁を攀登して敵壘を襲奪し、威名世に聞えし大男のゴサックを生擒じ來たる、同じ猛兵勇卒かとも見えざるなり。

日本兵の潔白―日本兵卒の正直と懇切とは、尤もこれを稱せざるべからず。凡そ軍隊中にあつて、極めて不自由なる生活をなす身には、贅澤品を前に陳ぶれば、欲じよと思ふ心起らずとせず。然るに日本兵に至つては、斷じてかゝる事なく、日本軍に従軍せる各國通信員は、手荷物を出し、贅澤品を見せつくるも、決して何一つ偷まるゝことなし。煙草一本、食物の一片も決してなくなりしこと云ふを聞かず。此等は他國の兵卒には期すべからざる所なりと譯して此に至る其日本兵の正直を稱するは可なり。然れども其説く所は筆者日本兵を激稱せん積りなれども、品位教育ある日本兵、豈此等の陋々を要するものならんや。寧ろ禮なことを謂はん。之に由つて見るも、他國の兵卒の品位如何を知るべく、殊に露の兵などに至つては、偷盜は恬として恥ぢざる所なり。事此に至つては、豈又強弱優劣を争ふの要あらんや。その日本兵の敵にあらざるは當然のみ。

又和蘭國輿論の趨勢は、同地發の所報に詳かなり。曰く、露國が旅順守備兵に自由

退却を許すの條件を以て、旅順の放棄を提議したりとの世評あるや、海牙發刊のダッブプラットは其七月五日の紙上に論じて曰く、露國は今日強いて無益の鮮血を流すを欲せず。頃者佛國を介して旅順守備兵に自由退却を許すの條件を以て、該地を拋棄せんとを提議したりとの風説あり。然れども吾人は未だ之を信する能はず。元來露國は開戦以來、僅に浦鹽艦隊の成功を得たる外、海に陸に皆戦ひ敗れたるが故に、現下の状況に省み、輕々しく戦争の目的たる旅順を敵手に委する者にあらず。況んや露國の意氣は、浦鹽艦隊の成功に因つて頗る旺盛なるに至れるに於てをや。世人或は以爲らく、戦争終局を告ぐるは、遠きにあらざるべしと。然れども是又吾人の信する能はざる所、何となれば露國はバルチック艦隊の極東派遣を計畫し居れるを以て、其計畫の目的を達する間は、飽く迄旅順を固守すべきは秋毫も疑ひを容れざればなり。日露兩國孰れか先づ媾和條約の提議者たるべきやは未だ知るべからずと雖、近頃日本の首都に催されたる或集會の評によれば、平和克復に關する日本の最低要求は、露國をして滿洲を清國に還附せしむるにありと云ふ。然も旅順をも其内に包含するや否やは不明なるも、韓國の保護、浦鹽

港の割取、西伯利亞鐵道の列國保管等は、亦其要求條件中にありと云ふ。されど今日の場合斯くの如き要求は、唯希望すると云ふ事だけは容易なるべきも、直に實行せん事は極めて困難なり。故に吾人の所見を以てすれば、此くの如き事柄の今日に於て要求さるゝは、時機尙早きに失したるが如し。然るに尙強ち之を促迫するは、決して得策にあらず。蓋し何時意外なる事變の發生すべきや、逆め測知し難ければなり云々と。爾餘の新聞は本件を以て單に風説に過ぎずと推定し、別に何等の詳論を試みず。

旅順に於て、日本軍の死傷三萬に達せりとの風評傳はるや、蘭國新聞は殆ど之に信を措く者なかりしが、ニウロツテルダムシニクローランドは、其後數日を経て即ち其七月十七日の紙上に於て論評を試みたり。曰く、日本軍が露軍の爲めに粉碎せられたりとの警報は、全く無意義の風説にして之を東京より到着せる公報に徴せば、右は單に前衛の小衝突に過ぎりしと判然せり。抑、此警報たるや、滿洲の曠野に於て、炎熱燒くが如き日光に晒されたる從軍記者が、其腦底より案出せる一種の誇張捏造説にして、此種の報道は今尙續出せん。然るに連戦連敗の後、斯かる

捏造説を得て、馮餘甘露を得たる如き思ひをなし、直に之を一口に吞込みたる東亞總督アレキシンプ、並に之を世界に傳播したる聖彼得堡の參謀本部は、先づ一番に之が爲めに世界の嘲笑を招き、其極露國側の報道は、其公報たるを否とに拘らず、殆ど何の信用なきに至りしは、實に露國の爲めに惜まざるを得ず。開戦の始め、日本艦隊が旅順口を攻撃したる際の如き、露國の公報は、卒直にして一般の信用を繋ぎ、露國政府が事實を陰蔽せざる宏量は、大に世人の尊敬を博したりと雖、爾後數次の戦敗は、漸く其影響を戦報に及ぼし、遂に虚偽の報道を敢てするに至り、露國の參謀本部は、妄りに戦報を作爲し、動もすれば世人の知らざる數多の地名を挿入羅列し、其些々たる戦闘に關しても、尙且つ冗長の贅文を弄し、努めて事實を曖昧模稜の裏に没却するに拘らず、其重大なる事件に至りては、却つて全く報道を怠る者の如し。試に看よ、九連城戦に關しては、吾人は兎に角明白なる露國の公報に接したりと雖、其金州の役、瓦房溝の役に關しては、吾人は未だ其死傷に關する公報すら得る能はざるにあらずや。要するに其敗報は、如何に時日を経過するも、之を知るに由なし。其從軍記者の如きも、嚴重なる束縛を受け、吉報にあ

らざれば公表するを許されず。世間の傳ふる所に依れば、露軍は一に日本軍の進退に従つて、自己の地位を變更しつゝありと云ふに過ぎず。是に於てか、露國の戦報は、殆ど信を措くに足らず。然るに日本の報道に至つては如何。日本新聞紙の報する所の如きは、これまた悉く信を置くに足らず。日本の新聞記者は、動もすれば自負に過ぎ、餘りに最終の勝利を妄信したる傾向あり。されど公平に批評すれば、日本の公報の明瞭にして、且つ信憑するに足るは、吾人明言するを憚らず。重大なる要件は、必らず常に公報を以て發表さる。例せば、初瀬、吉野、宮古、海門の諸艦を失へるに際しても、毫も何の隱蔽されたるものあらざりしなり。日本人は、其行動を明示するの時機到來する迄は、深く秘して之を世に漏洩せしめざるの術に長じたるも、之は即ち軍略上の秘訣なりとす。將來歐洲の二國間に戦端を開くに方り、何等の強國と雖、現下日本軍が收めつゝある勝利以上の勝利は、之を占むること能はずとの世評亦一理なしとせざるなりと。

ハーゲ、ニウク、ラントは、その七月十九日の紙上に、前陸軍大臣陸軍中將シーデ、シユネイデル氏の寄稿に係る論文を載せたり。題して日本人の作戦動作と云

ふ。その要に曰く、今次の戦争に於ける日本人の作戦動作に關して、世人若し單に渠等が戦術の熟達と決死の意氣並に邦家の安危に關する自信力の確乎たることのみを以て、彼等を稱讚せば、是未だ其當を得たる者にあらず。蓋し此戦闘に際して、彼等が發揮せし幾多の特質中、其活潑なる動作と、其周到なる用意とは、實に特筆せざるべからざる者あればなり。大抵數多の特質を具有すれば、動もすれば互に反撥乖離して、併行一致し難きは往々免れざる所なり。然るに日本人にありては幾多の特質を具有するにも拘らず、其特質互に能く調和して、整然亂れざるは、吾人の最も注目を要すべき所にして、此調和は以て大に彼等の作戦進歩に與かりて力ありしと疑ひを容れず。吾人は日本海軍が慘憺たる苦痛に耐へ、此類ひなき不撓の精神を以て、遂にかの一大難事たる旅順閉塞の壯舉を遂行し、渠等の企望を達するに至れる事實を認めたり。想ふに開戦以來、渠等が被むりし損害は果して何程なりしか。渠等は秘して未だ之を公にせずと雖、今や既に五ヶ月を閱す。此間絶えず戦闘を繼續せるを以て、其結果戦闘力を減殺せしこと、尠少にあらず。然らんとは、世人の齊しく推察する所なり。然れども退いて深く之を考察するに、

れば、渠等は露國の艦隊を海上に誘出し、以て之と雌雄を決せんと試みることを一再に止まらず、其間艦艇を修繕するの餘暇なし。然るに尙進んで其戦ひを繼續せんとする所以のものは、畢竟其艦隊が露國の艦隊よりも優勢にして、戦へば必ず撃破し得ることを確信せるが爲めなり。これ實に、日本海軍の用意周到なるに因つて然るものとす。

要するに、彼等が旅順閉塞の事業を遂行するに當りてや、作戦計畫上の最大必要件として、常に戦闘力を充實せる屈強の一大海軍力を保有する事に就きて、深く注意したるものなり。又眼を轉じて陸上戦を觀察するに、日本の陸軍は韓國を経て鴨綠江に進軍したるが、其進軍は亦極めて周到の用意を以てし、寧ろ遅緩に失すと評するも不可なきが如くなりき。今尙世人の記憶に存する如く、日本軍が遂に鴨綠江を横斷し、露軍に加ふるに猛烈の打撃を以てし、直に茲に一大勝利を收むるに至りし迄は、世人は日々、日本軍の渡江を待ち侘び、殆ど其緩漫に耐ふる能はざる者の如くなりき。而して又其一旦江を渡るや、世人は皆以て、日本軍が勢ひに乗じて直に露軍を追撃し、南方に於ける遼東半島上陸の部隊と聯絡を通ずる

ならんと豫想したりき。然も彼等の處置は茲に出でず。悠然として單に鳳凰城を略し、茲に暫らく行軍を停止したり。而して此等の軍隊は電線に依つて東京と相通信し、一舉一動皆東京の電命に待ちたる者の如し。但し今日にありては、大山元帥滿洲軍總司令官として既に滿洲にあるを以て、今後の行動は或は必らず一變するに至るべきを疑はず。其始め日本の第一軍が久しく鳳凰城に對陣し、殆ど休戦の狀勢を装ひしとも、亦全く渠等の注意周到なる所と、爾後將に飛躍せんとする一大活動の狀態を示せる者にして、即ち事緩なれば確なるを得との金言は、實に渠等の行動に適合する者なり。緩にして且つ確なり、これ洵に各方面に於ける日本軍行動の謂ひなり。渠等は常に一方に於ては、其作戰の性質と目的とに關して敵をして其推定を愆らしめ、他方に於て常に眼を兩軍相互の聯絡に絶たず、日本の軍隊に對峙する露國の軍隊をして、退却の已むなきに至らしむべき準備を整へたり。これ既往に於ける日本軍全體の動作にして、金州に於て然り、瓦房溝に於て然り、近くは又蓋平に於て然り。斯くの如くにして、日本軍は連戦連勝、今又露軍の右翼と相對峙するに至れり。以上叙ぶるが如く、日本軍が今日まで比類なき

好結果を收め得たるは、眞に其熟練の致す所なるは固より論なきと雖、其東方より進む軍と南方より進む一軍と相聯絡するに際して、渠等は露軍の攻撃を被るなく、又幾多の山路を跋渉するに方り、其途上別に著しき障礙に遭遇せざりしは、一大僥倖と謂はざるべからず。若し日本の兩軍が聯絡を通ずるに際して、世人の一般に想像したるが如く、露軍の爲めに攻撃を加へられ、或は山道を跋渉するに際して、一大障礙に遭遇したらんには、渠等は其既に進行したるが如く、爾かく容易に山道を直下して、平野に突進する能はざりしやも知るべからず。若しそれ露軍の行動に關して、世人は以て無能と云ふの外、別に批評をなすに苦むこと往往之あり。從來日本軍は其敵手と相對峙するや、敵手をして常に先づ自ら防禦の態度を執るの已むなきに至らしめ、之に因つて自ら大に士氣を鼓舞し、益、その行動をして敏活ならしむるの策略に出で、以て著大なる戦功を收め來りたるが、今後に於ても亦此方略に出づるならん。凡そ受動的作戰の不利にして、結局に勝利を制する能はざるは固より論なく、遂には其既に占有したる地點と雖、安全に保持する能はざるに至るは著明なる事實にして、かの露軍が滿洲に於て連戦連敗

を累ぬるに至りしも、皆全く之が爲めなり。獨逸のツアイツングは、半歳後の戦争觀と題し、論じて曰く、二月八日の夜、日本の海軍が露の旅順艦隊を襲撃せし以來、東亞の戦争は繼續既に六ヶ月に亘り、而して日本が始め戦ひを開くや、巧みに敵の不用意を撃ち、十分の成功を得たるは、世人舉げて之を認むるも、其終局の勝敗に關する意見に至りては、議論區々に涉り、世界の大國たる露は、日本に對して勝利を博し、全然之を征服するを難しとせざる議論亦盛んなり。曰く、露國は歐洲の音楽場裏に於て、久しく調子を指揮するの皇帝を戴き、倨傲なる英國すら、不名譽にも屢、回避するの止むなきに至りたり。日本焉ぞ之に向つて争ふとを得んや。東亞の島國民は、海上の術こそ露に勝ることあるべきも、陸戰に至りては、勝利は必らず露の軍旗に宿るべし。これ毫も疑ひを容れざる所なりと。而して若し之を然らすとて、露の勝利を疑ふものあるときは、忽ち世の嘲笑を招きたり。これ露の軍隊は、歐洲に於て大に畏敬せられ、現に獨逸皇帝すら一八九六年九月六日、ギョルツに於て、露帝を祝するに、世界最大の強兵統率者と稱したる程なればなり。然るに今や果して如何、獨帝の所謂世界の

最大強兵は、開戦後六個月の間に、果して何等の能力を顯はしたるか。東亞戰役の勝敗は、其何れの一方に歸するとするも、今や世人は、露國が今後永く歐洲の強國と戦ひ得るものにあらざるを信せんとするにあらざるや。

露國の外交は、世の稱讚する所にして、其成功は、實際狡猾と頑固に依ると雖、思ふに多くは、對手國の微力怯懦なるに起因し、而して對手國の微力怯懦は、畢竟するに露の兵力を過信したるに因らずんば、あらざるや。今や世人は、曾て露國が久しく戰備を整へ、土耳其に向つて戰端を開きしも、ルーマニヤ國の援を得るに至る迄は、數敗を取りたるを忘却し、又當時露國の執りたる空前絶後の脅喝手段は、之を再演することなかるべきを信じ、露國にして若し戰備完成せざるに於ては、日本に對し開戦に至るを免かれざるが如き、政略に出づべき理由なきと思惟せり。然るに吾人は、果して何等の事實を経験せしか、聖彼得堡の政治家は、其所謂狡猾無智なる敵の畫策行動に對して、茫然なす所を知らず。唯日本との關係、犬猿相容れざるが如きに至りたるは、全く日本の罪惡なりと絶叫せるのみ。露國の軍備は、海陸共に整はず、クロバトキンは、曾て難局に當りて、東亞の征途に上らんとする

に臨み、世人に説くに忍耐を以てし、而も一として其實行あるを見ず。又露國內地の大兵東亞に到達する日数は、精細に計算せられしも、八月に至るまで露人が毎戦敗を取りて、常に其所謂後方に集中するならんとは、最も露國に敬意を有する者すら之を公言するを憚らざりき。今日と雖、亦斯かる論者が日を逐うて減少するは、何人も非認せざる所にして、戦ひの勝敗は智識の如何に依つて決し、兵力の多少に依るものにあらずと云ふも、今日は最早必らずしも之を疑ふものゝみにあらざるなり。曾てキョーニヒグレッツの戦争に於て、普國の學校教師勝を得たるものなりとの説ありしが、これ決して無稽の言にあらず。現に數十年の後ビスマルク公は小學校は國家の防禦力に至大の關係あるを説きたるにあらずや。日本は人口四千五百萬を有し、露は一億四千萬を有するも、日本の就學兒童は四百三十三萬二千六百二十三人の多きに反し、露の就學兒童は僅に四百二十九萬三千五百九十四人に過ぎず。即ち日本の就學兒童は、人口千に對する九十二の割合なれども、露にあつては僅々三十二に過ぎざるなり、而して中學以上の就學者の比例は更に之よりも甚だじきものあり。

此故に教育の點に於ては、日本人は遙に露人に優り、又其勇氣に至りては確に露人と同等なり。曾て我獨逸皇帝は新兵に向つて、堅固なる耶蘇教信者にあざれば、良兵となるを得すと諭し給ひしとあり。思ふに聖意は、該勅諭を讀んで字の如く解釋せらるゝを欲せられざりしならん。兎に角皇帝は、完全なる軍事智識を有せらるゝを以て、日本の將卒が攻防の術に於て、拔群なる所以を認め給ふなるべし。それ日本は耶蘇教信者にあらず、而も其堅忍不拔勇敢決死の狀は敵に對して毫も遜色あらず。彼等は又其戰ふ所以を知る、彼等の將來は海上にあらずして、大陸にあるを解し、又其自由耐忍及び文化の擁護者として、專政暴虐に向つて戦ふ所以を曉れり。之に反し露人は如何。彼等は果して其戦ひをなす所以を知るか。彼等は西伯利亞を経て戰場に輸送せられ、幸ひに生命を全うして、再び本國に歸れば、過日キョーニヒベルグの訴訟事件において、凄慘なる事實を曝露したる殘忍刻薄なる政體は、容捨なく彼等を待ち受けんとするあり。故に露兵の顯はす所の勇氣は、實に稱讚に價ひすと雖、注意を怠らざる傍觀者は、日本兵が同數の露兵に對して勝を制する所以を了解するを難しとせざるなり。露國は假令非常の大兵

を東亞に送遣し、能く其糧食を供給し得て、終に日本を破るゝとするも、然も日本は將來常に列國の尊敬を受け、而して露の數回の戰敗は、終に世に忘却せらるゝの時なかるべきなり。

然り而して、久しく世に唱道せられたる形勢變化は、未だ其兆を現はさず。日本は未だ戰敗を取らざるなり。露國の新聞紙は日本は六ヶ月以來自殺をなすつゝありと云ふと雖、刻下の形勢を以て見るに、死期は尙遠きにあるが如く、而して自殺者は其自己に加へたるよりも、却つて遙に危険なる大創傷を敵國に與へたり。試に見よ。露國皇帝は、各地に於て聖像を兵士に下賜せらるゝに際し、初めは敵國を呼ぶに狡猾無智の敵と稱せられしも、今は却つて強勇なる敵を以てせられ、又世間往々露國は唯一回の戰勝を得ば、直に平和を拒まざるべしと信する者あるに至りたるにあらずや。初め露國は、嗚怒憤懣、斷じて仲裁を拒み、十分に日本を擊破したる後、日本の領内に入り、之に平和條件を指命し、其間又何等の干渉をも容れずと揚言したり、されど思ふに、爾來露都の政治家は、よしや此目的を達し得るとするも、其茲に至るには多數の人命を犠牲に供じ、且つ多數の軍團を戰地に派遣

するの必要あるを豫想するに至れり。日本は縱令一二回戰敗を取ることあるも、決して大局に關係なく、國民は能く全力を擧げて防衛に盡くさざるべからざる所以を曉知し、又其國力は初め世人の豫想したるよりも強固なればなり。人は近世新式の武器を以てする戰爭は、短期間に終局を告ぐるものと信ずると雖、焉んぞそれ然らんや。歐洲文明國の如き、完全なる交通機關を具有する地方に於ける戰爭と、僅に一條の單軌鐵道を以て歐洲との連絡を保つが如き未開の地方に於ける戰爭とは、自ら其趣きを異にするものあり。露軍假令終局の勝利を得るとするも、其戰勝の歡喜を買ふには頗る高價を拂はざるべからず、而も從來失墜せる國威は、此戰勝の爲めに更に回復するを得ざるべし。

抑も露帝國に幸福を與ふるものは、日本に對する戰勝にあらずして、其政治の方針を全然一變するにあり。露國若し、何れの戰爭に於ても、不幸を來せし、腐敗の本源たる專制政體を改めんか、茲に始めて國民と國土の中に伏在する豊富なる力を取りて、之を利用するを得べし。愛國心を有する幾何の國民が、久しく熱望して止まざる文化の進歩と、經濟の發達とは、自由を重んずる開明主義の政府の下に



ありて初めて之を發展するに至るべきなり。露國がその内地に於ける革命を制し、外部に對する威望を回復するは、唯此方法あるのみ。故に刻下の戰爭にして、若し露國の爲めに斯かる利益を與ふるに於ては、終局の戦敗も又其幸福と云はざるべからず。之に反して終局の戦勝若し從來の政體を鞏固ならしむるの機會とならんか。露國の國本は依然として微弱なるを免かれず。其將來は知るべきのみ。又戦後の經濟及び財政に至りても、方今内外人の唱道するよりも、遂に悲境を呈するに至らん。

紐育トリビーンは曰く、

日露戰爭に於ける日本の赫々たる成功は、現世紀の最大驚奇中の一にして、歐羅巴并に米國が、今や眞面目に其成功の秘訣果して何ぞやと質問し始めたは、蓋し偶然の事にあらず。ペリー提督の訪問に依り、日本が覺醒したること、并に西洋文明最良の結果を急速に吸入したることは、歴史に於て其比を見ず。日本は其西洋文明に對する負債を自認するに於て吝ならず。是を以て米國、歐羅巴は、教師が伶俐なる生徒の急速なる進歩に對するが如く、從來此進歩を見て得々たりき。然る

に近來此態度は一變を來たし、西洋列國は自問を始めて曰く、日本より學ぶべきことあらざるか。日本の西洋に負へる負債は、實際に於て從來想像せられたるが如くしかく大ならざるにあらざるかと。この後段の點に就きペリー教授氏は元慶應義塾大學部教授たりは、驚くべき見解を述べ、日本は吾人の想像し來りたるが如き、歐米の智識的小供にあらずとなし。世に斯くの如く誤れるものなし。日本は英國より進むこと一千年にして、又米國に對しても之と同様なるべきを恐る。問題は吾人が果してこれに追ひ附くを得るや否やと云ふにありと云ひ、尙日本人が伶俐なる摸倣者に過ぎずとの説を駁し、其彼等が创作者たり、且つ著しく獨創的探究の傾向あり、伶俐眞面目は其特徴なる證據として、自己が親しく大學に教鞭を執りたる實驗より其事例を擧げたり。此見解たるや、觀察に對して特種の便宜ある教育者の口より出づる者なるを以て、其注意するの價值あるや勿論なりと。

同新聞は尙説をなして曰く、思ふに日本人の西洋人と最も異なる點は、其愛國心にあるべく、今回の戰爭能く之を發揮したり。倫敦タイムズの一記者は、日英兩

國の愛國心の相違を批評して曰く、人あり、若し近頃戦死したる青年の父に遭逢し、其青年が國家の爲めに死したるに對し、之を日本に於て現に行はるゝが如く、大貌利嶺に於て之を祝賀するとせよ。大貌利嶺に於ては人之を何とか思ふべき、予は斯くの如き祝詞の謹慎ならざるべきを恐る。吾人の精神は異なれり、吾人にして砲火に親しみ、死せるものに對して其價值を與ふるにあらざる限り、吾人は依然として謹慎々々を以て終らん。吾人をして英國の爲めに死するの光榮なるを小供に教へしめよ。恐らく吾人亦往昔の精神に復歸すべく、日本人の性質に復歸せん。日本人の性質とは何ぞや、今回の戦争これを證せり、彼等は捕獲すべき一地を定むるや、損害は顧みる所にあらず。猛烈銃鎗を以て之を奪取するにあり。彼等は吾人の嘗て行ひしが如く、靜に働くにあり。而して日本人は其兒の戰場に死するや、其親は幸ひにも日本の爲めに死するを得たるを喜ぶなりと。此尊むべきスバルタ人及び羅馬人を連想せしむる精神は、日本如何にして之を得たる乎。之を説明すれば、以て歐米の國家的理想となすを得ん。

斯くて同新聞は、十九世紀及び同世紀以後如何にして愛國心が日本の宗教とな

りたるかを説明し、幾千年に亘る訓練の今日、日本が世界の舞臺に於て演出せる其大役目に對し、吾人は日本をして之を果たさしめんとするに汲々たりし者なりと説けり。又其結論に曰く、要するに日本武力の成功は、單に西洋の思想及び科學に依るにあらず、幾世紀に亘り、一朝にして花を開き、實を結ばしむるの準備訓練をなせる臺木に對し、西洋の思想と科學とを接木したるに依るのみ。思ふに日本は今や西洋文明に對する負債を償却せんとするものにして、斯くも赫々たる榮譽を得たる同國の提供せんとする教訓は、恭しく之を聽聞せざるべからずと。

又獨逸カッセル市の書廊主カール・フイエトル氏は、東亞に於ける戦争と獨逸國民の同情といへる一書を著はしたり。其要旨に曰く、

獨逸人殊に智徳ある獨逸人は、兩交戰國の何れに向つて其同情を寄せんと欲するか。露國にか、また日本にか。此問題に對して正當なる解答を與へんと欲せば、先づ左の諸點に就き考量するを要す。

- (一) 人道殊に基督教的文化  
(二) 國民及び人類を支配する歴史上の法則

(三) 歐洲の中部に位する獨逸國の地位 (四) 獨逸國民固有の利害

(一) 峻嚴の警察權と強大の兵力とを以て自ら維持し、東亞及び北亞に廣大なる範圍を有し、未開の國土人民を壓制する露國が、人類の正義自由の法則を遵守せざりしこと、又遵守するを欲せざること、は、歴史家の已に普く知る所なり。基督教の教義は夙に露國に輸入せられたりと雖、其之を採用するは全く方便的に過ぎずして、宗教上、徳義上の觀念は、政府の政略上及び有力なる社會の營利上に利用せらる。之に反して、日本は近時始めて基督教を容れたりと雖、日本人の行く所は、成熟したる基督教國民の行く所と其道を同じうす。故に世人が此黄色人の行動を以て、白色人及び黄色人を併せて支配する大國の行動よりも、價值少なく或は危険多しとなすは吾人の首肯する能はざる所なり。

(二) 日本に於ては、政府人民共に文明の主義精神を了解し、之を應用して人事を改善し、之を高尙にするに努む。然るに露國は耶穌紀元一千年以來、即ちウラジミル・デズ・ハイリグが偶像を棄却し、代ふるに聖像を以てすべきを侍臣に命じたる以來基督教を採用し、又一七〇〇年彼得大帝以來、西歐の文明を輸入したるに

拘らず、人民の多數は今日猶千年乃至千七百年代に於けると、殆ど同一なる文化の程度にあり。其習慣及び觀念亦多く之を改めず。故にスラーフ、殊に露人種の精細なる觀察者が、東部スラーフ、ンが文明の要素、及び結果を要求し、之を獲得するも、自ら之を維持し、之を發達せしめ、之を活用し、代表するの能力に乏しと説けること、強ち不當にあらず。實に東部スラーフ、ンは、良心上及び信仰上、風儀上、正理上、社會上及び經濟上に關し、固有の歴史を開示する能はず。彼等は他の國民より得たるもの、外は、何物をも之を有せず。而して精神上及び倫理上の文明一たび彼等の手に移るや、直に萎靡し或は腐敗し或は濫用せらる。

(三) 獨逸帝國は他國の援助なくして成立し、其成立以來、東西二方面より夾撃せらるゝ虞れありとの説盛にして、之が爲めに此二方面に於ける防備は常に嚴重を加へ、帝國の政略は専ら歐洲の平和を維持するを以て方針とし、乃ち三國同盟成立し且つ繼續せらる。されば露國若くは佛國が歐洲以外に事あることは、獨逸帝國の平和の爲めに寧ろ冀ふべき所にして、今日露國が日本に對する戰爭に於て、多大の人力財力を要するは、獨逸帝國の大に利とする所ならざるべからず。而

して若し露國にして此戦争に於て一等を輸し、爲めに其世界に覇たらんとするの慾望に一頓挫を來すが如きことあらんか、獨逸帝國の内外政策上に少からざる便益を見るに至らんこと疑ひを容れず。且つ又獨逸帝國の政略が往々露國に顧念する所ありとの絶叫及び愁訴は、吾人の常に耳にする所なるが、これ決して根據なき憶説にあらず。蓋し露國は廣大なる範圍を有し、多數の兵力を擁し、なるべく回避すべき敵として、諸國より忌憚せらるゝの事實あればなり。而して露國は、實に此傾向を利用して、以て益、勢威を張らんことを力む。然れども今露國にして、日本の爲めに遂に敗を取るに至るが如きことあらんか、露國の僭越なる勢力は、全く其假面を剥がれ、實際其價值なかりしことを曝露せらるべし。これ獨り獨逸帝國の爲めのみならず、實に文明諸國の爲めに至幸ならずや。

日本人も亦人類として、及び國民として、自由に其文明を進むるの權利を有す。而して日本人が如何なる能力を有し、如何なる意向を有するかは、彼が黄色人中獨立して自ら發達し、自ら強うせる唯一の國民たる事實に徴して之を知るを得べし。彼は同人種の他の多くのものに先んじて、自ら其地位を高め、北部及び東部亞

細亞人の爲めに文明の開拓者となり、其任務を果さんが爲めに、嘗て傲慢なる清人を打撃し、之を屈せざるべからざりしに、今や彼は己れの權内と思惟せる所に侵入せる露人を排擠せんとす。これ彼は歐洲の諸國及び人民が人事の利害上必要と認め、而も平和を愛するが爲めに敢て企てざりし所の者を斷行する者といふべし。但し、かれ日本人が斯かる政治上の要求を以て萬國史上の舞臺に現はれたるは、先づ彼が一般殊に基督教的文明の何者たるを識別し、而して其後に於てせることを思はざるべからず。而して今後日本人が、此文明を以て露人が過去九百年間に於てなしたるよりも、如何に多くをなし得べきかは、將來の歴史之を示さん。

露國が如何に戦争問題を日本に提出したるか、露人の進退處置已に之を證せり。蓋し露人は他人の金、他人の功、他人の有を、平和の間に略有するを好み、之が爲めには毫も讓歩し忍容することなきを常とす。

露國が如何に此戦争を實行せんと欲するかは、樺太島に於ける普通の犯罪人、及び「神聖なる露國の政治上の犯罪人に、其任意の從軍に對して、總ての特典及び自

由を與へんとする勅命に徴して知るを得べし。露人の權内に陥りたる日本人が、如何に虐待せられ、殘殺せられたるかは、今更之を問ふを要せず。露國は常に其人、民、大なる祖國の子弟を野蠻的に待遇することを知ればなり。露國は、平和の間に漸次黒龍江一帶の沃土を略取し、次で廣大なる土耳其斯坦を領有し、又次で清國の古來の領土滿洲及び露國の利益線内に屬する韓國及び西藏を己れの手引き付け、平和に之を領有せんと力む。而して之に對して他の抵抗を受くるあるも、かれ露國は決して驚くものにあらず。何となれば各種の生物が他の貪慾なる生物に全く服従的に捕捉せられ、吞噬せらるるものにあらざること、かれ亦之を知ればなり。今や老人の「陸熊」は若小の「海熊」と相對す。他の諸國は其争ひの經過及び終局を如何に觀んと欲するか、但し從來諸國の定見なき優柔政略が、實に露國に巨多の贏利を占むるの機會を與へたるを回想せざるべからず。

(四) 此くの如く觀察し來れば、獨逸國民たるもの、寧ろ歡んで東亞の開戦を迎へ、日本人に對する同情を以て、其經過を注視し、日本人の收め得べき終局の勝利を満足を以て期待すべきにあらずや。

且つそれ我獨逸國民は、獨り政治上及び經濟上の利益よりして、隣邦露國の跋扈を嫌ふのみにあらず。實に今回の東亞戰爭に因り、及び其露國の政府及び人民に及ぼすべき願はしき影響に因り、以て從來露人の爲めに抑壓せられ、虐待せられつゝある我隣接諸人民も、亦少しく息を休め得べき地位に再び達せんことを希望するなり。吾人は三國の間に分割せられたる波蘭をば、姑らく措く。然れども芬蘭に於ける獨逸人、エヌテン、レッテン、リッタウエル………是等の古來西歐の文明、風習、教化を具有せる人民が、怖るべき壓制の下に呻吟し、野蠻的露人の不正なる行政の下に嘆息しつゝあるを見る。而して斯かる状態は、殊に獨逸人及び瑞典人が數百年間其力を露國の爲めに捧げ、露國の發達を助けたる後、殊に重にも新獨逸帝國の創立後に現はれたるものなることを知る。蓋し我々獨逸人と歴史上及び文明上相親近なる此諸人民の上に、露國が專權を行ふを得るに至れるは、露國が獨逸民族の統一并に獨逸帝國の成立に對し、博し得たる伶俐なる政略上の報酬と之を看做すを得べし。是等我北東境上、殊に日耳曼東海の濱に於ける古來我に親近なる隣人は、元と我利益線を形成し、我權内に入り得べかりしものなるに、今

や此降人は其固有の性質を容赦なく打破せらる。斯かる運命は、明識達觀の第一帝國宰相の當時已に洞見せし所なり。彼はバルチック諸州及び芬蘭に於て、人民及び其文明の壓抑せられ破壊せられんとするを察したり。然れども彼は必要なる平和の爲めに全く彼等を助くる能はず。賦して傍觀し、忍んで断念せざるべからざりしなり。既に高齡に達し、戦争と紛議とに憊れたる第一獨逸皇帝は、亦夙に彼の運命を知れり。皇帝は功勳多き生涯の末年に於て、忠實熱誠なるバルチック諸州の人民に就き、嘆聲を漏して曰く、文明の高き程度より、低き程度に推擠せらるゝは憫れむべき運命なりと。

斯かる事實を觀察し來れば、常に唯々己れの領域を擴め、權威を擅にするに努め、他國民を利用して毫も其損害となるをも顧みざる國民及び政府に對し、日本人の敢てせる断然たる舉動に向つて、其人種相異なり、位置相違きにも拘らず、我々獨逸人の同情を表するは寧ろ當然なるべしと。

又倫敦タイムズ巴里通信員は、十月十三日附を以て左の報道をなせり。

戦争終局の期は未だ知るべからずと雖、特に注意を要する一兆候は既に顯出せ

り。これ固より餘りに重きを措くべからずと雖、外交上邊視すべからざる一機微たるを失はず。其兆候とは他なし、露國二三新聞紙の其敵日本軍人に對する論調の一變じたること即ち是なり。日露兩軍は是迄大體に於て、事情の許す限り所謂文明的戦争の條規を遵守し來りたれば、其双互敬重の念を發揚するに至らんば、固より其處にして、是迄も世間往々説をなして謂へらく、戦争終るとき否、講和談判を開くに際せば、露國は日本と接近せんとを求むるに至らんと。今露都新聞例へば、ルッスが、今日日本人に對して誠心嘆稱の辭をなして吝まざるが如きに見れば、此種の議論が遂に露國の意見となるに至らざるなきを保せず。但し日本人が是等の説に對して、如何なる反響を與ふべき乎。又其露國と接近するの如何なる利益あるべき乎は、今尙之を徵するに由なし。ルッスの議論は紐育ヘラルド(巴里刊行の分)の露都通信員、其要旨を抄録せり。尙同通信員は此新聞ルッスは、今日露國に於て益、勢力を張らんとする有力の新聞なる由を言へり。其文左の如し。

開戦の始めに當りては露人は日本人を呼ぶに「猿」を以てせり。勇敢なる敵を呼ぶに此くの如き汚名を以てするは、これ自ら威嚴を損じ、體面を辱かしむるものな

り、又從來我國人の日本に漫遊して藝者にのみ其注意を専らにせざるものも、亦概ね日本人を評するに模倣者を以てせしに過ぎず。蓋し日本人が一の模倣者に過ぎざるは、これ開戦當時に於ける我露國の輿論なりしが如し。然れども英國人は善く日本人を識り、而してその所謂「猿」と同盟したるは、自ら以て外交上他の思ひ到らざる一大手段ありとせし所なり。今回の戦争に日本人の殘忍蠻行を傳ふるもの頻々たりしも、これ畢竟無根の報なりしを知る。我兵の一旦俘虜となりて、逃れ來りしものは、萬口一齊に日本人の懇切を稱し、又現に俘虜となりて日本人の手にある兵士も、均しく書を送りて其懇切を説けり。其旅順口の前面に於て、幾千の將卒が健戰奮闘命を棄て、國に盡したるは、其初め、欺し打ちの汚名を一掃せしめたるに止まらず、其忠勇義膽素より由る所あるを知らしめたり。我露人と日本人とは、其國家の爲めに大犠牲をなせるを相認めて、今や茲に双互敬重の念を生ずるに至り、而して此感想は既に入ること深く且つ堅し。即ち我露人の日本人に對する意見は、今や全く一變せしなり。日本人の露國人を視る亦想ふに應に然るべし。斯く戦争の慘毒中にありても吾人は今相識ることを得たり。而してこ

の相識るに至れるは、吾等露人と日本人とが均しく非常の高價を拂ひたる結果なるを思はゞ、將來彼我兩國の友厚なる關係を開くに當りて、深く此に見る所あらんことは、只管切望する所なり。

英國大尉シー・ホルムスウキルソン氏は、ローヤル・アチリー・インスチテューション紙上に於て、陸軍と海上權との關係より日露戦争を評論したり。氏は日本が海上權を有するにも拘らず、最終の結果は遂に陸戰に由らざるべからざる事實を携へ來りて、假令島國なりと雖、陸上に於ける争ひを決定せんと欲せば、始めは海軍に依るべきも、終には陸軍も艦隊と同じく大切なる時機を現出するに至るべしとの理由を敘述したり。

氏は更に一步を進めて曰く、艦隊は能く敵の侵入を防ぐべし。然れども遂に戦争を終結せしむること能はず。同時に陸軍は攻撃的効力を奏するも、防禦の目的に適せざるものなり。凡そ海國の防禦に陸軍を備ふるは、其沿岸を守備する。艦隊の不信用を顯はすに過ぎず。然れども攻撃的目的を以て陸軍を組織するときは、同時に艦隊に大に攻撃的勢力を増加するものなり。之に反して、陸軍を有せずして

艦隊のみを増加するにせよ其國は常に防禦の位地に立つか、然らざれば敵國の備へなき海岸に至り、海賊的侵略をなすに過ぎざるべし。此くの如き行動は戦争の一般の結果に有形的効果を與ふること能はざるなり。而して貿易上に與ふる損害は商業的國民間に行はれたる戦争を停止することを得るは瞭然たり。之に反して愛國的國民の戦争に従事するや、必らず敵國を屈服せしめざれば止まざるべし。予が海軍のみに重きを置かざる所以は一に此に存す。

翻つて日本の状況を見よ、日本の強大なる海軍を有せざりしならば、其結果如何。日本は克く露國の艦隊を全滅することを得べし。雖朝鮮の經營を奈何せん。又露國にして海上權を制せしとせんか、同國は陸軍なくして如何なることをなさんとするか。唯陸軍と海軍とを十分に備へたる國のみ獨り善く攻撃的態度を取りて以て其國を防禦するを得べし。歴史は之を以て完全なる防禦手段なることを證明せりと。

### 其三 旅順開城に對し彼等是如何なる觀察を下せしか

英國海軍大將グリッチ氏は一九〇四年に於ける海軍作戰を批評し、終に旅順口艦

隊の全滅に至るを結論したり。曰く、極東に於ける、一九〇四年の海軍作戰は、未だ其完全なる報告に接せず。雖興味ある或種の考察を暗示するものと云ふべし。否、恐らく或種の結論を示せるものなり。日本は單に數字上より云ふ時は、斯くの如き大事業をなすに當り十分なりと云ふべからざる海軍力を以て戦争を開始せり。蓋し極東に於ける露國艦隊は露國全艦隊の一分遺隊に過ぎず。随つて直に増援を受くべきは素より豫期せられし所なり。日本海軍は之に比し大に優勢なりしと云ふべからず。然れども日本人は戦争に先だちて、凡そ戦争を行はんとする國民のなすべき總てをなせり。曰く彼等は細心以て各種の實情を考察せり、敵の不用意を見て自ら肯けり、本國艦隊の來援に先だち、自國附近に於て敵を撃破すべきを自信せり。是一種のリスク(危険)を冒したるものなり。これ劣勢なる艦隊が優勢なる敵の一部分に對して全力を集中する時に當り、正に冒すべきのリスクなりしなり。セント・ヴィンセント、トラファルガーまた正しく斯くの如し。蓋し右の兩海戦に際しての憶測は、戦闘に參加せざりし敵の艦隊が、交戦中の艦隊の壊滅に先だち來援することなかるべく、



又來援すること能はざるべしと云ふにありしが、結果は果して之を裏書したり。戦争に於ける無謀の大膽は、罪惡にあらざるまでも暗愚なり。遠慮の大膽は、絶好の軍事的品質なり。一九〇四年の海軍作戦に於て、日本が吾人に幾多の見本を與へたるは、實に此深謀遠慮の大膽にあり。

又今回の戦争に於て、最も顯著なる一には、魚形水雷の効力の微々たることはなるべし。露國は水雷を多く發射したことなく、たゞ其軍は若干發の發射を行へり。雖、一發も効を奏したるものなし。二月八日の夜露國に對して水雷襲撃を加へたる當時の境遇は、又再び容易にあるべからざるものなりき。これ既に前に述べたる所なり。然れども此襲撃の結果は、失望すべきものなりき。尤もかの驅逐艦リフテナント、ブルコフが日本の魚形水雷の爲め沈没に瀕したるは事實なり。されど是、幾度か試みられたる水雷襲撃中にありて、首尾克く効を奏したる唯一の例にして、加ふるに魚形水雷の爲めに沈没したるブルコフたるや、たゞ鼓爾たる一小艦なりしを記憶せざるべからず。又セヴァストポリ號の例は、一定の地點に碇泊せる損傷軍艦と雖、之を破壊するには、幾度の水雷襲撃の必要なるを示すものなり。

吾人は魚形水雷を以て、不要にして海軍武器中より全然之を放逐すべしと結論するものにあらず。只魚形水雷が、局部的効力を有する武器にして、稀に且つ特殊の場合に於てのみ信頼すべき者なりと云ふのみ。魚形水雷を基礎として、戦計畫若くは軍艦の設計を作るが如きは、砲兵の佩けるサーベルを基礎として、砲兵戦術を作ると同様ならん。今回の海戦の経験は、射程の長大なる大砲を基礎とせる、今日の戦術家の議論を益、確むると同時に、巡洋艦、戦艦の武装中より、魚形水雷を除却するの正當なるを示すものなりといふも過言にあらず。

新聞紙上に於て屢、傳へられたる所に依れば、日露兩國は共に潜航艇を得たりと云ふ。されど、未だ曾て潜航艇の使用せられたるの形跡なし。普通水雷艇の効力僅少なりしに見て、潜航艇の効力は如何なるものにか。潜航艇の速力遅緩及び目標展望の困難は、自己を他に見せざるの便に對して拂ふには随分高價なるものなり。且つ此他に己れを現はさざるの便利と云ふも、普通水雷艇が夜暗を利用して、己れを隠すの便に比して、僅少の優る所あるのみ。若し潜航艇艦隊に隨從したりとせば、たとひ木浦より青泥窪までの各港湾は、悉く彼等の自由に使用することを

得たりとするも、尙且つ大に艦隊の動作を障害したるならん。而も若し木浦より青窪泥に至る沿岸の大部分が中立國の者なりとせば、交戦國の使用し得べき港湾は極めて少かりしならん。例へば歐洲に戦争ありとせば、交戦國潜航艇の使用し得べき港湾は殆どなかるべきなり。思ふに潜航艇の随伴し來たることは、巡航艦隊に取りて堪へ得ざる所勞と云ふべし。今回の戦争に依り默示されたる實情に就き考ふれば、潜航艇の採用は海軍的進歩の證左にあらず。却つて退歩の證左なりと斷せざるを得ざるに至るべし。蓋し潜航艇を採用するが如きは、人力、軍略的事情を顧みることなく、只徒に機械と技巧とのみ思ふ今日の風潮に同じたるものならん。

日露兩國艦隊は、共に戦闘に於て衝角を用ひんとしたることなく、又戦争と相關連して衝角使用の事を論せられたることなく、殊に眞面目に之を考へられたることすらなきが如し。これ注目すべきことなり。衝角なるもの、今後果して何れの時まで軍艦設計中の一部たるべきか、此事研究して興趣多かるべし。彈道眞直にして、且つ射程長大なる大砲の採用は、早晚戦闘をして從來より一層

の長距離に於て行はしむるに至るべきは疑ひを容れざりしと雖、今回の戦争は正しく此時の來れるを示すものなり。これ大軍艦の武装中に、魚形水雷を加ふるの必要なしとの見解を支持するものなり。艦體に着弾稀少なりしことは注意すべき事實なり。フリヤーグ、ツエザレウイッチ、アスコルド、及びデアナは、共に十五六發の砲彈を受けたるも、既に前に述べたるが如く厚き装甲に命中したるものは殆ど稀なり。今日までに實驗し得たるものふみに就きて云へば、命中彈の大部分は、上甲板の一二呎下方に引かれたる一線より上方を打てるを見る。檣煙突及び其他突出せるものは自ら砲手の目を惹くを以て、此事あるは不思議と云ふべからず。故に大砲を高く標置するは、自ら撃たるゝ機會を増すものといはざるべからず。若し果して然らば、大砲据付の高さは、特別の考案を要するものなり。ケースメートの防禦力に就きては殆ど其證據なし。グロムボイの装甲ケースメート内にありし兵員は、砲彈に觸ることなかりしも、ケースメート内の大砲中若干門は戦闘力を失へり。既に前に述べたるアスコルドの六吋砲砲楯には彈丸貫通せず、亦大に屈曲することなかりき。グロムボイの六吋砲ケースメートは

四吋四分の三にして、アスコルドの六吋砲砲楯は四吋なり。若し吾人にして巡洋艦は到底巡洋なり。堂々たる戦闘を交ふべきものにあらざるの見解を採らんか、その噸數一萬一千百十噸となるべき二隻のアスコルドは、昨年の戦争に際し一萬二千三百三十六噸のグロムボイ一隻よりは、一層有力ならざりしやを疑はしむる者なり。眞に巡洋艦戦術を解するものは少數の有力なる巡洋艦よりは之を以て隻數を多くするの必要なるを解せん。今回の戦争は、大装甲巡洋艦の果して利益あるや否やを疑はしむ。果して大装甲巡洋艦は、其必要あるものなるや如何。ロシヤ及びグロムボイに比して武器強く、防禦裝甲厚く、載炭量は同一なりと雖、速力は優秀なるレグナ及びエレナス(伊太利の戦闘艦にして兩艦の合計噸數二萬四千八百五十、ロシヤ、グロムボイの二萬四千四百六十六噸と比較して大差なし)の二隻が、ロシヤ、グロムボイと相對して、其効力少なしと云ふが如きは、何人も云ふに躊躇する所ならん。大装甲巡洋艦を可とするは、自ら一等戦闘艦よりは、一層小型の戦闘艦を以て必要なりと認むるものにあらずや。即ち換言すれば、好みとあれば小型の戦闘艦を作るも好し、然れども小型の戦闘艦には、必らず固有

の缺點あり、随つて之を巡洋艦と呼ばざるべからずと云ふの義となるべし。名稱は勝手に之を作りて平時に政策を助くることともならん。然れども戦時に斯くの如き軍艦に信頼するは、災厄を求むるものなり。唯艦首の設計及び速力等に就きては、戦闘艦は巡洋艦に劣ることあり。此點に就き、アスコルドは、グロムボイ及び日本裝甲巡洋艦に比し劣る所なかりしと云ふを得べきのみ。

戦闘艦は此戦争に於て、其必要を示したり。前に述べたるが如く、露國艦隊を旅順口に幽閉したるものは、東郷大將の水雷艇にあらず、閉塞船にあらず、はた亦敷設水雷にもあらず、戦闘艦隊即ちこれなり。既に戦闘艦隊のあるあり、故に露國艦隊出動し來るも、再び港内に引返すか、若くは敵の陣列を潜らんことを力め、絶えて決戦を行はんとせざりしなり。

## 遊動根據地の利

日本艦隊は、其目的地向ひ追々近く根據地を移したるが、其根據地を移すの容易なりしとは、吾人の深く注意せざるべからざる所なり。之に比し露國艦隊が旅順口を去らんとするに當り經驗せる困難は如何。此間の相違實に大なりと云ふ

べし。旅順口には船渠あり、彈藥庫ありと雖、海軍が旅順口の落否を以て、戦役の第一義となしたるは錯誤なり。旅順口の運命は、海上權なるものが陸上の受動的防禦に依りて、確保せらるべしと信ずるの危険なるを證するものなり。若しも敵にして海上權を有せば、陸上の要塞は背面より攻撃せられて、早晚陥落すべきものなればなり云々。

倫敦「タイムズ」は一月三日の紙上に於て論じて曰く、旅順は竟に陥落せり。攻圍者籠城者共に勇氣の限りを盡くし、科學進歩の結果たる武器の力及び之に伴ふ慘劇を盡くして、竟に陥落せり、只其規模の大忍耐力の強、攻守の難を以てするも、旅順攻圍戦は、優に世界の戦史上に王たるを得べし。加之其軍略に於て、最近科學によりて支配せられたる、有力なる聯合運動の集積的結果を示す事により、戦争上一新紀元を劃したる點に於て更に重要なり。歴史家は之によりて、西歐文明の結果を集積し、夫等を實際に當徴め、外人より教ふべからざる巧妙を以て、運用し得るの國民は、必らずや全く異種の文明によりて養はれ、又三十年以内の時日に於て、能く吾人の有せる錯雜なる文明を體達左右し得る者なる事を悟るべし。從來

旅順は、到底陥落し能はざるものとして宣言せられ、而も其宣言は最も合理的自信なりき。一の旅順は能く六のセバストポールを價ひす。セバストポールにてすら、尙且つ英佛聯合軍を一個年間惱まし得たりしなり。此旅順攻圍難は、恐らく要塞説明圖によりて了解するを得べし。日本軍が此大要塞を陥るゝに要したる時は、僅に八個月にして、若し要塞直接防禦線に通りし時より算すれば、五個月のみ。此間非常なる犠牲を要したるも、日本軍は損害補充及び攻圍の進歩に向つて、驚くべき力量を示せり。遮莫、ステッセル將軍の頑強なる抵抗力と、及び其勇氣、決斷、戦術等に向つては、如何なる贊辭も、未だ過重なるを憂へず。彼は實に露人の勇氣を極點まで表示したるものなり。扱て守城者を斯く賞讃したる吾人は、更に其攻圍者を稱するに何の辭を以てせんか、先づ其成功の偉大なるを讚美するは別として、兎に角此大難物を守備するよりも、攻略する者の方遙に其力に於て偉大なるべきは云ふを俟たず。又日本軍が表はしたる強力、勇氣、智略等、所謂英雄なる語中に含めるあらゆる武徳に向つては、守城者は深く其月桂冠を攻圍者に譲りて可なりと信す。

歐洲は今や旅順陥落の結果に就きて考慮しつつあり。純粹の軍事上の論點よりすれば、乃木將軍の成功は、必らずしも即時大なる効果ある者にあらず。何となれば、それは唯五萬の精兵を沙河方面に増勢し得るに過ぎずして、而も決して目下の葛藤に對して嚴格なる影響を及ぼすものにあらざればなり。少しく時日を経過し、日本軍が愈々旅順に據りて固めをなす時に到り、遼東半島には、遂に彼等に對する先占者なきに到れるの事實は、始めて明かに乃木將軍の成功を以て、全戦局に影響あらしむるものとなすなり。旅順が畢竟一の畧に過ぎざりし事は、曾て屢論せられたる所、沙河に轉せらるゝ五萬の増援軍は、日本軍に取り確に成功なるには相違なきも、そのみにては作戦的批評の全きを得べからず。吾人は須らく日本が露に對して含みたる十年前の遺恨を認めざるべからず。されば旅順は單なる要塞以上に、一の標的物なりしと云ふを以て適當とす。標的物は西歐諸政治家よりも、東洋の諸政治家に於て重視せらる。此標的を贏得したる事により、日本は過去の不快なる記憶を總て拭ひ去り、又從來彼等が只東洋の一勢力たるに過ぎずして、西歐諸國と比肩し能はずとせられたる汚辱を雪げり。否、彼等は是等以上

の事を成し遂げたり。彼等は東亞に於ける露の最大表顯を物の見事に破壊し、且つ其優勝權を奪ひたり。彼等は假令西歐の偏狹者が、尙心服し能はざるにせよ、世界人口三分の一に對しては、確に大なる影響を與へたるものなり。一港を占有するには、彼等は餘りに大なる價びを拂ひたるも、而も他の或價値に向つては、彼等は決して多くを拂ひ過ぎたるものにあらず。

最後に旅順陥落が露に及ぼす影響は如何。吾人今多くを語らざるべし。獨佛は尙露の財政能力を信用せり。兎に角旅順陥落は、日本に取りては、開戦の第二目的を達したるもの、彼等は太平洋艦隊を粉碎し、バルチック艦隊を待てり。彼等は支那滿洲に於ける露の總ての特權を破壊せり。彼等は假令未だ奉天に達せざるも、其收むべき効果は、既に斯くの如く大なり。彼等は必らずや露國の全體の位置を、根本的に變革するの位置を誤らざるべし。旅順の陥落は、漸次露國人中の智的社會に普及すべく、露帝の百の宣言も、遂に蒼生絶望の念を慰する能はず。必らずや非常なる混雜を惹起すべく、これ以上吾人は敢て説明する能はず。何となれば露は他の歐洲諸國と全く類を異にすればなり。吾人は只露の發達進歩する時機を待つ

より外なすべき所を知らずと。  
スタンダード新聞は左の論評をなせり。  
旅順陥落は久しく期待せられたるも、今回愈事實となれるに就きては其結果政治軍略上何れに於ても重大ならざるを得ず。先づ政治上に於ては蒙古人種の全地方特に支那人間に甚大の感動を與ふべく、日本が永久旅順を占領する事亦恐らくは之に伴ふべし。次に軍略上に於ては、沙河方面に於ける日本軍は、乃木將軍の麾下に於て良く研磨せられたる兵力を以て増援せらるべく、目下出動の途中なるバルチック艦隊の前途絶望なるべしと。  
又デイリー・テレグラフ新聞は、日本皇帝陛下がステッセル將軍の苦節を嘉みし給ひたるに就き、當國一般公衆と共に深く之を稱讚する所となれるの事實、またステッセル將軍及び其部下の士卒に對する稱讚に就きて報じたる後左の如き論評をなせり。  
ステッセル將軍の如き良將の指揮を有する露人の壯烈を以てして、尙且つ遂に武勇なる日本人の攻撃には堪へ能はざりしなり。

日本人今や十年前の會替の恥を雪ぎたると共に、國際政局の要素を變革すべき事件は茲に發生し、一新時期は史上に開始せられたりと。  
尙其他の諸新聞も、防守攻圍兩軍に對し稱讚の意を表するに於て一致せり。  
又埃國ノイエ・フライエ・プレッセの如きは、日本の將帥を激頌したる後、露國は旅順救援不成功の爲め永く其武名を失墜したりと論じ、降伏の報道内國に傳播せば、其國民の不平を激昂する事、猶火を火藥庫に投ずるが如きものあらんと論じ、且つ國民は最早將來の捷利に望みを屬する事を止め、現制度に信任を寄せざる事愈甚だし、從つて平和を希ふの念益、深さを致さんと云へり。  
フレムデン・プラットフォーム新聞は、今回の開城規約を以て戦局の終結となさず。之が爲め露國は却つて滿洲に力を集中し、以て其失意を恢復せんと圖るべしと雖、大體に於て韓國及び旅順口の鎖鑰は已に業に確然日本の掌中にあり。今や滿洲に於ける争點は、開戦當時の状況に比し、著しく其重要な度を減損せりと説き、之が爲め戦闘は第三冬期に入らずして終結を告ぐるの望みありと論せり。  
ノイエス・ウィーネル・ターゲプラットフォーム新聞は曰く、今や旅順口は再び日本人の掌中に

入れり。而して今回は同港に對する日本の權利に容喙する邦國なかるべし。何となれば、獨逸は已に同國の力を熟知し、英國も之を認めて同盟したればなり。露國は實に復仇せられたりと謂ふべし。

又紐育サンは曰く、旅順既に陥落したるを以て、事態大に明瞭となるべきもの多し。或は遠からずして戦争終結の時期及び終結の模様を窺知するを得ん。

今日歐洲の諸取引所に於ける掛引は、現下戦争に重大の關係あらん。露國公債下落及び日本公債騰貴の程度、並に其高低の結果は、何れも豫期し難く、事實發展の後を俟ちて其歸着する所を知るの外なし。

將來の事態に關係最も深き者は、猶太人就中伯林在任の猶太人の揣摩すべからざる奇怪なる團體なりとす。露帝及び獨帝は困却憂慮の餘り、此等猶太人に接近せざるを得ず。由來猶太人は、天才に依り全歐洲の財政を左右する人種にして、露國の死活は握りて其掌裏にあり。彼等は何事をなすべきや、如何なる動機が其行為を律すべきや、キシネフ事件、其他猶太人が殘忍なる露人より受けたる無數の暴行は、如何なる影響を生すべきか。世人の畏怖する赫々の威力を有する獨帝は

露國の爲め銳意資金を調達せんとする者なるが、其成績は如何なるべきや。一片感情の加味を許さず、冷靜無情なる黄金は、何様に動くべきや。是等諸問題の解決は、之を知るに由なきも、其解決の如何に拘らず、全世界は些の怨言もなく其成功を黙認せん。但し其解決は揣摩すべからざるものなれども、吾人は遠からずして其如何を知るを得べし。

吾人は、日本人が如何に旅順口々處分すべきやを知るも、亦遠からざるべし。日本人は其城塞を毀ち、全世界各國の交通し得べき亞細亞の門戸を開放して、永遠に出入の自由を保障すべきや、はた日本人は其破損せる城塞を再築し、殆ど難攻不拔となし、以て長へに亞細亞の平和を危うせんとするか。

日本の所決に依りて定まるべき事態多し。其所決如何によりては、當然の結果として英國は威海衛より、獨逸は膠州灣より撤退せざるを得ざるに至るやも亦知るべからず。吾人の所見に依れば、獨逸の膠州灣租借は責任あらしむる所爲にして、獨が彼の如き破廉恥手段を以て清國より獲たる立脚地を保有するは、日本國が旅順口處分の如何に對するよりも、東洋の平和を害する事甚大なり。吾人は畢

竟英國の威海衛租借を以て永遠のものに見做す能はず。獨逸は英國を驅つて該地租借をなさしめたるなり。而して此舉たる素と軍略上の錯誤なれば、英國は之より退却するものなり。事の要は、滿洲を其儘清國に還附すること是なり。この事若し果して日本の目的なりとせば、日本は如何に之を實行せんとするか。

世界東半球の治亂は、日本人の掌中にあり。彼日本人は、名譽ある大戦捷を得、其結果たる新紀元を啓き若くは遠からずして新紀元を啓くものたらんとす。曩に日本が旅順を得て、之により戦捷の結果を享有せんとするや、歐洲の所謂文明國等は、日本より之を奪取したり。國家は時に汚辱卑しむべき行爲をなすこと蓋し個人となす所の行爲よりも甚だしきものあり。當時露國が日本に加へたる屈辱に對し、現今憐れにも贖罪しつつあるは、因果應報と云ふの外なし。云ふまでもなく、歐洲の諸邦皆排日同盟に加はるとするも、日清戦役後の事態は再現することなからん。吾人は平和——永久的平和——に嚮望す。從來海陸に於ける露國の作戦事蹟(旅順に於けるスラッセル將軍の名譽ある對戦も例外にあらず)に徴するに、吾人は今後露軍が日本軍に對し、眞面目若しくは有効的の抵抗を持続すべしとは

信すること能はざるなり。されば戦争は終了せざるを得ず。而して其終了は、彼得堡乃至莫斯科に於てするよりも、滿洲に於てするを可とせん。若し其終了にして遷延せば、戦争を終結せしむべき事情、先づ露國の西部に於て生じ來り、露國の罪惡曝露し來り、其運命更に憐れむべきものあらん。

露國新聞ノヴヱヰレミヤも、また一月三日の紙上に旅順口の開城を評論して曰く、旅順口は降伏したり。此不幸は、今日露國を刺撃する事恰も百雷の一時に落ちたる如し。猛將勇卒の守備せる要塞の玆に至らんことは、吾人の皆夙に豫期したる所にして、如何に人力を盡くすとも、物質の不足を補ふこと能はざるは明白なり。かの包圍せられたる要塞内は彈丸なく之が貯藏不十分にして、外より輸入する能はざるに於ては、如何なる手段を運らすも、如何なる勇氣を振うとも、要塞内に於ては到底之を造ること能はざるなり。旅順口の早晚降伏するの已むを得ざるに至るべきは、吾人の皆已に諒としたる所なり。而もこれを諒としたるに拘らず、今や要塞戦の史上に於ける、此光榮ある戦記の頁の書き終られたる時に當り、各露國人の心中悚然たる者なきを得ず。我同胞の旅順要塞上に濺ぎたるの血、



その具さに經歷したる無限の辛苦は徒爾に歸すべからず。彼等は七月有半の間、日本の鋭兵を己れに引附けたり。斯かる務めは、決して徒爾に歸すべからず。今や自餘の露國黨の奮起すべき順番なり。自餘の露國民たる者、旅順防守の豪傑たる人々に恥ぢざる面目を保つべし。

又其翌日の紙上に於て、旅順口陥落後と題し、旅順要塞の力盡きて優勢の敵に降りたるは止むを得ざる事なりと説き、旅順艦隊の敗滅に論及して曰く、然れども悪運は何時までも吾等に付き纏ふものにあらざるべし。旅順口艦隊の代りに新艦隊往航しつゝあり、其首腦たる提督は、港内波穩かなる處に隠るゝことを首肯せざる人なり。陸軍に於ても、悪運は何時までも我等に付き纏ふものにあらざるべし。我五十萬の司令部は革新せられたれば、三司令官中芽出度き武運に遭遇するものあらん。既往十一個月間に、我軍の鍛錬して鐵より化して銅となれることは、外國人の公認する所なり。此間我長官の學びて得る所あるや疑ひなし。彼等は實戰の經驗に徴して、新來の敵の遣り方を研究したるならん。旅順口の陥落が滿洲軍の情態に影響を及ぼすこと疑ひなしと雖、此陥落は軍氣を沮喪せず、却つ

てかの沙河に集中しつゝある露國人の心中にも、旅順口の防守者を鼓舞したる露國民の豪膽勇氣の益、燃え起たんこと十分確信するを得べし。斯かる情勢なるに於ては、豈に憂仲するの時ならんや。須らく我盡力を十倍して、目下露國に甚だ必要とし、且つ望む所の勝利を博せんに必要なるものは、悉く之をかの地に供給せざるべからずと。

ロンドン・タイムズ軍事評論記者は、此旅順口開城と共に太平洋艦隊の全滅したるを評論したり。時事新報所載曰く、旅順に太平洋艦隊の殄滅は、其原因遠く歴史に溯りて之を求めざるべからずと雖、攻圍軍の砲によりて此等軍艦の其終焉を示したる劇的事實は、海國に取りて重要なり。且つ之が利益あること、遂に何物にも譲らざるべし。是等艦艦の破壊して、終に放棄されたる其海の水底よりして、即ち歴史の教訓に旨にして、戦争技術の大家が履行したる原則の實行に鑑みて、以て漸く己れの改善を謀らんとする國民、及び海軍に對する峻嚴なる箴言は起り來るべきなり。

旅順口に對する攻撃に於て、日本の人命を殞したること、假令如何に大なりと

するも我等は又此等を犠牲にしたる其主なる目的遂に達せられたるを認めざるべからず。日本は其海軍が初期の成功に依りて播種したる種實は、其陸軍の勞に依りて茲に收納するに至りたるものなり。此結果の得られたるは、即ち一に陸海軍親密の共働を行ひ得たる賜なりとせざるべからず。斯くの如くにして、夥多且つ強力なる露國太平洋艦隊は、今既に過去帳中に登記さるゝに至りたるものなり。戰鬪に於て日本未だ其一艦をも失ふとなく、此大結果を收め得たるは、即ち軍艦よりは寧ろ人命を犠牲にして之を得たるものなり。其價額よし幾許なりしとするも、島國に取りての測り知るべからざる利便——制海權——が之により獲得されたりとせば、其價額決して過大なりとすべからず。我等の見る所に從へば、旅順口に對する日本の主なる目的は、終始その軍艦に存したるものなり。今此等の軍艦は一隻を除くの外は、悉く死滅してまた存せず。此上旅順口に高價なる其襲撃を用ふるは最早其必要あらざるべし。攻圍は其普通の順序に依りて、之を行つて可なり。要塞の陥落多少の遲速あるも、今は比較的重要ならざる事態に屬す。今やバルチック艦隊が決して入港することなきを保するを得べき港灣は、蘇西

以東に於て唯一あり、旅順口即ち是なり。

戰端破裂の當時、傲然としてアレキシーフの揚言したる所は、我等尙之を記憶す。即ち其言に曰く、旅順口の要塞には、防守の命與へらるべし、近づくべからざる堡砦として、特に露國の守たらんとす。此宣言に對し、我等は傍註を加へ、歴史は曾て許多の堡砦を知る。然れども未だ近づくべからざるの堡砦なるものあるを知らざることなしと云へり。苟くも人間の建築したる所は、人間又之を破壊することを得べし。然るに拘らず、總督敢て此言をなし、露國を通じて一般に皆信じて以爲らく、要塞に投じたる幾億萬の金額は、遂に敵をして之に近づくべからざらしむることを得べく、敵の武器の陥るゝ能はざる所たらしむるを得べく、又露國艦隊に對する安全なる錨地たらしむることを得べしと。我等は曾て、之が單に幻想に過ぎざるを辯じ、他日再び此言を反覆するの時あるべきを約せり。

攻圍前及び攻圍中に於て、我等は旅順口の把持則ち露國の利益なりとするは、誤見たらざるを得ざるを論せり。戰爭技術なる應用科學には、常に變化あるを免れず。大戰役の進行中に於ても、亦なは變ずることあるべきを認知するものは、新事

實の現はれ、新證據の亦之を求むべきこと明かなるに至り、なほ單に自説の貫徹をのみ謀りて、其腐朽したる言句にのみ固着せんとする者一人としてあらざるべし。戰略の原則たゞひ不朽不變なりとするも、其應用に至りては全くこれに相反せり。例せばボムベイ街道の深き轍と、西伯利亞鐵道の燦爛たる軌條との差は、自ら時代の推移に従ひ、軍事行動にその深さの變化を必要ならしむべきなり。攻圍の方針と軍隊の受くる衝動とは、共に等しく武器の上に生ずる不斷の進歩に依りて、頗る著しく變化せざるべからず。電信、電話、無線電信、蒸氣風船、又皆駁々の勢ひを以て、戰爭技術の科學的應用に巨大の變化を與へざるを得ざるべきなり。一切の學理は、經驗と相符合するにあらざる限り皆無用たり。我等は常に變化を認むるに機敏にして、善に就き惡を去るを勉め、我等の國民組織に其善なる者を採用し、以て何國に對しても第二流に落ちざるの覺悟を有せざるべからざるなり。

然りと雖、攻圍前及び攻圍中に於て、旅順口に關し我等の言明したる意見は、未だ曾て之を變更せざるべからざるの理由を有せざるなり。作戰の始終は、一として

我等が當初の所信を一層明確に證明したるにあらざるはなし。日本第一軍の韓國に上陸して鴨綠江に前進するや、當時此軍は孤立の狀にありたるものにしてクロバトキン若し之を逆撃せんことを欲するに於ては、此軍即ち數週日の久しき自ら其逆撃に曝露し居たるものなり。此第一軍また其軍力強大ならざりき。蓋し韓國の西北部を経て、其行進を行ふに當り、土地の狀況自ら其用ひ得べき兵數に一定の局限なかるべからざりしを以てなり。或は其兵力當時一般に信せられたるよりも、尙一層薄弱なりしや亦知るべからず。日本に於て其兵數を誇稱するは自らあり得べき事態なり。其後四個月にして、遼陽より露軍を驅攘することを得たるかの大軍隊の集中は、此時日ありて始めて之を能くしたるものなり。クロバトキンは、要するに三萬の其兵を旅順口に拘禁し、更に多數の兵を亦浦鹽斯德に拘禁して、侵入軍の來たり現はるゝに當り、其頭を碎かんとするには、其對戰軍隊弱きに失するを致したるが爲め、遂に黒木を襲撃すること能はざりし者なり。海外よりする大侵入は、蓋し其侵入軍に取りて重大なる事業たらざるべからず。之が集兵、之が輸送、之が上陸は、兵員、砲門、車輛、輜重、馬匹、糧食、需品、彈藥、衛生材料等

多数の數量に上れる場合、而も敵軍の抵抗あるべきを豫期せざるべからざる場合に當り、實に戦争技術全局中の最も困難なる行動なりとせざるべからず。海外より攻撃の來たりたる場合に、防禦軍の有する最も大なる利便は、侵入軍が其兵を調ふるの違を有せず、又増援を受くるの時を有せざるに乘じ、速に其集兵を行ひ、直に之を邀撃し得るにあり。ステッセルの有する三萬の兵は、必らず鴨綠江に於て生じたる事態の面目を一變し得たるものなるを疑はず。其他の野戦軍また皆合じて、日本の第一軍に對する其猛烈なる攻戦を行ひたらんには、面目の一變亦必らず一層甚だしかるべかりしなり。初戦の成功は、之に其結果を合すれば、その効果頗る大なり。日本軍の全計畫は、初頭に於ける露國の勝利に依りて、未だ悉く咀嚼するに至らざりしも保すべからず。然るに露國はかくの如く勝利を得る能はざりし所以のもの、何ぞ即ち兵力の集中に代ふるに分散を以てし、三萬の兵を無用に一要塞に埋没し、又他の要塞に一萬五千の兵を浪費し、後之を三萬に増員し、日本その第二軍又は第三軍を輸送し來たりて、之に其攻撃を加ふるを便なりとするに至るまで、立てい銃を行ひたるまゝ徒に之を待ち居たるが爲めなり。

此時機達するに至れるまで、旅順口に於けるステッセル、浦鹽斯德に於けるリネツィッチは、共に局外にありて存せり。寧ろジャーリコー(英國ヘンリー八世王の離宮にて其宴樂を擯にせし處。王の政を見ざるや、廷臣常に王ジャーリコーに行けりと云ふを以て例とせりと云ふ)にありたるを以て可なりとす。彼等は自ら其脛を縛じて動くこと能はず。而も其要塞と其守備隊とを以てさなきだに過勞を感せる鐵道に、更に一層の負擔を重からしめたるものなり。旅順口及び浦鹽斯德は共に敵の侵入本線に當り、又避くべからざる其侵入線に當り居たるものにあらず。戦役の進行に對して、此等要塞の有する戰略的勢力は、一に日本軍の其攻圍の爲めに分たんとする注意の度如何に依りて存せり。山縣は此等要塞の攻圍に依りて、其作戦本行動を中止し、又甚だしく遅延せしめん事を欲したるものにあらず。日本その作戦本行動とは他にあらず、露國野戦軍隊の撃破即ち是なりとす。斯くの如くにして旅順口及び其守備隊は、故ら命令に依りて、其友軍より遮斷されたる一枝隊となるに至りたるものにして、露國野戦軍隊重要なる勝利を獲るにあらずるよりは、必然戰略上の死を免れざる運命に陥りたるものなり。旅順口の運命は

初めよりして本舞臺に於ける露軍の勝敗如何に従屬せるものなりき。然るに此本舞臺の勝利は旅順口守備の爲めに兵力を滅殺したるの故を以て、愈益不能たらしめられ、殊に初期の其勝利をして不能たらしめられたり。斯くの如くにして、旅順口は果して如何なる戦略目的又は其他の種類の目的を達する事を得たるや。第一に太平洋艦隊を保護すること、第二に露國の其歴史的使命を行ふの意志到底狂ぐべからざるを證明せんとする純虛榮心、これ蓋し其達せんことを欲したる目的なりしなるべし。此第二の目的の如きに至りては、單に頑固の致す所にして、事實を強ひてもありの儘に見ざらんと欲するものなるに過ぎず。此問題は、奧軍の上陸前一個月に於て我等は早く之を本欄に論じ、旅順口の撤退二個の禍害中に於ける、其禍害の寧ろ小なるものなりとの論結を得たり。我等は今に於て唯當時我等の云へりし所を茲に反覆するを得るのみ。即ち曰く、道義上の結果如何を顧みれば、此等の兵員、軍艦、軍需品、砲門みな戦利品として敵手に落つるを見るは、國民戦路上熟考の結果に出でたる計策の一部として、其撤去され破壊されたるを見るよりも、其災禍遙に大なりと、露國の今日受けたる

傷痍は、即ち其自ら求めたる所に過ぎずとすべし。然らば其第一の目的たりし、太平洋艦隊——其航洋力を有名無實にせる——に對する保護は果して達せらるゝを得たるや。決して然らず、旅順口は太平洋艦隊に其破滅を與へたり。旅順口は、即ちこれが耻辱なる滅亡に對し、其直接原因をなしたるものなり。黄金山の峯頭に海を蔽ふて存する砲臺の爲めに誤られて、徒に其安全を思ひ、艦隊は之が砲臺掩護下に港外錨地に碇泊し、アレキシーフは、日本公使既にその商議を断絶して、露國を撤退したりとの報を得たること明白なるにも拘らず、聊かも之に其攻撃の至るを夢想せざりし、第一回夜襲の後と雖、尙其迷ひは散することなく、露國海軍は日に月に益々有毒なる旅順口の港内に抑留せられ、其活動力を死せしめ、遂には盡く之を破壊し終はるに至れり。パゼーヌがメツツに其破滅を招かんとして、徒に安逸に耽りたるより以來、要塞又は避敵港なるものゝ制命的害悪が、未だ明かに今回の如くに赫灼たる光明の下に現し出されたることあるなし。

露國艦隊の任務たるや元來頗る明白なり。其任務は、則ち其時機を擇びて出航し、

敵を攻撃するにあり。其時機を擇ぶといふと雖、自家の結果に至りては全く之を重んずることなく、露國と東洋にある其帝國との間に介在する日本の戦艦に、なるべく大なる損害を與ふるを以て唯一の目的とし、其攻撃を行ふべきものなりとせり。然れども露國の海軍は、此任務の遂行を全く誤れり。我等は露國の海軍を以て、其攻撃を企つること能はざりしものなりと認むること能はず。要するに攻撃せんことを欲せざりしものなり。固より其他に事由あるべからず。何となれば、其後に行ひたる不本意の突撃は能く速に其休息地に通逃し歸るに成功し、其缺ける所は戦はんとする力にあらす。其意志にあること表白されたるに依りて明かなり。露國最良の水兵一萬五千人の乗組む所にして、材料のみを以てするも、尙三千二百萬磅の資本に相當する此大航洋艦隊の不名譽なる最期は、抑も指揮の不決斷に基づくものにして、此不決斷は又避難港なる者の危険なる吸引力が自らにして薄弱なる意志及び果斷なき氣性の上に働き得たる結果なりとせざるべからず。戦争十個月の間、未だ嘗て日本に戦闘に依りて其一艦をだも失はしむることなくして、太平洋艦隊は沈没し破壊し滅亡せり。露國の海軍は終始何

事をも行ふことなくして、遂に其存在を没したるものなり。古昔のモニター艦隊と雖、明かにこれ以上の事をなし得たるを疑はず。前後その司令權を取りたる五人の露國提督にして、一人たりとも勝利を獲るか、然らざれば死せんとこの確固たる決斷を以て、海に出でたるものありしならんには、其提督は榮譽を以て其國民の爲めに盡くす所あるを得、且つ海上權を露國に獲得せんとして、バルチックより其軍艦の到るを許し得たるならん。露國海軍省は、西方に於て自國の薄弱なるを曉知し、又バルチック艦隊その出航を行ひ得るには、數月の時日を要するを覺知し居たるを以て、露國太平洋艦隊の司令官に取りて餘せる所の方針、唯此一策ありたるのみ。然も惡魔なる港灣は、優しげに其危険なる懷を開きて當に之を招き寄せ、之が爲め艦隊も守備隊も其自ら之に就きたる道義的且つ物質的災害に對し何等賠償するに堪へたる一般への便益を遺すなくして、是非なくも一同と其難を共にせざるべからざるに至れり。

旅順口の放棄は、必らず艦隊をして出航し、且つ戦はざるべからざるに至らしめたるべきなり。其他の手段を以てしては、未だ此目的を達する能はざること、我等

既に之を論辯したり。三萬の兵を此要塞より放ち出だすことは、大にクロバトキンの野戦軍隊に其兵力を擴張せしめ、クロバトキンをして能く攻勢を取るを得せしめたるべし。又露國艦隊の猛烈なる攻撃は、或は東郷の艦隊に甚だしき損害を與へ、以てバルチック艦隊に其通路を開き、最後の勝利を期するに堪へたる大機會を之に與へたるやも亦知るべからず。疾く既に三月九日に於て、我等は露國戦略家の心性の錯亂せるを評論し、當時の形勢に對する露國海軍の見解を傳ふるものなりとして、クロンスタットスキークより數行の記事を轉載したることあり。同海軍機關紙は曰く、我艦隊の受動的態度は頗る切要なり。蓋し之が存在は、我陸軍の右翼と後方とを掩護し、併せて旅順口との其鐵道聯絡を保護するを得るを以てなり。敵を索めんとして、露國艦隊の徒に出港するは、即ち我海岸線を以て日本のなす所に委するに過ぎざるのみ。本紙は之を評して、即ち海軍のなすを欲せざる所を簡約に數語の間に云ひ盡くさんこと、蓋しこれ以上道のあらざるべしと云ひ、又この所言若し露國海軍部内に行はるゝ感情を代表し得たるものなりとせば、我等は最早太平洋艦隊が其初期の不幸を回復する

事能はざるべしと云へり。斯くて海上戰略及び軍艦使用法の思想に於て、露英兩國の間に深甚にして測るべからざる溝渠存するを指摘し、露國の學説は海戰の河川時代に屬するものなるを斷せり。尙最後に至り、我等は右露國海軍機關紙の所説を完うしたる事實の論理に依りて證明し、又は否認せんこと一に之を現代史の業に委せり。然るに此等露國の學説は、いま過去の歴史に依りて如何に盡く駁破され終りたるかは、之を指摘せんこと寧ろ要なきに似たり。

旅順口は、若し之なければ自ら大山の軍に加はりたるべき若干の兵を、その前面に牽制し得たるは固よりなり。旅順口よく其防守に堪へ、今尙頑として防守す。其與ふる事を得べき状態にある者は悉く之を與ふべきと亦明白なり。然れども佛國の名言あり、曰く世界の至強なる要塞なりと雖、其要塞なるより以上に、一物たりとも他に與ふるを得る者にあらずと。露國に於て聊かたりとも此言を枉げんと欲したるは、即ち戰爭の手段を以て其目的なりと誤認したるものにして、斯くの如くにして今は即ち其過誤に對し、料料を拂はざるべからざるに至れり。旅順口は、必らず露國の其要塞内に有するよりも、多數の日本兵を其胸壁の前面

に牽制するを得べしとなすの思想及び之に依りてクロバトキンに其成功を得るに必要なる時日を寄與すべしとなすの思想は、詳に形勢を達観し得たるものなりと認むる能はず。包圍の既に一たび完了され、日本軍の盡く其上陸を了してより以來、大山元帥は其中央に位置するを得たり。本舞臺に於ける形勢、若し之を許すに於ては、彼は攻圍軍に其兵を送りて之を其攻撃に加はらしむるを得ると共に、又本舞臺に於て大戦を行はざるべからざるの機に迫らんか、彼は其軍に増援する爲め、攻圍軍より其一部を撤回し、戦闘の後再び之を乃木に返還するを得たり。ガストンヅル氏は、現に旅順口前より二萬五千の兵十月十四日を以て、大山の許に達したるを報じたることあり。果して事實なりしや否やは今深く論ずべき問題にあらず。要は此相互融通が常に行はるゝを得べしと云ふにあり。又敵眼に觸るゝことなくして、之を行ふの機會十分に存したるべきなり。旅順口の重要なるは、露國に能く時を假すことを得るにありとは、また露國に主張されたる説なり。海面又は陸面よりする其後の集兵力に於て、露國果して日本に超越するを得るが如き時は、若し之に依りて與へらるゝを得べしとせば、要塞の保

持は確に理の宜しきに適ひたるものなりとすべし。然れども旅順口は決して斯くの如き勢力を有すること能はざるものなり。パルチック艦隊は、當時未だ備へを有せず、又旅順口より極端に至るまでの抵抗を繼續するも、其間に此艦隊が機装を完うして、太平洋艦隊と相援くるを得るに至るべしとは、之を信すべき何等の理由存したるにあらざるべし。陸軍に關しては、マハン大佐四月二十八日のタムスに論じて曰く、日本の水上交通は、其規模遙に露國の軌條交通に超越せり。大佐は此事實を以て、明確なる日本の優勢力なりとし、以て機先を制することを得、又その優勢を保護することを得るものなりとなせり。斯くて大佐は、日本最後の豫備兵を送遣し終はるか、又は其國庫を空乏に歸せしむるに至るまで露國は依然この劣勢を忍ばざるべからざるものなりと斷せり。今は事實明かに此所論を證明するに至れり。日本その豫備兵と國庫金を發し盡くすは、今よりして遙に後の日ならざるべからず。事情斯くの如くなるを以て、時日遷延の利便、露國に頗る大なるものありとする説の如きは、其意を得ざる事甚だしき者なり。之が空想に耽りたるの價值、思ふに頗る大なりしを證明し得るならん。乃木の軍隊



若し遼陽に加はりたりしとせば、日本の勝利更に決勝的なるを得たるべしとは、我等固より之を許すことを得べし。然れども、日本軍其豫期したるが如き決勝的成功を得ざりしは、其原因之に存するにあらずして、自ら他にありとせざるべからず。キルコフ公が卓絶したる勢力の結果は、早く東京に於て承認さるゝを得ず。遂に日本に意外の感をなさしむるに至れり。尙遼陽の正面攻撃に於ける其兵力の消耗、及び決勝的運動遂行の任を帯びたる黒木の軍に於ける其後の兵力缺損は、此等即ち戰術的失敗と稱すべきものにして、爲めにセゲンを遼陽に現出せしむること能はざりしものなり。

且つ又旅順口の攻撃がたとひ勇氣と忍耐と決意との極度を現はし得たりとすも、其高等司令は此種戰術の標本なりとして、我等之を承認するを得るものなりとすべからず。我等は一八九四年の先例に據るべからざることを日本に警告し、砲兵の砲火に依りて其優を制し、清國の之を有したりし時に於て、日本のなしたるが如き性急なる手段を以て、要塞に對せざらんことを日本に忠言せり。然るに此等の友誼的警戒は、遂に重んぜらるゝに至らず、攻圍軍の砲は其任務に對し頗

る劣弱なりき。當初よりして準備せざるべからざる砲の其攻圍陣地に送遣されたるは、頗る其時日を経過したる後なりしなり。日本は即ち其卓絶なる歩兵の勇氣に信頼すること深く、破壊されざる副防禦及び沈黙せざる砲臺を有する永久築城に對し、直に其頭と其胸を砕くの業を行はしめんとせり。日本歩兵を以て神なりとするも、これ求むるの多きに失するものなり。況んや其人なるに於てをや。されど、斯くの如き作戰上の錯誤ありたるに拘らず、露國の戰略的觀念根本より誤れるの弊大なるは、遂に日本に甚だしき不便を與ふることなきを得たり。日本の無要なる其強襲に依りて失ひたる所は、旅順口を救援せんとする無益の計畫に依りて、露國野戰軍隊の失ひたる所を以て自ら相償ふを得べし。露國野戰軍隊の損害は其頃二萬に達し、遂に全然失敗に歸し終はりたるに拘らず、而も日本は勝利を得て、茲に盡く露國大艦隊を破壊するを得たり。

滿洲に於ける一九〇四年の戰役史は、海陸戰爭の第一原則を知らざりし犯罪の歴史なり。此無智の罪は、たとひステッセルの率ゐる卓越なる守備隊が、勇敢に其防守を行ひたるに依りて、幾分償はるゝことは得たりとするも、事實は其然らざり

じよりも、一層深く露國軍隊に當初の其許すべからざりし戰略上の罪を感ぜしめたり。

其内地にあると、將海面にあるとを問はず、要塞なるもの、真正なる任務果して如何、これが概念を作らんことは、戰爭技術中に於ける難問題の一なり。築城の懈怠と濫用との間に、明確なる分界を劃せんことは、決して其一見したるが如くに單純なりとすべからず。戰爭技術は素より公式の集積にあらず、欲するに従ひて之より其一を擇ぶべしとなすべからざるなり。一件ごとに其價値を譬へ、理論と常識とに之を照らし來たらざるべからず。我等要塞に對して、假令一錢の金を投するに當りても、先づ此費額果して何物を備へんとするや、精密に之を知曉し置かざるべからず。歴史未だ曾て、封鎖されたる軍隊が他の助けを受くることなく、自家のみの力を以て脱出したる例あることなし。是を以てか、其陷落を遅延せんことを欲する單一の道樂を以て、要塞内に軍隊を葬り、尙甚だしきは艦隊をも葬らんとするは、此上なき愚の行爲なりとせざるべからず。要塞は必然運動力を殺ぐものなり、兵力を分散せしむるに至るものなり、戰略上道理ある計畫を貫徹

せんとする明白なる目的、之に存せるの證據あるにあらざる限り、我等は之を指彈せざるべからず。我等は決して其勇敢なる防守に眩惑さるべきにあらず、我等は其結局に思ひ至らざるべからざるなり。之が頌辭は、之を詩人の業に委して可なり。之を要するに、我等は一切の要塞を目するに補助機關を以てし、其以上に何物をも認むべからず。要塞は其要塞なるの故を以てして、又その我等の守る所なるの故を以てし、必らずしも利便なりとすべからず。亦不利なることなきにあらざるなり。我等若し戦ひに勝利を獲ば、我等即ち敵の要塞を獲得することを得べし。我等もし勝利を獲ざれば、敵即ち我等の要塞を占む。其内地に於けると海面に於けるとに關せず、皆常に然り。其何れの場合に於ても、守備隊兵多ければ、其多きに從ひて災害また大なり。要塞及び事實に於て、一切の築城また未だ曾て國防の上に第二段の任務より以上を達し得たることあるなし。如何なる國民も、之に依りて救はれたるものあるを聞かず。補助機關として、要塞は、往々にして軍隊を助力することを得、また巧慧に放下され、巧慧に使用されたる海軍資本を助け、之をしてこれに豊富なる利子を産ましむるを得ることあり。然れども、一たび失はれ

たる無形の優勢力に依りて回復さるゝこと能はず、其無形の優勢力初めより存せざるものに、其胸墻の力を以て之を奮興せしむることある能はず。要塞又は避敵港の門口には、最大最黒の文字を以て、ゲンテが地獄の門に發見したる言辭を表記せしむべきなり。

近き類例は、印度に於ける我陸軍にあり。曾て技術官の東洋に其優を稱したる當時、ヘンリー・ブラッケンペリー氏の反對して、ラワール・ビンデーに巨大なる陸軍の死罪を設くるを得せしめざりしは、實に氏に謝せざるべからず。冀くは印度の陸軍をして、長く戦死してふ此有害菌に感染するとなからしめよ。獅子を其徽章とする帝國人種には、航洋の海軍と動力ある陸軍とあらば、即ち足れり、又他を要せず。戦役に勝ち、勝利を決し、平和を強ふるものは、我海軍の背に依りて常に運搬さるゝ我野戦軍隊なり。終始また然らざるべからず。其他の贅物に投せられたる巨資は、純損失に歸せざる事稀なり。要塞を自負せんと欲するものには、須らく其意の滿つるに至るまで、之を築造せしめよ。然れども、之が楯には宜しく防禦の姿勢にある。蝟を刻せしめよ。之をして自ら奴隷たるに甘んせしめ、又帝國主義を夢想

することなからしめよ。

又ノーヴェ・グレミヤは極めて神經過敏なる觀察を試みて曰く、旅順に對する悲劇は既に終りたり、而して其終局は吾人の豫期と相反せんとするも、今は既に回復するに由なく、歴史は吾人の此戦争に於て如何に罪を負ふ所あるかを審判せん。今や冬期なるも、戦争は闌なれば、吾人は此冬日本人の多少掣肘せらるゝ時に乗じて、猶將來何事に就きて準備すべきかを思ひ至るを要す。日本人が其尻に垂延せる浦鹽斯德、樺太島、堪察加を占領せんとする野心あるは吾人の知る所なり。吾人は旅順防禦の經驗に依りて學びたる所多きが故に、糧食彈藥の關係に於て、當局者がせめて一年餘は、包圍を支ふるに足るほどの準備をなすと思はる。彼處には壞血病の流行なく、犬肉をフント四十哥にて賣るが如きことなく、銃砲彈藥十分にして日本の攻城砲にも勝れる大口徑砲等ありと信ず。且つ浦鹽斯德の形勢たる、海に二つの出口あり、陸には北西とに通ずる路あり。加之夏には河航の便もあれば、遠隔したる遼東半島の比にあらず。西伯利亞并に露國と連絡したる一帯の地方にして、其北西背後には數萬の露國民あり。側面には炭坑あり。西の

方は大軍のあるあり、唯鐵道の連絡點たる烏蘇里のニユリヌク、及び圖滿江を警戒すれば可なるのみ。總體の上より察すれば、吾人苟くも若し故コンドラチニコ將軍の如き智勇兼備の軍人多くあらば、吾人亦毫も浦鹽斯徳の爲めに危惧せずして可なり。而して天富饒多、日本人に取り、生活の供給上必要缺くべからざる樺太及び堪察加に至つては、則ち危険更に大なるものあり。此僻遠地方には防備殆ど絶無にして、既に日本人の襲撃を受けたることあり、其如何に終局したるやは、吾人の未だ詳に知らざる所なるも、彼處には囚徒とは云ひながら露國人あり、露國臣民あり、流刑者の子孫ありて、同地唯一の勞働者、及び防禦者あり、地中には多くの金あり、森林あり、石炭あり、石腦油ありて、魚類に富み、高價なる毛獸も亦極北に残存するあり。是等のものたる、皆宜しく注意保護防禦を要するに價ひするものなり、此點に關して樺太島に如何なる施設あるやは、吾人の知らざる所なれども、想ふに十分ならざらん。今や宜しく此に思ひを注ぎ、及ぶべきだけ義勇兵を増加すべし。今幸ひ冬期にして、韃靼海峡はラザレフ岬邊に於て氷結し、樞路ならば重量の貨物も輸送するを得べし。陸兵は少數なりとも送るべし。堪察加は更に遠

隔の地たるも、亦施設する所あらざるべからず。同地には往古移住したるコサックの子孫、今なほアナヅイリ河口附近に住すと云ふにあらすや。同地には如何なる防備を施すべきかは、當地に於て指定し難しと雖、必らず施設する所なかるべからず。然らざれば日本人は義勇艦隊に乗込み來りて、我領土に日本國旗を樹立するに至らん。此遠隔地方には、一八五四年ベトロパウロフスクに於けるが如く、勇敢なる義勇兵指揮者あらば可ならん。同地には殆ど武備なき稀少人口の外、他に防備の絶無なるは、日本人の知る所なるを以て、恐らく此遠隔地方に多數の兵員を送るが如きことなかるべし。冬は同地方に取りて輸送に便なるが故に、宜しく之を利用することを忽せにすべからずと。

日本を愛する事何人にも譲らずと稱せらるる、アルフレッド・ステッド氏の「隔週評論」に寄せたる論文「何故に日本は勝つべきか」を見るに、大略下の如し。日本軍は既に海陸に於て共に華々しき大捷を得、世界の喝采を博せり。強大と自負せる露國と雖、斯く明白に馬脚を露出したる今日、如何に苦慮し、如何に煩悶すればとて、到底挽回の策を講ずる事能はざるべし。サーと其政府とに取りて唯餘す所は、名譽あ

る退却光榮ある降伏の二途あるのみ。而してこれ迄現實にされたる海陸の勝戦は、正に終局に於ても日本の全捷に歸すべき事最早何の疑ひをも存せざる有力の左券ならずして何ぞや、然らば此目覺しき勝利は如何にして又何處より來れるか。

日本は萬般の文物に於て、實に理想的に完全なり。之に反し露西亞は悉く逆路を取り、悲境に沈溺せり、日本戦勝の真相を推するに、これ實に其一因たらずんばあらず。想ひ見よ、日本をして開戦を餘義なくせしめたる所以如何と。即ち正義の呼號なり、自由の絶叫なり、而して基督教文明の大法を宣傳せんが爲めなるならんや。日本は眞に無學を憫む教育ある紳士の如く、信仰の苦悶を脱却せんとして宗教上の自由を渴望する眞正の偉人の如し。實に彼は西歐文明に於て最も高しとせらるるものゝ爲めに利劍を振ひ、銃砲を負うて轉戦しつゝあるなり。而して日本軍隊の堂々たる秩序と敏慧なる行動とは、夙に滿天下の聲調を一にして賞揚する所、吾人今にして又何をか加へんや。

日本は眞面目の國なり、正直の國なり。此異彩は、獨り戦時に於てのみ窺ひ知るべ

きのみならず、平時と雖、萬般の事物に徴し、他の取つて以て模範とすべき美質を有せり。若し我等にして、明白に、速に救濟せられん事を希望する者なりとせば、一刻も早く日本人とならざるべからず。此美質の光輝に浴せざるべからず。然り矣、天使の如き國民たるを得んとせば、

クロバトキン將軍、今や滿洲にあり、防戦苦籌を策して日も亦足らざんとす。敗亡窮困の裡幸ひにして此隔週評論を手にせざるを得るは、彼に取つて、せめてもの仕合せなりと云ふべし。あはれ、彼若し此評論を見んの日、彼が始めて、翻然として日本軍に抗すべからざるを知覺する時なるを思ふ。現在彼は此明白なる事實を認むるに、餘りに頑固なりと。

露軍に従軍せる獨人ケドケ少佐が倫敦スタンダード新聞に投寄せる一篇の論文は特に其所見露軍を揚ぐるに偏して、公平を失ふ所少なからずと雖、是亦自ら一面の觀察なり。曰く本年に入るの後、兩交戦國の勝機如何と謂ふに至つては、言固より至難なり。予は唯々謂はんとす、露軍の將來は前日よりも好望にして、クロバトキン大將が一大決勝を收むるの機會絶無なりと謂ふべからずと。兵力の優

勢も最も露軍の利たるべく、而して此優勢は戦争愈長くして其利愈大ならん。露國の滿洲に増援し得る兵力は無限なり。予の見る所を以てするに、クロバトキン大將は、一月末に至らば、寡くとも麾下に三百四十個大隊の兵力を掌握し得べく、而して日本は之に對して各豫備兵を盡すも、二百六十八個大隊を出し得るに過ぎざるべし。殊に騎兵に至つては、露軍は日本軍の三倍強を有し、砲兵亦優勢を占め、今後露國は交戦中月々寡くとも四萬人を増加し得るを疑はず。予の算する所を以てするに、開戦の初めより昨年十一月十三日に至るまで、滿洲に着したる兵力は四十三萬二千人を下らざるならん。固より獨り兵力を以て勝敗を定むべからずと雖、露軍が戦争の長引くに應じて、戦勝の機益、大を加ふるは疑ふべからず。今後戦局の如何に發展すべきかに至つては、予の斷言する能はざる所なり。事皆兩軍司令の劃策如何に屬し、又各司令官の意思の堅弱と幸運とに屬すと雖、日本軍に就きて之を言ふ大山總司令官は一たび其旅順及び臺灣より悉く用ふべき兵を呼び來らば、必らず奉天に向つて攻撃を加へん。日本軍隊は皆戦ひを願ひ、士氣亦旺盛なれば、此攻撃以て能く終局の大勝を博すべし。

露軍にありては、其面目を維持し、又國民に對する義務として、進んで日本軍を攻撃し、尙且つ能ふべくんば、滿洲の日本軍を殲滅するを喫緊とす。露國總司令官は此目的を以て、今旅順攻圍軍の未だ來着せざるに乗じて、進んで之を攻撃するか、然らすんば、則ち四月末道路好良となり、兵力の優勢益大なるの時を待つなるべし。其今日に至るまで慎重の態度を取り來れるに見れば、或は今尙其時を待つならんか。其作戰は、事の自然としては日本軍の右翼を迂回し、朝鮮との聯絡を遮斷し、尙若し能ふべくんば、大孤山方面に之を撃退し、或は然らざるも遼東半島に撃退するにあるべし。此企圖若し能く功を奏せば、朝鮮は守りを失して露軍の掌握に歸し、以て能く旅順の喪失を償ふに足らん。之を要するに、日本國民が戦局の現在に歡喜し、甚だしく露軍を痛め得たりと思ふは、なほ早し。今日の戦局は斷じて之あるを許さざるなりと。

日清戦争の旅順攻撃に當りて日本軍は虐殺を行ひたりとの故意の論評を試みたりしと同じく、日露戦争に於ても之に類したる論評ありたり。露京パール・ルビース新聞の報に曰く、日本兵が我露國の死傷者を好遇せることは、其都度予が報道

を怠らざりし所なり。然るに今回初めて其蠻行を目撃するに迫りては、日本人の博愛心なるもの亦信を置き難きに似たり。事は六月十二日に起りたり。當日軍團長スタッケルベルグ男は、部下の歩兵一個大隊騎兵二個小隊に令するに李家屯占領の目的を以て、夜間劉家溝(得利寺戰場附近)の高地を出發すべきことを以てし、我隊は該命令の執行を了りたる後、食事の仕度に取りかゝれり。折柄敵軍の襲來するに遇ひ、我は燈を滅し、銃劔を以て日本軍を邀撃せり。然るに敵は我を欺かんが爲めウーラーと叫びたれば、我兵は其味方なるを信じ、三名の傷者を山麓に遺したる儘、再び以前の高地に引揚げたり。斯くて一人の看護卒は山を下りて右傷者等に繃帯を施しつゝありけるが、此時日本騎兵約三十名突然顯はれて、我傷者を取り圍みたり。看護卒は樹蔭に潛みて其場の模様を窺ひ居りしに、日本兵は我傷者に向つて突進し、處を撰ばず之を刺貫し、且つ之を寸断せり。後に至り我軍が右死屍を收容せしに、孰れも數多の傷を受け居り、其一屍體の如きは實に二十八傷の多きを算し、且つ孰れも屍體の頸部及び顔面は全く粉碎せられ、眼球は抉出せられ、胸隔は壓搾せられ、膝關節は銃の臺尻を以て打碎かれありたり。

右はかの露土戰爭中、バシーブツク(土耳其雜兵)等が同じく露兵に對して行ひたる殘忍なる行爲の外、他に比較すべきものなき蠻行にして、サムソノック將軍は此慘事の調書を作らしめ、佛英西の公使館附武官をして之に記名せしめたり。右慘死者の遺骸は、盛儀之を埋葬せり。兵士及びコサック等は、渠等の爲めに熱涙を濺ぎ、一種悽愴の氣を顯はし居たり。或は恐る、日本兵士等の其蠻行は必らず痛く我兵士を憤激せしめ、勢ひ其振り擧げたる腕を支へ難きことなからんかを云々。此誣言は露人自身に於てさへ其然らざるを證言するものあり。露國新聞ノーツオスチは、露國新聞に見えたる所謂日本兵の殘虐に就きて、其陸軍少將を訪問し、其所見を質したるが、少將は露土戰爭及び清國事件に参加し、又現戰爭にも六月まで参加し居たるよしにて、斷然右様の風説を否認して曰く、日本人は斯かる殘忍をなし得る人民にあらず、日本軍に傳ふるが如き猛惡の行爲ありとは斷じて信すること能はず、日本兵は何よりも紀律嚴肅にして、紀律の化身と謂ふべきものなり。予の親しく見る所を以てするに、九連城の戰役及び爾後の戰鬥に於て、日本軍の我傷者を救護せしは、猶自軍の兵の如し。吾人は我死傷兵の一人の酷待せ

られしものあるを見ざりき。日本軍に捕虜となり、又一旦捕虜となりて逃走し來りたる人々の談に據るも、日本人は我傷者を待つこと仁厚を極むといへり。

其四 彼等は此時期に於て如何に平和回復を想像せしか

デプロマチカスなる匿名を以て、英國ウエストミニスター誌上に日本の媾和條件なる題目を以て左の意見を發表せるものあり。

旅順陥落後の今日、平和克復の機會は果して如何なるべきか、旅順愈陥落せば、日本は平和の交渉を開始すべしとの豫期は失敗に歸しぬ。四十萬の大兵を沙河方面に集め、外債の信用尙暴落せず、新外債亦成功したる現時の露國より、和議の開始せられんこと亦信じ難し。而も平和は遂に來らざるべからずとせば、露國の拂ふべき平和の代償、即ち日本が要求すべき媾和の條件を攻究する必らずしも無用の業にあらず。然らば其要求は如何なるべきやと考ふるに、先づ其提議さるべき三個の根本條件あり。

第一 開戦以前日本の提出し居たる條件

第二 戦争の爲めに出したる犠牲の報酬

第三 極東平和の永遠的保證

是なり。先づ此第一條件により、露國は滿洲より撤兵し、韓國に於ける日本の優越なる權利と、過般の日韓條約に依る保護權とを承認すべく、勿論交渉當時日本になしたる讓歩は取消さるべし。第二條件より來たるものは、旅順の租借權、鐵道銀行の營業權、露國占有の財産、及び鐵道の讓渡、並に償金(是は疑問なり)の支辨等なるべく、日本は滿洲を清國主權の下に還附すべし。又第三條件に依りては、露國は浦鹽港の防備を撤回し、再び同港を海軍根據地となさざること、及び日本のアルサスたる樺太島の還付等なるべし。然るに露國は今尙名譽回復の希望を有せるにより、以上の條件には全然反對するなるべし。蓋し是極東より露國々旗の撤回を意味すべく、黒龍江口に日本領なる樺太を控へ、浦鹽には防備なく、旅順亦其用をなさざる事となり、過去一世紀間の苦心の結果は、茲に水泡に歸すべければなり。固より商業上の目的に取りては、露國の利害は戦前と異なるなれど、雖、彼の野心は政治上にありて、商業上の利便にあらず、況んや露國全然の屈服をなすに於てをや、斯くて日露兩國直接の平和交渉は、明かに不能なり。然らば上述日本の媾



和條件は過大なるかと云ふに、決して然らず。これに反して、露國若し日本に捷ちたらば、露國の提出する要求は甚大なるべしとは、世人の明かに推想せし所殊に唯一時の休戦に等しき平和を締結し、絶えず戦争の危険を見ん事はわれ人共に欲せざる所なりと。

倫敦タイムスは報じて曰く、巴里に開設せる北海事件委員會に於ける露國の委員海軍中將デュボンフは、エコー・ド・パリ新聞記者に對して、奇怪なる平和を述べたり。其大要に曰く、露國現在の海軍力は、バルチック艦隊に續發さるべき第三艦隊を合同すとも、未だ日本海軍を壓倒するに足らざれども、今より媾和せしめ遲滯なく吾計畫を進捗せしめば、僅に二十個月の後には吾海軍力は全く恢復せらるべし。宜しく國家百年の利益の爲めに、我等は自慢の精神に受くる苦痛を忍びて、速に媾和の舉に出で、旅順口及び現に日本が占領せる滿洲の土地を日本に委し、不日我海陸の軍備共に整頓するを待つて、わが對手國を壓伏するを得策とすべしと。其後デュボンフ中將は、エコー・ド・パリ記者に對し、かゝる事を述べたる事なしと辯疏したれども、そは徒勞なり。エコー・ド・パリは、從來露國に同情を有し、露國政府、

特に海軍省の利益を計れり、露國に不利益なるデュボンフ中將の議論を構造するに萬あるべからず。デュボンフ中將は、便宜上前説の取消をなしたるものなるべし。バルチック艦隊が日本海軍に對抗するに足らざるは、今更耳新しき事にあらざれども、之に第三艦隊を合するも、尙不足なりとの言を、露國海軍中將の口より聞くは、決して感服したる事にあらず。彼は他日再舉を計るの目的を以て、日本と媾和すと言へど、是大に誤れり。日本豈かゝる事情の下に和議を容れんや。さなきだに媾和に際しては、如何なる邊まで露國の信義を信賴するに足るや。日本が深く考慮すべき筈なれば、かゝる議論を海軍中將の口より聞くに及びては、媾和の事情は愈、困難となるべし。尙又かゝる意向既に露國に存する上は、日露媾和條約調印の後、露國一艦を注文すれば、日本も亦一艦を製造して、兩々相對抗して際限なかるべく、而して日本が斯くの如く海軍を擴張するに足るの費用は、豫め打算して媾和の際、償金として露國より求めざるべからず。且つそれ開戦に兩國の意思を必要とする如く、媾和にも亦對手國の合意を要す。日本は豈デュボンフ中將の言へる、勝手なる平和説に一致するものならんや。露國が創夷を恣やし、西伯利亞鐵

道を複線にし、艦隊を新造する時迄、戦闘を中止せんよりは、日本に對し都合好き  
 現況の下に、戦争を繼續することを遙に優れるにあらずや。此くの如きことを小兒  
 より聞けばいざ知らず、其君主より重大なる使命を委任されたる中將は、聊かた  
 りとも人情並に常識を備へたる話をなすべきに、かゝる話を聞くこそ意外千萬  
 なり。媾和は地上に委して露人の拾ふに任せてはあらず、必らずや日本は極東に  
 於ける露國勢力の根柢を絶ち、全く其再舉の基礎を削減し盡くしたる後にあら  
 ずんば、決して兩國の平和説に耳を傾くる者にあらざるべし。今や日本は海に陸  
 に並んで非常の優勢を示し、敵國をして和議を請はしむるの位置にありて、自ら  
 和を求むるの必要を見ず。要するにデ・パソフ中將の言の如く、永久の平和をなす  
 に妨げあるものなければ、迅速に且つ明白に取結ぶこそ至當なるべし。

ノーヴェ・ヴェレミヤ記者は非媾和論を唱へて曰く、予は半年前滿洲に遊んで實際  
 の事情に通ずるを以て、眞の露國人として此問題の解決を試みん。日本人は奉天  
 省中海岸より沙河に至るの地を占領し、旅順、青泥窪、營口、大東溝、遼河の下流と、此  
 豐饒の地方より海に至るまでの出口は、悉く日本の掌握に歸せり。かの青泥窪の

建設、哈爾濱の金殿玉樓の建築に消費したる幾百萬の金は、空中に飛散したるも  
 のとなれり。之を概算するに、目下遼河の東方高地、及び右岸を除きて、豐穰なる奉  
 天溪谷の三分の二は、悉く日本人の手にありて、而して同地方の穀物は、同地方人  
 民の需要に供したる外、年々一千百萬留に價ひする剩餘の穀物を産す。奉天省の  
 十三萬平方露里中、吾人は僅に五萬二千露里を支持して、日本に七萬八千露里を  
 與へたり。日本人の占領したる方面には、支那人約四百萬人ありて、開戦前には一  
 人に就き六十八哥宛の國税を收め、即ち我露國人の納税高に比して十五分の一  
 を徴せしなり。日本人にして若し同地方の支那人に、滿洲の支那植民に比して貧  
 困なる、我露國人の納付すると同額の税を課せば、年々約四千六百萬留を得ん。加  
 之、日本人は、税關貿易工業等を獨占して沿海の主權を握り、事實上滿洲及び蒙古  
 の主人公となりて、支那人の資を以て西伯利亞征服の爲め一大軍隊を作るに至  
 らん。

故に日本人は、單に占領地は勝者の手に歸すてふ原則のみを實行するとするも、  
 土地の人民の資力を以て四個軍團を支持するに十分なるべし。而して此外日本

將校及び下士の訓練したる支那人より成るの數聯隊ありと知るべし。然れども日本人は固より前記原則のみを實行するを以て満足するものにあらず。日本人は交戦すること已に三百四十五日の久しきに亘り此論説を掲げたるは一月十九日なり。一日費す所二百萬留に下らず。故に七億留以上を償還せざるべからず。而して彼等は開戦前には一割二歩利附の資本を運轉したれば、之に對して約一割を得ることとなるべし。

然れども彼等は尙此に止まるものにあらず。外國貿易額三千萬留ありて、毎年約一億留の納稅力を有する人口一千萬以上の朝鮮全土は、亦彼等の手に歸せん。日本人は固より朝鮮人の爲め、茫々たる曠野に高樓大厦を築くものにあらず。日本人に必要なものは滞りなく納稅する臣民のみ。日本人の戦ふは自國臣民の將來の生活を安易にせんが爲め、被征服人民に納稅の重負擔を課せんが爲めなり。それ然り、故に現時の状態に於て、和約を締結することあらば、日本人に與ふるに太平洋に於ける制海權を以てし、全亞細亞人民に其威勢の赫々たるを示すの外、其歳入に加ふるに、年々二億留以上を以てし、その歳入を倍加するに至らしむべし。

し。敵の力を増加する果して得策なりや、請ふ我に告げよ。人或は曰く新艦隊を作らんが爲めに吾人に休戦必要なりと。然れども日本人亦豈此休戦を利用して我より得たる償金を以て、今日よりも一層優勢に一層恐るべき艦隊を作らざるべからざるほご愚ならんや。彼等は海上に船隻を來す平野の人民にあらず。性來の海兵なり。且つそれ海軍なるものは、二三年間に造り得べき機械なりと思ふか。海軍なるものは決して二三年を期して造るべからず。世々代々因襲を以てするものにして、且つ金錢を以て買ひ得べからざること、猶習慣技能才識勇氣の金錢を以て買ひ得べからざるが如し。海軍は我國の如き邦國に於ては、温室内に培養せる最も脆き植物の如し。世を積み代を重ねて養成すべきものなり。

吾人或は和約の締結の爲め、有力なる同盟を作りて、日清戦後の如く日本人の勝利の結果を彼等の手より奪取すべしとせんか。然れども、戦後政治界の新情態を作り得べき人物、及び官署は、開戦前と同一のものが滿洲事件に關して、英米の外交文書に署名したるものなり。吾人には、たゞ世々榮名を輝かしたる陸軍てふ一勢力あるのみ。而も此榮名は退軍に由りて侮辱せられ、粉碎せられ、新科學と新戰

術の優勢に由りて潰敗せられたり。我陸軍は獨り日本軍の勇武と優勢に對して退却したるのみならず、歐洲の軍學及び技能に對して退却したり。然れども今や我陸軍は蘇生奮起して昨年夏期と其觀を異にせり。予は鐵道を距る五十露里の太子河畔の實戰を實見して此威を懷きたり。

今や我軍は沮喪したる軍氣を回復し、夏期の炎熱にて疲勞したる身體を醫し、將に大に活動せんとす。卿等何故に此軍に勸むるに、汚辱極まる平和の動機を以てせんとするか、或は神聖なる軍隊を汚辱する勿れ、かれ軍隊は國家の爲めに戰死するのみならず、露國の名譽と露國の汚辱を感銘すること吾人よりも深し。

平和の報は哈爾濱及び鐵嶺の酒保の食卓を圍みて、快談笑語する豪傑には、極めて歡迎せらるべきも、滿洲の高野と高地とに於て憤慨せしむべきは予の信する所なり。よし旅順を救ふが爲めには休戰必要なりしとするも、今は戰爭の外、結極完全なる勝利を執るべき途なきなりと。

又ボジチスト・レヴェーにフレラリク・ハリソン氏の評論あり、其要旨に曰く。  
思ふに日本人は、露人を驅逐して滿洲以外、黒龍江以北に退かしめんと焦心する

者にあらず。露西亞も亦現代に於て遼東半島及び朝鮮を其權力内に獲得恢復せんとの野心を擅にし能はざるべし。共に往時の勢力範圍内に植民の計を立て、永遠の策を廻らすを以て實際上の利益とせん。今此戰爭を中止媾和せしめんとし、て無謀なる強迫をなすが如きは、好まじき方法とも覺えず。寧ろ無用有害の譏りを免れざる也。吾人は茲に人文の發展を基礎としたる媾和の良策を獻せんと欲す。此立言の成立は、たとへ終局に於て遂に利害を一にすべきものたるに拘らず、或は歐洲列國の激怒を估はんを保せずと雖、これ文明の保證なり、また誰をか顧みんや、殊に當事者の意志にして強固ならんか、之を事實として見る必らずしも難からざるなり。即ち他なし、日露清の協同是なり。此三國にして一端和合協力、所謂東方の經營に任せば、極東文明の進歩期して待つべく、此三國の和解に依つて、始めて極東の平和を永遠に確立するを得べきなり。

又サン・ペテルブルグ・グ・ウ・ド・モスチは、媾和條件論を試みて曰く、日本との媾和成立の條件問題に關しては、吾人は左の如き説を主張せざるを得ず。即ち將來の媾和は如何なる事に依りて成立することも、吾人は清國の利益を慮る事に對して、特に

深き注意をなさざるべからず。吾人の之をなすは、これ敢て清國自身の爲めに計るにあらずして、吾人露國の爲めに之をなす者なり。我露國は清國に對して従前の關係を恢復し、露清間の友誼を復興せざるべからず。又日本は決して其敗北に甘んずる國にあらずして、一度敗るゝとも必らず復讐の機會を期待するに相違なきを以て、日本に對しても權力の均等を維持するに止まる事を期せざるべからず。

我露國は清國に對して如何なる處理をなすべきや、此問ひに對する答辯は、只一あるのみ。曰く清國に對しては、敷設したる鐵道と共に滿洲を還附すべし。但し鐵道敷設費は清國より償還の條件を以てなすべきは勿論にて、清國も必らず之に同意するに相違なし。是露國一般の輿論ともいふべく、其理由を詳論すれば即ち下の如し。我露國が滿洲を兼併するは唯是露國を劣弱ならしむる外に、一も得る所なし。何となれば滿洲を領有するの結果は、露國をして歐洲に對する活動の自由を失はしめ、露國生存の機關に永久除去すべからざる病患と脆弱なる缺陷を生せしめざるを得ず。況んや我露國が滿洲を領するは其力の堪ふる所にあらざ

るをや。露國は到底極東に於て日本と十分に拮抗し得べきにあらず。何となれば極東に於ける日本は其本國に巨大なる通商の船舶と優勢なる軍艦とを有し、善美なる碇泊地と船渠とを有し、石炭の供給自由自在にして、又最も迅速に軍隊を集中するの至便あればなり。

嘗て露國の通商貿易の爲めに旅順並に太平洋沿岸領有の必要を主張せられたる事あり。されど極東に於ける露國の商業は、現今の所至つて微弱にして、殆ど一顧の價值もなし。極東に於ける露國の通商に隆盛を見る如きは、遙に遠き將來の事なるべし。斯かる遠遠なる將來の事業の爲めに、今日目前の歐洲に對する緊要なる利益を失ふ如きは、決して策の得たる者にあらず。旅順を單に軍路上の意義にて領有せんと欲せば、旅順に優勢なる艦隊と大軍を配備するにあざれば、之を領有するを得ず。されど旅順の爲めに、優勢なる艦隊と大軍を置けば、勢ひ歐洲に於ける露國の勢力を弱むるを免れずと。

其五 彼等は此時期に於て如何に諸種の影響を

觀察せしか

リテラリ・ダイゼスト紙は、日露戦争に對する佛國の現状に關し論じて曰く、極東の戦局は、今日に至るまで全く佛國の希望したる所と齟齬せり、戦争の経過は、獨り同盟國の基礎を危くしたるのみならず、全く同盟國を失へる者と云ふべきなり。佛蘭西共和國と露西亞帝國との間に存在せる同盟の關係は、漸次其片務契約の假裝に過ぎざるの實を現はし來れり。此同盟の總ての利益は、全く露國の側に存し、佛國は唯苛重の負擔と、危険とを有するに止まり、彼の如き長年月の間、露國との同盟を成立せしめんとして、苦心慘愴せしは果して、何の故ぞ。初めて「同盟」なる言語の發言せられしとき、佛國の彼の如く喜悅せしは何の故ぞ。而して愈、其戰時同盟の約成立せしとき、佛國の或は紀念章を鑄造し、或は名譽の軍刀を配附し、以て彼の如く狂喜せしは、抑、何の故ぞ。これ豈啻に極東の戦局に於て、露國が單に日本一個國と對敵するにあらずして、他國の之に参加するの時に當り、大露西亞皇帝なるものに助勢するを得んが爲めの故ならんや。實に是寧ろ佛國がアルサス、ローレーンの二州を回復せんとするの事業に於て、露國の助力を得んと欲したるが爲めなりとすべし。實に全露大帝國皇帝の雄渾偉大なる手腕の勢力は、

佛國が其報復の熱望を實にせんが爲めに、之を援助さるべきの筈なりしなり。それ故に佛國は隣國に接近せる他の隣國と、親善の關係を結ばざるべからずとは、古來外交の定法なり。此故を以て戰闘實現の時期は、全く未定に屬せると、早晚獨逸に二方面の國境戦を行はしめんとして、佛國は之に多くの希望を屬したり。然も此計算は全く迂愚に屬したり。何となれば露國皇帝は、コサツク騎兵をして、露國の利益ある場所以外には、決して進軍するを聽許し、賜はざりければなり。然れども、セイン河畔の政府佛國は、此點に自ら誤算を悟るの時機を得んとして、只管に其準備を行へり。加之、佛國には、早晩或事情の發生して、以て露帝をして獨逸皇帝なる普國々王を、今一度其以前の如く、ブランデンベルグ侯と同列に降下せしむるを以て、自己の利益と思惟せしむるに至ることあるべきを想像したるものゝ如くなりき。然るに總て此等の計算は、遙か遠き將來の事に屬し、今や全く有無を必ずべからざるものとなり終れり。何となれば、今や全露國は極東の戦争に於て、彼が如く甚だしく其勢力を滅殺せられ、尙其戦争の永續するに於ては、其軍事上國民經濟上並に政府の財政上に、大々的疲弊を來たし、到底歐洲に於て、殊に况ん

や獨逸の如き第一等國と戦端を開く等の事は全く不可能の事となりたりたればなり。

尙次に佛國は、日露の戦争を繼續せしむるが爲め、露國に軍資を供給し、及び露國の爲め公債の利子をも支拂ふべき幸福を有せるが、此點に就きては露國は同盟の効力をして、今後ともなほ從來の如く、確に生産的のものたらしむべし。而も露帝が日露戦争の終局し、内國動亂の鎮靜せる後に至り、佛國に對し佛國の期待し居たるが如き代償を與へ、以て佛國をしてガムベッタ氏の所謂國民の終始念頭に置くべくして、而も語るべからざるの目的を遂行するに助勢を與ふべしとの事は、今後迎も問題とはせざるべし。假りに露帝に於て、其意向ありとするも、露國の國情は露帝をして之を遂行するを得せしめざるべし。蓋し露國に於ては、全國各地の分離を統一し、再び其國力を回復するには、殆ど一代の年月を要すればなり。如上の論に對し、佛國に於ける著名の新聞紙には、未だ何等の反應あるを見ず。穩和共和黨の機關紙なるジュールナルド・デパーは露國に關して頗る泰然たる其信用を言明し、又佛國陸軍の名譽の保護者たるフィガロー新聞は、現露國皇帝の母

后と特別の關係ありと風評せらるゝに違はず、兩國の同盟に對し、深く賛同の意を表し居れり。又ゴローフ新聞は、其中心に至る迄、全く宗教的にして專制政治を以て各政體中の最良なるものなりとなし、獨裁制度に沈溺せるものなるが、平素に變ることなく、露佛同盟に不平を唱へ、非難の聲を發するが如きは無上の無禮なりとせり。然るに其佛國議會に優秀を占むる聯立内閣には、何れの内閣に對しても、能く其身を容るゝに堪能なる、而も就中現時のルーヴェー内閣に對して、最も其技術を發揮せるを以て有名なる外務大臣の機關紙ルタン新聞は、一方露國に對し忠實なると同時に、又英國に對し友情を暖むべき旨を頻りに論述し、而して英佛兩國間の友情は、相互の利益全く調和すべきものとして、久しく兩國識者の間に於て思考され居るものなるが、今日に至りては實に世界平和の元素と思惟せらるゝ政府は皆之を熟知せり、而も新聞紙たるものは高聲之を宣言せざるべからずと説述せり。斯くの如く佛國は、曩に露佛同盟を振り舞はして、歐洲の外交界を支配し、日露戦争に對しても、竊に露國の成功を希望し居たるに、圖らざりき、極東に於ける露軍の連戦連敗は、佛人の思潮を一變じ、日本の同盟國たる英國に

まで、盛に愛嬌を振り撒きたれば、之に對して、倫敦スタヂストは次の如く論述せり曰く、

露國の豫想外に劣弱なりしこと發覺せし爲め、佛國は非常の不利益を蒙むれり。佛國は元來露國との同盟に對し、餘り多くを賭したるものなるが、今日に至りては佛國は全く其豫想せしよりも、遂に其同盟國の劣弱なりしを發見せり。而もデルクアセ氏(佛國外務卿)は其發覺以前に於て其發生せし事實を補綴するに堪へざる十分の行爲を取れり、佛國の露國と同盟を締結せるの以前に於ては、佛國は世界に於て全く孤立の有様なりしなり。當時佛國にては、伊太利に對しては同國を以てアルプス山面の隣國(即ち佛國)を恐れて三國同盟に加入せしむるが如き、隔離心を有せしめ、之と同時に英佛兩國の間には、絶えず紛議を惹起しつゝありき。又其當時佛西兩國間の關係は、是亦十分満足すべきものにあらずりき。然るに今や佛國は我英國との間に親和の妥協成り立ち居るのみならず、伊太利國との間に於ても、十分好良なる意志の疏通行はれ居るにあらずや。尙又西班牙に對しても、モロッコ問題に於て、明かに西班牙をして満足せしめられたれば、佛國は今や全く當

時の如く世界に孤立し、多少とも各隣國より離隔せらるゝが如きことなくして、現今にては獨逸を除くの外は、各隣接國と總て親善の關係にあるものなり。されば其同盟國たる露國の一時無能に陥るに當り、佛國の感すべき影響は、其一見して感ずるが如き深刻なるものにあらざるなりと。

ノーヴェエ・ヴレミヤは又ロジエストウエンスキー提督の艦隊に對する英國人の舉動を非難して曰く、

吾人は確信すべき筋より、ロジエストウエンスキー提督の艦隊が、歩一步ごとに英國巡洋艦に追跡せらるゝこの報を得たり。英國軍艦は言ふ迄もなく、あらゆる電信機關を具備し、且つ局外中立國の資格を以て、電信にて日本と連絡しある數多の港を其掌中に左右せり。而して該諸港には、日本の派出員ありて、同盟國民より報告を得て、ロジエストウエンスキー提督の率ゐる艦隊の動靜をば、一々本國に電報するや疑ひなし。此事たる英人に取りては、易々たる勞にして、英國人は之を以て、恰も局外中立の宣言中列舉せられざるものゝ如しとなせり。今より數年前英國人は極東に於て、亦今日の如く露國軍艦を追跡したりしに、露國司令長官は遂にそ



れに堪へずかれにして去らずんば砲撃すべしとの信號をなしたれば英國人去りたり。當時は平和の時代にして、我軍艦敢て秘密を保つを要せざりしも、今や日露干戈相見え露國艦隊は其好意に出づると其買収に由るとを問はず、間諜なるものよりは、あらゆる手段を盡して己れを防がざるべからず。第二太平洋艦隊の艦員は、極めて神經過敏の情態にあれば、微々たる發端たりとも、吾人に取り、英國人に取り、はた全歐に取りて、等しく面白からざる結果を惹起すべしと思はる。倫敦より、英國艦隊に、露國軍艦追跡中止の命令を發することは最も容易にあらずや。北海ハル事件は、已にロジエストウエンスキー提督の惡戯を好まざるを證したり。同伴の結果、佛國の發議に由りて國際委員會を召集する所となれり。今回も亦佛國提議の役目を取りて、英國に對し同國艦隊に、我艦隊追跡中止の忠告をなさんも知るべからず。

斯くの如く、露國は敗戦の結果、英人にまでも何等か苦情を提出して、日本の爲めに不利益たらしめんとせるに過ぎざるのみ。既にして敗戦の反響は明かに露帝の宮中に迄も及べり。桑港クロニクルは、露都通信一月末に於ける聖彼得堡の状

況に關し、所信を載せて曰く。

露帝は宮中の太公連に對しても、軍隊に對しても、殆ど其信用を失墜せるものゝ如し。一月廿二日の暴動、及び悲惨なる虐殺の如き、固より之を防遏する容易なりしも、太公連は態と之を放任して、遂に甚だしきに至らしめ、以て皇帝の信用を墜さんと謀れり。然れども是一大失計にして、曾に皇帝の信用を墜せしのみならず、又自己の信用を共に墜せり。又人民怨嗟の甚だしき状態に就きては、若しも聖彼得堡總督ツレポフにして、不忠の人民を逮捕せんせば、全市民を逮捕せざるを得ざるべし。又軍隊中にありても、帝の卑怯未練なる態度に對し、輕侮の念を増加し來り、現帝を以て頼むべからずとなし、新帝の立たんことを希望するの情熾くなり。廢帝の陰謀は、暗密の裡に行はれつゝあり。戦局に對して、軍隊の意向は平和克復を希望するにあり。政府も亦同様にして、若しも沙河の方面にクロバトキン將軍が一戦勝を得たりし、の報來たるあらんには、即日にも平和談判は開始せらるべし。之を要すに、現政府の窮狀最も甚だしく、滿洲より大戦勝の報だにもあらば、當分政府は持續せらるべしと雖、然らざれば遂に顛覆せられんと必せり。其覆

滅は去二十二日の惨状よりも一層大なる惨状の裡に來たるやも計られずして、皇帝は今や露國を支配せず寧ろ露國は其後繼者の現はるゝを待つものなりと。實際に於て露國の狀態如何。ロイド・ニースの所論に曰く、合衆國の西班牙と戦へる時、予は紐育の國旗を以て裝飾せられたるを見たり。男子は星條の飾りあるメダルボタンを着け、婦人は小國旗を携へ、群衆は勝利の揭示ある新聞社の前に歡呼せり。

英國の南阿に戦へる時、予は倫敦を見たり。御者は予にブルラー將軍が何事をなさざるべからざるかを語り、義勇兵たる商店の小僧は、具さに開戦の理由を説明し、公爵夫人は緋帯巻きに忙がしく、伯爵夫人はマフキングの救はれたるを聞いて、馬車の上より歡呼し、俱樂部の人と街頭の人とは兄弟の如くなりき。何となれば吾人は一體なればなり、吾人は庶民の戦争を起したればなり。

去週予は聖彼得堡にありしが、同地には一旒の國旗だに之なかりき。予は使丁、御者に向ひ、其日露戦争に對する所感を聞かんとしたるが、馬鹿を真似る勿れと答へられたり。予は料理店に於て、露國の音楽家、美術家に就き語る所あらんとした

るが、予の友は曰へり、語るを止めよ、是等の給仕は、大半間諜なりと。予は市内鐵道に於て、某政治家の名を擧げたるが、案内者は直に予を車外に拉し去れり。蓋し庶民の名を説くは安全ならず、ホテルに於ける給仕は間諜にして、使丁は警察の隱使なり。予の發着は一々正式に警察署に報告せられ、讀書室の雜誌は檢閱官の爲め全部取剝がれたる記事多く、某ボンチ雜誌は黒インキを以て塗抹せられたる頁三枚ありき。

市の南方に一停車場あり。列車の停車するや、車中の兵士水を飲まんが爲め下車したり。時に一將校あり、棍棒を以て兵士を毆打す。蓋し兵士は此機を利用して逃亡を企てたる者なり。目下露國は到る處豫備兵の召集中なるが、彼等は動もすれば逃亡を企つるを以て、軍隊は罪囚の如く之を護衛す。國境に沿へる獨逸、埃地利及びバルガン諸州は、常に脱走兵を見ざることなく、其都度之を捕へては本國に送還す。兵士曰く、吾人は何の爲めに戦ふや、既に支那人を以て充溢せる土地を獲得せんとして戦ふの用何れにあるやと。

戦地に於ける兵士曰く、吾人は何の爲めに戦ふや、戦争は皇帝を利せざるべし吾

人は日本人を驅逐するも、露國は土地を得ざるべく、吾人の贏ち得たる土地は英國之を奪ひ去らん。實に英國は吾人に對し常に憎むべき惡戯をなしつつありと。又彼等は曰く「吾人は何の爲め日本人と戦ふや、吾人は彼等を知らず、將亦彼等とは何等の利害關係なし、然れども吾人は英人を知る、彼等は眞個の敵なり、何故吾人は彼等と戦ふ能はざる乎」と。

又僧侶は曰く「聖なる露國は常に平和的なり、而も日本人は奸譎なる攻撃をなしたるを以て、吾人は皇帝の爲めに戦はざるべからざるに至れり。見よ、英國は耶蘇教國たる露西亞に對して、異教徒たる日本の肩を持てるにあらずや、吾人は聖十字架の爲め異教徒に對し、英國に對して戦ふものなり」と。斯くて教會と政府は、人民を驅つて戦争の渦中に陥れたり、更に露國最大の文豪たるトルストイの言ふ所を聞け。

嘗て平和の爲めに凡ての國民を訓戒したる其人と同一なる露國皇帝は、公然宣言して曰く「朕は朕の心に取り、爾かく愛すべき平和を維持せんとして盡力する所ありしに拘らず、盡力とは何ぞや、他國民の土地を強奪し、此盜みたる土地を守

らんが爲めに軍隊を増大するの謂なり、日本人は攻撃を加へたるを以て、同様の攻撃を日本人に加ふべきを命ずと。即ち日本人を殺戮すべしとは謂ふなり。彼は此虐殺の命を發するに當り、畏れ多くも上帝の名を云々し、世界に於ける最も恐るべき罪惡に對し、上帝の祝福を垂れ給はんことを願へり」と。

新聞紙は日々戦場の勇行、旅順口の防戦に關する報道を以て充滿す。世人よ、露人の勇氣を輕視する勿れ。吾人は露人がモスコを敵手に委せんよりは、寧ろ之を燒きたるが如く、倫敦を燒くべきや否や、吾人は露人がセバストポールの防戦に於て作りたるが如き墳墓を作りたることありや否や、實にセバストの墳墓は、十萬の石碑と稱せらる。

然れども極東に於ける今回の戦争は、人民の戦争にあらず、露人の利益の爲めに戦はれつつあるものにあらず。蓋し露國は平和に際して膨脹す、何となれば人民は勞働者なればなり。露國は戦争に際して常に萎靡す、何となれば政府は腐敗し且つ人民の政府にあらざればなり。故に露人の利益は平和にあり、これ憐れなる無能の小皇帝の當初より言へる所なり。露國の利益は、其耕す能はざる土地、其開

掘する能はざる鑛山其之に對し十分の素養を有せざる貿易の爲めに戰ふにあ  
りて存せず實に今回の戰爭を開始したるは朝鮮の材木鑛山の利害關係を有し  
且つ同國の併呑を望めるアレキシヌ太公其人にして太公は其代表者としてア  
レキシーフを送遣したり露國の太公連は實際の政府にして皇帝を人形として  
使用しつゝ人民を統括し人民は秘密警察を恐れて敢て之を口外せず而して此  
破廉恥なる太公連は日本と戦ひを挑み獨帝と條約を締結したる上最近數個月  
にありては又英國と戦ひを挑みつゝありこれ露國が二十幾隻の英船を盗みた  
る所以なり是ハルチック艦隊が慘虐にも我漁夫を砲撃したる後一言の言ふ所な  
くしてウイゴーに赴きたる所以なり。

嘗て恨を遺すことなく且つ敵を恕するに吝ならず勇敢にして忍耐力あり且つ  
温和なる露國人民は今日の國歩艱難に際し吾人の同情に値ひすべきものなり。  
若し吾人の政府にして露國人民と事を謀るを得ば吾と彼とは友となるべく同  
盟となるを得べし然も彼等は語るを許されず彼等は國務に對する發言權なく  
吾人は依然太公連と折衝せざるべからず而して彼等は卑怯なるが故に奸諂に

不正なるが故に慘酷なり是吾人の平和に對する危険なりと。

ロイド・ニース記者の所論斯くの如し又一面に於て日英同盟と英佛協商との關  
係を論ずるものあり英國々民評論は曰く。

日英同盟は其我國に有用なるを認むるのみにては不可なり既に其可なるを知  
らば其精神を誠實に履行せよ而して後始めて能く之を繼續すべきなり例へば  
當局者が白晝テムス河上一驅逐艦の通過して露國海軍に加はるを默許する  
が如きハルチック艦隊の敵對巡航に際し敬辭を拂ふが如き又英船の絶えず旅順  
封鎖を犯し又日本赤十字基金に相當の寄與をなすに務めず歐洲大陸の黃人患  
論の受賣をなして恬然たるが如き共に日本の責任ある政治家之を論せずと雖  
人民稍含めり我國固より別意あるにあらざるも其餘りに無思慮なるはかの獨  
人の流言を放つ者に好資料を與ふるものならずや彼等は露獨兩國の爲めに計  
ありて曰く日本政府は唯空名のみを結ばんよりも外面の敵と相結ぶに如か  
すと大陸の政治家には確に此觀念あり露國新聞は我國がハルチック艦隊に便宜  
を供しくれたりとて盛に我英國に感謝するの辭をなすも亦以て日本人を動か

さんとするに外ならざるなり。吾人は勇俠なる日本人が、急に排英同盟に加はるべしと思はざれども、我國既に日本に期する所あらば、我亦日本の欲する所を悦ばしめざるべからず。英國自由黨は數個月の後は代つて朝に立つもの、而して日英同盟に對し、一言賛成の意を言はざるのみならず、却つて一二之を攻撃するものあり。此くの如くんば、日本との干渉は何時如何なる情態に變せんも知るべからず。近頃露國に於て、ダーダネルス海峽に黒海艦隊を通過せしめんことを論じ立つるは、一に英國の威權を破らんとするにあり。蓋し北海事件は、彼をして英國の大言實なく、脆弱與みし易きを悟らしめたればなり。英國にして黒海艦隊の通過を默許するが如きあらば、これ即ち日本との同盟に留めを刺し、極東の我政略は破壊するものなるを覺悟せざるべからず。佛國との妥協に至りても、亦何時他國の爲めに破らるゝやも知るべからず。我放任主義の政治家にして、英佛協商を以て單に域外交上及び植民地上の協商なりとして之を待たば、大に過らん。日露戰爭中英佛兩國は各、其同盟干渉より、或は相睨離するに至るなきを保せず。且つ獨帝の頻りに露帝に取入り佛國を排して之に代り、又獨逸の陸海軍備を擴張す

るは決して其悦ぶ所にあらず。近頃獨逸は、一方に頻りに英國に諂ふるの語をなせり。若し我國にして其甘言に誤らるゝことあらば、佛國との現干渉は斷絶し、同時に露艦のダーダネルス海峽通過を許すことあらば、日本との同盟略、死滅するものなるを思はざるべからず。

### 第五節 奉天大會戰日本海大海戰前後に

#### 於ける彼等の觀察

今や戦局は大に進み、列強の視聽は益々過敏となり來れり。奉天大會戰と日本海大海戰と、實に戦局の大勢を定め、列強觀察の焦點を烙示するものなり。今先づ戦局全體の觀測を下したる倫敦タイムスの所論を一見せざるべからず。曰く、

日本軍隊の海上交通を安全に維持することは、我同盟國最終の勝利に避くべからざる條件なり。是を以てか此交通を遮斷せんとする艦隊は、今日日本軍事上の利益に於て方に其第一位を占むべきものなり。陸上に於ける勝利、たとひ如何に

十分なりとするも、此最先にして且つ最大なる第一目的の失敗は、到底之を償ふことあたはず。然らば如何なる方法に依りて、此希望するが如き結果を獲らるべきを得べきや。日本の海軍は、遠隔の地にある其潜伏所に敵を搜索し破壊する爲めに進發すべきや、或は其來たるを迎へんが爲め中途に之を待つべきや。但しは又その島國港灣の根據地に留り、敵の接近し來たるを待つべきや、是至大なる問題なり。之が精確なる答へに依りて、其結果も自ら定まるべきなり。

東郷提督及び其戰友は、ロジストウンスキーの潜伏所を發見して其地に之を攻撃し、バルチックより出でたる其増援艦隊之に投合する前に當りて、之を破壊するを得ること疑ひなきも、日本政府に於て十分に確信し、且つ此方法に従ふ利便が之に伴ふ不便を相償ふを得ることを確められたりとせば、至當の熱心を以て進發すること、蓋し之に過ぎたるの策あらざるべし。

東郷提督は、二月十三日を以て吳を出發し、其後二日にして第三太平洋艦隊リッパウを解纜せり。吳はリッパウに比して、ノシペに近きこと約一千哩なり。双方の艦隊その速力假りに相均しとせば、二日の先發をも合算して、東郷提督は第三艦隊よ

りも五日前にマダガスカルに達することを得べし。實際に於ては露艦の進航遅々として到底その競争に堪へざるものならん。此故を以て、之よりも良好なる方針他に存せず、敵との出會必然疑ひなくして、六千哩以上の地に戰艦隊を動かし、然る後に歸還するに堪へたる大規模の準備適當に整へられたりとせば、此計畫も必らずしも行ひ難きにあらず。未だ遽に之を排斥するを要せざるなり。然れども、其事實を知らしむることなくして、斯くの如き運動行はるべしと思はるべからず。營々たる商船等の此方面に於て、其海上を徘徊するもの頗る多し。敵の將に至らんとすこの事を聞かば、ロジストウンスキー亦無爲にして止まらざるべし。彼は敵の印度洋を通過する間に當りて、退いて其増援隊に合するか、或は日本艦隊を避けて猛然黃海に下り、其敵の軍隊に驚愕と動搖とを與ふることとなさん。最も敏捷なる巡洋艦の視界と雖、海上僅に二十哩の上に出でず。海面は廣濶なり、之を縦横通貫する航路は無數なり。我等は斷として海上に於ける攻勢の利を主張し、究極の結果を收むるに至るまで、之を遂行すべきを唱ふるものなり。雖、攻勢その物は常に道理の上に其基礎を置き、明快の判断を以て之を行ふも

のならざるべからず。決して、寶刀空を斬るが如きものなるべからざるなり。  
 佛國又は其他の中立國にして、敵對行動に其港灣及び其海面を假すとありとせよ。是其國は自ら損失と其危険とを敢てする者なり。ネルソン曾て云ひけることあり。曰く「元より攻撃を行はんとする地につきて、其艦船を攻撃するは至當の行爲なり」と。部分的中立は之を楯として、未だ露艦の其危殆なる航途に於て、其攻撃をされんとするを庇護すること能はざるなり。然れども、遠地に出張して其攻撃を加ふると果して日本の利便なるや如何は、未だ明白ならず。ロジストウンスキーに對する其計畫が、日本の成功に歸すると全く疑ひなき所なりとするも、行動後に其修繕を行ふに於て、一切の物資と一切の便宜とを有する其根據地を距ると六千哩の海面に出で、其艦隊戦を挑めるとに依りて受くべき明白なる不便は果して之を償ふことを得べきか如何。又頗る疑ふべきものありと云ふべし。されば日本の主力艦隊を以て、マダガスカル沖に露國艦隊を搜索することは、大體に於て利便よりも更に危険を招くこと大なるものなりとすべし。即ち日本の今日に見るが如き事情に吾人の際會したるとき、吾人の取るべき方針として之を認

めしむるの機會頗る遠きものなりとせざるべからず。  
 半途策即ち詳言すれば、マダガスカル、臺灣間の半途に於て、何れかの點に露艦と交戦するの策は、或事情の下にありて、之を必要とすることあるべし。其事情とは、即ち露國軍艦の蹉躓、又は其運炭艦の喪失と云ふが如き是なり。然れども日本の選擇する任意の行動としては、此策餘り妙なりとすべからず。敵は其勢力に充ち、且つ自ら其來着すべき時を撰ぶの自由を有す。而して日本は之と等しく其艦隊の後方に一の軍港を有せず。敵の竊に其眼を脱して奔逸すべき危険は、其程度稍減せりと雖依然としてなほ存せり。奇襲は元來確保し難き戰鬪行爲なり。何人も之に依頼し、之に期待すること能はざるものなり。  
 斯くて最後に存する者は、第三方針即ち露國大艦隊の日本海面に來着するまで、其襲撃を差控ふるの策なり。此大艦隊は其目的を遂ぐるが爲め、必らず此海面に入り來たらざるべからず。浦鹽斯德は目下その有する唯一の根據地として、且つ其修繕所なり。之に入らんとするに、其選ぶべき航路頗る乏し。日本は其目的を達せんとするが爲めには、早晚必らず其門前を過ぎざるべからざる敵に對し、之を

搜索する爲め世界を半週して航進するも何の特別なる利便あらんや。成るべく佐世保に近く露艦に其攻撃を加ふることは、日本に取り至大の利便なり。其之に來たるを待ちて浮び得べき諸艦を擧げて之に對し、之に決戦を強ふるを以て、日本のも最も賢明なる方針とすべし。唯決すべき點は之と交戦することなくして、如何ばかり近く露艦の來たるを許すべきやにあり。方に日本海軍參謀の最も深き注意を以て研究すべき所ならざるべからず。

然れども、それは兎も角として、此一般方略に之を採用するに於ては、戦闘中に損傷したる日本軍艦は、味方の港灣に遁入するを得るの便あり。艦の清潔、軍需品、彈藥糧食、情報、みな自國港灣の附近にある日本提督その使に依ることを得べく、且つ日本の領土と其指顧の間にありて戦ふは、自ら我同盟國の海兵に其勇氣と其忍耐とを加へ得るものならざるべからず。之に反して露國艦隊は大なる不便の下にその業を行ふものなり。其最良なる軍艦は、何れも六個月以上船渠に入りたることなし。戦ひを交へらるゝ頃に至らば、重要な速力の利日本側に存し、艦隊運動に於ける成功の機會は、必らず大に露艦に損する所あらん。我等の意見に依

り、且つ我同盟國海兵の熟練に顧みるに、此等の利便は頗る大なり。形勢の上は何等の物質上の變化あらざる限り、日本は我等の擧げたる三方針中の何れに就くを以て最も賢なりとすべきや。最早、何等の道理ある疑ひ存せざるなり。然れども斯く云ふは、其主力戦隊に關してのみなり。敵の所在に向け快速なる偵察艦及び巡洋艦を發するは、毫も之を妨げず。我等は現に此行動の已に執られ、敵艦の航路に關しては、南方遠く其監視を附したるを知る。昨年十二月末に於て、早く若干の補助巡洋艦は、それ／＼其監視地點に到達せり。一切の戦闘準備は既に整へり。此等の偵察艦隊は、所なくして、其形を示し、何の隠さんと欲する狀なくして、新嘉坡及び其他の港灣に入港したるは、自ら此計畫を案出せる思考の脈絡を我等に探らしむるに足るものなり。假令、彼等の艦隊に對する所在の成功露艦に其勇氣を奮興せしむることありとするも、聊かも驚くを要せず。此等の偵察艦、既に一度大艦隊の所在を探り、之が進航の方針を報じ得たりとせば、其任務の最も重要な部分は、之に依りて達せられたるなり。此任務達せられたれば、其次に之が力を用ふべきものは、即ち運炭船なり。之には簡單なる引導を渡さば、即ち足れ



りとするのみ。

此事につきて我等の直接に關する所は、我東洋艦隊を集結して之に其準備を行はしめ、東洋海面に於ける我海底電信線の揚陸地點に其嚴密なる守護を加へしめ、露艦の出港する時に當り、之に其惡計を加ふるを防止するにあり。之が責任は海軍省に存せり。我等は其必らず懈怠さることなきを信せん。元來露艦は大賭博を行ふものなり。中立權の如きは之を顧るの遑あるものにあらざるなり。然れども又日本巡洋艦隊の敢行すべき行動は、未だ我等の列擧したる所に盡きたりとすべからず。西班牙艦隊海峽(英吉利)に來航せる時、彼等は不愉快なる經驗に接し、グラヴリオン沖に於て、彼等は具さに其苦楚を嘗めたり。往昔の大船、今即ち存せず。雖其恐るべき後繼者は既に生せり。即ち潜水艇、機械水雷、魚形水雷是なり。今は日本海軍に於ける少壯將校の獨創新案は、その旅順口の破碎に用ひられたる時よりも、更に多く其使用地に發見すべし。其用ふる魚形水雷は、更に一層怖るべき武器なるを表明し來たるべく、水兵は又海戰の初期に比して其使用に練熟したるは、亦之を見るに難しとせず。

我小壯海軍將校中、最も慧敏なるもの一人、先頃日本の今日あるが如き事情のもとにありて、巡洋艦隊の執るべき方針如何を研究し、而して一策を立てたり。蓋し日本海兵の如き熱心なる軍事研究者は、この策に思ひ到らざりしが如き事蓋し之のあらざるべし。之を詳述するは、聊か事の體を得ざるの嫌ひあり。然れども敵の接近する前に當りて、出張の戦ひは海軍戰爭の技術に最も重要な教訓を齎らすこと大なるべしとの言は、茲に之を漏らすことを得べし。天運露艦に芽出たてくして、彼等若し幸ひに此監視を脱し、且つ天運——日本水雷將校の形を以て現はれたる——の餘したる其運送船の殘部をも用ひ、浦鹽斯德の水道に近づき得たること——若し果して此港灣を其目的とするものなりとせば——ありとせば、尙、彼等の前には之に入らざるべからざるの業あり。此入港は決して露人の想像の描けるが如きものにはあらざるべし。浦鹽斯德海圖の研究は、此際に見て此頗る興味あり。其重砲の射程外にありては、日本既に其制海權を稱するに見て此海圖に對せば、氷の解くるに至たる時、この方面に於ける事件の發展を豫想するは、決して我等の難しとせざる所なり。

更に此陸上戦役の將來に關じて論せんか、彼等は概括して、戦争の第一年に於て、日本軍隊の實質を明白に我等に示したるが如く、其第二年は日本の皇帝を圍繞む之に進言する元老及び大臣の伎倆を我等に示し來たるべしとなすことを得べし。日本の軍隊は、今我等の良く之を知る所の勇氣と決心とに關して、既に世界中の稱賛を博したる軍隊なれば、我等徒に諛辭を加ふるの必要を見ず。日本の政治家は、我等の之を信せんとする夥多の理由を有するが如く、果して謹慎にして聰明且つ果決なるやは、次の數月に於て漸次之を表白し來たるべし。戦争の初期に於て、我等は戦役の方針に頗る其重きを存じたり。しかも我等の見る所に依れば、當時この意見重視されざりしが如く、我等の切論する所は、即ち第一に海面に近くその戦役を行ふの日本に取りて重要なこと、又第二には豫備野戦軍隊を編成するの必要なること是なり。既往戦役の記録は、日本の政治家十分に此第一項を服膺したるを現はしたるも、第二項の必要には至當の承認を與へざりしを示せり。然れども此懈怠を許すべきもの頗る多かりしは、我等亦之を認めざるべからず。何となれば此性質の戦争に對する單線鐵道の勢力及び鐵道の經理に於

て露國の表はしたる伎倆は、海戦前にありて日本及び其他に於ける者の一人として之に重きを置かざりし原子なるを以てなり。然も一九〇四年の夏秋を通じて日本の傾向は其安全に不十分なる餘裕を存するのみに止め、豫備野戦軍隊の編成を遅延し、唯兵數を以てのみ其敵を潰滅することを得べしとの格言を無視せんとするにありたり。戦争中なるべく早き時機に於て、破碎的打撃を行ふに適する爲め、集むることを得べき最も多くの兵を集中することを遅延するは、大局上より見て決して經濟ならず、却つて不經濟なり。此懈怠今既に承認され、改悛するに至らんことは、我等の尤も信せんことを欲す。又之を信することを得べき確かなる根據を有す。

將に來らんとする春季に於て、日本は四十萬乃至五十萬の兵を戦場に存置し、之を維持するに適するものなりと假定せよ。成功の機會最も多き其作戦計畫は、果して如何。我東京通信員は報じて曰く、日本には三説あり、甲は認めて戦争の目的既に達せられたりとなし、乙は浦鹽斯德攻撃せざるべからずと云ひ、丙は哈爾濱進軍必要なりとなす。日本の開戦したる目的は、即ち滿洲より露國を放逐する

にあり、清韓兩國に露國の壓迫を絶つにあり、絶東に於ける商業の萬國均等權と、日本の死活的利益を至當に承認することと、其基礎とせる永續的平和を締結するにあり。日本に行はるゝ三方策は、何れも未だ必らずしも此等の目的を確保するものなりとすべからず。何れの策に出づるも、其直接目的は直に達せらるべし。然れども其彼岸は尙頗る遠し。

日本に取りては、最終の目的は地理上の目標を詮議し、之を選択するにあらず。成るべく日本の提案に近き和約を露國に承諾せしむるにあり。露國の大軍隊滿朝陵墓の周圍に滯陣して、大山の兵の拳銃射程内に存する限り、此目的は達せらるべからず。露國の爲めに其困難を感すべき何等の軍艦存せざる海面要塞の占領もまた此目的を達すべき所以の道にあらず。哈爾濱進軍と雖亦その欲望する最終の成功を必然に齎らすものにあらざるなり。何れにするも露國軍隊の現状を維持する限り、斯くの如きこと決して望むべからず。平和はクロバトキンの司令部に於て求めらるべく、ロジエストウンスキー旗艦の司令塔に於て求めらるべし。日本當に之に求むべくして、其他に之を求むべからざるなり。

日本にして、若し其敵の退却を行ふを得る以前に於て、沙河及び其遠近を問はず、唯決勝的地點に其發し得べき一切の小銃を集中するに於ては、彼等その決戦を行ひ、其勝利を得るを期するを得べきこと、之を信すべき相當の根據あり。日本は之を以て、其目的とせざるべからず。陸面に於ては、之を措いて他に其目的存せざるなり。敵に成功の希望を以て、其戦役を繼續するの手段なきを思はしむるが如く、其戦役を高價且つ危険ならしむることなくして、その敵に名譽ある和約を調印せしむるの手段は未だ曾て發見されたることなし。

日本の軍隊は熱心に哈爾濱に進軍せんことを希望するは、實際に事實なるが如し。此軍隊の如くに、其なし得たる所多く、其忍びたる所多きものゝ希望は、一顧に傾ひするものたること確に事實なり。然れども日本の利益を先として、其次に至りて初めて之に一顧をなすべきものなり。進軍には其準備なかるべからず。軌條車輛工場備へられざるべからず。彈藥庫充たされざるべからず。運送船時機に従つて集められざるべからず。加之、將來に於ける行動地域の自らにして廣濶なること、其性質の異なることに顧みて、騎兵の數大に増されざるべからず。我等先頃の戦

争終期に於て戰場に發したる如き忍耐にして、峻足なる勇敢の騎兵三萬巧みに編成され、少壯敢爲の將校に附して放たるるに於ては、クロバトキンの軍隊は五月中に於て之を潰破することを得べし。然れども哈爾濱進軍に關しては、一切の準備整へらるるに當りて、先づ日本が其海岸根據地附近の狹隘なる地帯に其行動區域を局限したるに依りて得たる利便は、頗る大なる利益を日本に與へ得たるものなるを記憶し、日本の心中に描く大規模の行動は、露國軍隊の撃破に於て全く避くべからざる道に相違なきを明かにし、且つ日本は之が結果をのみ目的とするものにして、その他餘念を有せざるを明かにし、初めて之に當らざるべからざるなり。之を要するに日本は其目的をクロバトキンの軍隊に定め、其注意を之に集中し、餘分の目的は全く之を棄てざるべからず。幹にして伐り倒さるるに於ては、櫻子は盡く其手中に落下し來たるべし。唯此業は決して容易なりとすべからず。戰場に於て三十萬の露兵に對戦したるもの、未だ曾て存せず。况んや之を潰滅したる事に於てをや。我等は其既に始まりたる試験の苛酷なることに就き、日本の今少しく忍耐を加へんことを欲するものなり。

海上に於けると等しく、亦陸上に於ても之を行ふことを得べき許多の副行動確に存すべし。其本行動に對する十分の準備が、既に先づ行はるるに於ては、寧ろ之を試みる事を推奨すべし。露國交通線路に對する其攻撃の如き、現に此性質に屬すべきものなり。

海軍の行ふ準備を補足し、之を仕上ぐるを助くるが爲めに浦鹽港に或種の行動を試みるも亦妨げず。其後必要に臨みて、更に之に優大なる計畫を用ふる亦決して害なしとすべし。然れども浦鹽斯德に旅順口の二の舞を演ずるは之によりて十分の効果を收め得ざる限り、斷じて不必要なり。其他の場合にて、日本健兒の骨に價ひする者、一も浦鹽斯德に存するなし。日本又旅順の場合に於けるが如く、露國の捕虜を得て、何の利益ありとすべきや。日本は已に之が捕虜二個軍團を有せり。之を扶持するの費決して少なからず。哈爾濱進軍を行ふ場合に當りて同地に大軍を維持するに要する副鐵道を用ふるが爲め、短距離にして海面に達する他の線路の必要なるは固より事實なり。而して此線路の終點が太平洋に存する要塞の地域内にあるは、亦固より明白なり。然れども浦鹽斯德附近何れか

の海灣に日本根據地を設定し、次で露國の守備隊を其防禦工事外に驅逐し、其上に至りて敵の防禦地域を避け、内地の現存線と接續する別個の鐵道を敷設すること、日本に取りて最も容易なりとすべし。然る上に至りて、浦鹽斯德はたゞ穩かに之を飢えしむべきなり。其防守すると投降することは、多く事に關係ある問題にあらず。旅順口と等しく浦鹽斯德亦其磁力を有して、露國軍隊及び艦隊を之に吸収すべく、其防禦手段に相應するだけ、同一の方法に依りて露國の爲めに其害を及ぼすこと豫期するを得べし。

要塞の忌むべき勢力——或は寧ろ重ねてと稱すべきか——現はれ、露國の作戰計畫に其過重なる重量を加へ居れること、我等之を察すべき若干の證據を有す。例せば現に有名なる軍略批評家なる露國參謀本部のマスロウ將軍の如きあり。將軍は曰く、

回復し難きが如き大災害之に加へらるゝにあらざるよりは、何物を以てするも露軍を奉天外に驅逐すること能はざるべし。若し、我軍にして敵の進路を遮斷する限り、勝敗は依然として未決定なり。我等は此大兵と掩護物とに依りて浦鹽斯

德及び其周圍に於ける我等の陣地に益、其強を加へしむることを得べし。我等哈爾濱に退却するに至らば、此地遂に支ふべからざるに至らん。我等の如何なる高價を投じても奉天を所持せざるべからざる所以のもの、全くこれにありと。此言明は軍隊を以て、要塞の便益と且つ其保護との爲めに存するものなりと稱するものなり。蓋し十分に兩者實際の用處を轉倒し得たるもの亦此くの如きはあらざるべし。凡そ反省すること能はざる軍隊にありては、最も怖るべき經驗と雖尙且つ忘却さるることあり。もし更に之を證明するの證據を要すべしとせば、マスロウ將軍、必らず我等に代りて之を提供すべし。

此思想若し露國の意志を代表するものなりとせば、日本に取りて蓋し便利の外あらざるべし。日本は奉天附近の大戦を單に決勝的ならしむるのみならず、終末的ならしむるを得るが如き方法を以て、其新軍隊を用ふるを得べきこと明白なり。之に反し日本軍が未だクロバトキンと雌雄を決せざる前に當り、若し其兵力を分割して浦鹽斯德に其攻圍を行ひ、黒龍江に其行軍を行ひ、樺太に其遠征を行ふに於ては、その本行動の萬一にも失敗する場合、日本は之より果して如何なる

利便を得べしとすべきや。露國は滿洲に存する日本の兵力を推算して、其總數を三十八萬四千となせり。之には何等の論評を加ふることなきを以て、即ち我等の道なりとす。然れども近日日本の行ひたる新配備を露國が理解し、其意味其規模其目的を測知し得たるや如何之が徵候は我等未だ曾て之を認むること能はざるなり。

一切の副行動は嚴密に其本行動の成功に對し、從たらしむるを要すること明白なり。戰爭區域の自ら擴大し來たるべきに備ふること、固より必要なると共に、其區域を奉天附近の地帯内に局限し、露軍をして終末に至るまで、此地に戦はざるべからしむるに力むること、政治上并に軍事上の理由に於て亦可なりとすべく、且つ頗る有利なりとすべし。或困難にして、且つ面白からざる事實日本の前に横はれるあり。軍事上の計畫は、凡て之に従ひて立せられざるべからざるなり。露國戰爭を延長せんことを欲せば、之に和約を口授すること日本の權内に存せず。其敵を振ち伏せ、咽喉に其刀を擬するに至るまでは、如何なる國と雖自作の條件に成る和約を其敵に承諾せしむること能はざるなり。日本は決して露國を征服す

ること能はず。是を以てか日本は露國の其面目上承諾する能はざらんとするが如き條件を之に課することを得るものにあらず。我等の意見に依れば、露國も亦之と等しく究極の勝利を望み得べきものにあらず。開戦當時インヅ、リッ、ドの輕躁にも論斷したるが如く、戦勝者をして東京に於て和約の調印を行ふを得るが如きは、到底あり得べくもあらず。日本は露國の打撃に依りて倒さるべきものにあらず。恰もわれ等が西班牙王フィリップイ十四世王及び奈破翁の打撃に依りて倒さるべからざりしが如し。而もまた殆ど同一の理由に依りて然り。是等の事態よりして、即ち下の如く斷することを得べし。曰く平和にして若し望まるゝに於ては、兩交戦國に於て其一般形勢の主要なる原子を承認すること、これ避くべからざる其豫備たらざるべからず。是果して其避くべからざる所なりとせば、早晚來らざるべからざるものありと。然れども露國若し平和を欲せずとせば、我等は日本に勸告するに不當なる苦難を感ずることなくして、其防禦を行ひ得べき限りに其占領地域を留め、此以外に一呎たりとも地を占むるを謀らず、彼處に至らば露國和を求むべしとの思想に

驅られて、遠く内地に其空想を追はざるべきを以てせんとする者なり。如上の空想は遂に奈破翁をして覆没せしめ、近世に於て集められたる最も精良なる軍隊をして、其破滅を招かしめたるものなること、之を一顧するの必要ありとす。此誤想は露帝歴山の性質を理解すること能はず、露國人民の忍耐力を正當に測量すること能はざりし奈破翁の罪に歸せざるべからず。故に、唯一の安全なる方策は露國決して和を求めざるべしとの思想を以て、日本の戰略を畫するにあり。然らば少なくとも失望なきを得ん。文明世界の主張とする其主張を保持するの重荷を以て、遠く太平洋の小島國に棲息する此勇敢なる人民にのみ課するは、頗る不正なるの狀あらん。實際又其狀あり。されど我等の人口は、日本の人口よりも少なくして、我等の敵今日の日本の敵よりも強大なりし過去の日に於て、日本の今日に於けると同一の任務が我等の上に落下したることあり。且つ日本に至りては、我等の會て有せざりし一利便を有す。即ち敵の聯合を排斥するに堪へたる強大なる友國を有し、一國をのみ其敵として相對立するを得ること是なり。日本の一切の成功は、其真成の基礎にありて、全く他に存せず。日本其欲望を遂げんと欲せば

露國は、其擊破し能はざるが如き軍隊を、東亞に維持する能はざる事を實際上に證明すべきのみ。此事業に關する疑ふべからざる證據與へらるゝに至らば——若干の證據は既に與へられたるも——平和は即ち之が早晚齎らすべき必要の論理的結果なりとすべし。斯くの如き平和の其永續的性質は、之を以て戦後に日英同盟を保持する至良の保證なりとすべく、其協定また或効力ある國際間の承認と保證とを得るに於ては、愈益、列強國間の好關係を増進すべく、絶東の平和を確保するに適すべきなり。

日本は斯くの如くにして、尙其勝利に仕上げを加へざるべからず。一層速に有力に其目的を達せんが爲め、今後尙其勞を要するものありと雖、永久性を有するもの既に多く得られたるは、亦之を事實なりとせざるべからず。日本は之に依りて、國際間に其至當なる位置を占むるを得たり。軍事國の最も大なるものにして、且つ最も野心あるものなりと雖、今は最早重ねて日本を刺衝して其蜂窩を攪亂せんことを思はざるべく、之を思ふには必らず其前に再考を用ひざるべからざるべし。日本に取りて長期の平和は、必らず其大なる犠牲の報酬たるべし。誠に如何

なる國民と雖、優に日本の上に覗き得るものはあらざるなりと、此一篇時事新報の譯文に依る。

其一 奉天大會戰に對する彼等の觀察

甲、奉天大會戰に對する戰評如何

軍事上の論評に隻眼を有するジヤン・メーは三月四日の紙上に論じて曰く、今朝九時大本營は其八日夜を以て大山元帥より接手したる電報を公にしたなり。電報に曰く、敵は八日朝以來退却を始め、日本各軍は猛烈に之を追撃中なりと。是勝敗の問題を決定するものにして、今や最も興味ある問題は露人が果して能く其兵を拾集して退却するを得るや否やの一事となり來れり。讀者恐らく思はん。露軍が八日朝を以て馬群丹より退却したるは、即ち總退却の一部、即ち總退却の發端なりと。然れども吾人は數個の理由よりして、其然らざるを信するものなり。蓋し馬群丹及び地塔は撫順の前哨たり。而して一面本鐵道線の今や既に露軍のものたらざるは、略之を斷するを得べし。即ち公報に依れば、新民屯を経て進軍したる一日本軍は、六日を以て大石橋に達し、同所に於て戰鬪中なりとあるを以

て日本軍は露の馬群丹の退却に先立ち、二日を以てすでに奉天の西北方に於て右に謂ふ本鐵道線を距る七哩内に到達し、又別個の日本軍即ち渾河と遼河の間にあるものも、七日(遅くも)之を以て李官堡に達し、奉天の西南方に於て本鐵道を距る四哩内に到達したるを知るべく、本鐵道線なるもの、到底退却の目的に使用すべからざるは言ふまでもなし。故にクロバトキンは、凡て撫順を経て其軍隊を退却せしめざるべからず。然れども其事果して遂行するを得べきや否や、撫順は露軍の中央たる沙河堡を距る三十五哩にして、沙河堡より略、東北の方位に當るを以て、露軍は平行包形の對角線を傳はざるべからざると同時に、日本軍は既に其右側に陣取れり。換言すれば日本軍は、八日朝を以て既に撫順の正南に達し、同地を距ること僅々十五哩に過ぎざるに拘らず、沙河堡方面の露軍は、撫順に達せんとするには三十五哩の遠距離を行軍せざるべからず。故に日本軍の右翼及び中央の右翼は沙河堡撫順間の退却線を制扼する者なり。思ふに撫順を経て三十萬の兵を退却せしめざるべからざるに至るべしとは、クロバトキンの當初思ひ至らざりし所ならん。然れども必要は遂に彼をして此策に出でざるべからざ



るに至らしめたるや疑ひなく、随つて彼は撫順より出来得るだけ遠く敵を阻隔するの必要を感ずべきなり。蓋し彼は其軍隊の退却には幾日を要すべく、又敵にして打撃を加ふるを得べき距離にある時は、到底秩序ある退却をなす能はざるなり。故に彼は飽くまでも馬群丹及び地塔を所持し、之が爲めに三四個師團を犠牲に供するも決して過當ならざりしならん。故に馬群丹の抛棄は、日本軍をして直に撫順を衝かじむべく、日本軍一度撫順に入らんか、幾萬の露軍は同地の二三哩内を安全に通過する能はざるべし。撫順への鐵道はクロバトキンに對する絶大の幸福なり。これ彼が沙河に陣せる以來、軍事的目的を以て建築したるものにして、奉天の南方に於て本線と分岐して撫順に至る此鐵道は、撫順を経て安全に多數の將校及び恐らく多數の兵士をも輸送し去らん。然れども其車輛は極めて少かるべく、線路亦到る處日本軍の前面を通過せるを以て、日本軍は直に之を攻撃すべし。故にクロバトキンは、普通退却に使用すべき兵力よりも遙に大なる兵力を用ふるにあらざれば、此線路を防護する能はず。之を要するに、露軍は殆ど敵の方面に並行せる線に沿うて、退却せざるべからざるの最も忌むべき軍略的地

位にあるものなり。爾來クロバトキンは、退却術に於て多大の巧妙を示せり。然れども從來彼が成功せる境遇は、頗る其類を異にせり。彼の退却にして遠く八日に先だちて開始せられざりし限り、吾人は今回彼が慘憺たる損害を被りたるべきを信する者なり。午後に至り、更に詳細なる報告公にせられたり。之に據るに敵は一地點を除き、到る處退却中なることを知に足る。右の一地點とは遼河の西岸に沿うて奉天に入る街道上の李官堡及び揚士屯これなり。敵は此地に於て降伏のアルタネーヂブとして抵抗を試みつゝあるものゝ如し。公報に依れば、渾河の東岸より鐵道線路に至る一帯の地は、日本軍の手に歸したりとあり。而して奉天亦今や恐らく其占領する處となりたるべきを以て、渾河の西岸に逡巡せる敵は退却の道なきが如し。

吾人は六日大石橋に達したる以來、公報に於て聞くことなかりし新民屯軍に就き再び知るを得たり。即ち同軍は鐵道線を切斷し、小集屯(奉天の西北二十哩)八家子(奉天の東北一哩四分の一)及び三臺子(奉天の正北)を占領せり。此軍は鐵嶺に向ひ直進せんとするものゝ如し。奉天より鐵嶺への距離は僅々三十六哩に過ぎざ

るを以て、若し此軍にして急進を行はば、露軍の撫順より退却し來たるに先だち同地を占領するを得ん。

露軍果して撫順に併合を行ふべきや否や、撫順の防備其他に就きては些か知る處あるを以て、吾人は茲に一推斷を試みざるべからず。然れども露軍が同地に併合を行ふが如きは、殆ど之なかるべし。蓋し露軍刻下の急務は、再び鐵道線と接觸するにあり。露軍は鐵道を失へば、鐵嶺撫順街道に沿ひ、荷車に依り輸送せらるる糧食の外更に之を得るの道なく、豫め今日あるを慮りて、周密なる此種の準備成り居れる時は、いざ知らず、然らざるに於ては、業に已に慘憺たる光景を演出せるならん。從來クロバトキンは、この種の災厄に遇ひたることなし。蓋し從來彼は鐵道線に沿ひ退却するを得たるを以て、常に其附屬品を悉く輸送し去るを得たるのみならず、又援軍を呼び、且つ負傷者をも運搬する事を得たり。然れども今や彼は鐵道線を距ること東方二十六哩に驅逐せられたるを以て、其鐵道線の接觸を恢復するには、全速力を以て撫順を距る三十二哩なる鐵嶺に達せざるべからず。思ふに新民屯軍は、鐵嶺にありて彼を待ち受くるならん。吾人は此軍が果して斯

くの如き行動をなすの兵力あるや否やを知らずと雖、其目下の運動より見るに、其目的は之にあるものゝ如し。若し成功せば、これ戰爭中の斷命刺をなすものならん。兎に角此軍撫順鐵嶺間の西方に徘徊するにせば、クロバトキンは撫順に掩留すべからず。彼は其全速力を盡すを要す。何となれば、若し吾人にして奉天より鐵嶺三十五哩に達する線を底となし、撫順を頂となして三角形を畫かば、其兩脚奉天撫順間及び鐵嶺撫順間は各二十六哩及び三十二哩なるを以て、クロバトキンの鐵嶺に達するには、兩脚に沿うて行軍せざるべからざるに拘らず、日本軍は單に底にのみ沿うて、同一の目的點に達するを得べければなり。然れども新民屯軍が鐵嶺を以て其目標とせりとは、單に吾人の想像に過ぎず。吾人は熱誠以て其然るを望み、又其クロバトキンに先だちて鐵嶺に達せんことを希望す。是に於てか露軍は不祥なるデレンマに陥らんと。

倫敦タイムスは、露軍の敗北に就き論じて曰く、露軍今回の敗北が、世界歴史上最も著名なる敗北と伍を同じうすべき運命を有するものたるを明かにするには、今日まで知り得たる所にて已に十分なり。新司令官が軍事會議の新作戰計畫を

遂行せんとして、其滿洲に到着するの日、其指揮すべき軍隊は已に一も残留し居らざるを發見するなるべしと。

タイムスは、戦争が最後の其又最後まで繼續せられ其極途に殘部露軍の全滅若くは降伏を見るに至るべきを確信するものなり。而して、今回の敗北は業に已にセダンを想起せしむ、或は更にモスコの退却と同様なるやも知るべからずと曰へり。

タイムス新聞の在露京通信員は露軍の損失を大砲五百門死傷二十萬と報じたるに就き、同新聞は該損害を以て事實上露軍の全滅なりと稱せり。又他の某新聞は、今や露國唯一の政策は媾和をなすにありと云ひ、更に他の一新聞は露國政府が半官的に平和の風説を打消したるを嘲り、これ露國の蒙昧を示すものなりと評せり。

奉天の役に對する露國諸新聞の評論を綜合すれば、今回の敗北は官權政治の軍事的失敗を明示したるものにして、全國民は最早默視傍觀するの時機にあらずとなせり。今後は何人をして、クロバトキンに代らしむるも、根本的の革新を計ら

ずんば勝利を期し難しとし、或は又政府は此際誠心誠意國民の力に信頼するにあらずれば、失敗の恢復を期し難しと云ひ、孰れも士氣沮喪し、民心擾亂の状態を示し居るも、一般の意嚮は若し今日に當り、平和を論ずるときは、連戦連敗の結果として非常の屈辱と莫大の償金を負擔すべきを恐れ、敢て之を唱ふるものなく、唯一勝を將に僥倖せんと熱望し居るが如し。平和の説に關して、ノイヴェンミヤ曰く、

歐洲諸國は露人の氣質を知らざるを以て、露國の敗戦毎に平和の説をなすも、是誤解なり、露人は困難と失敗とに堪ふる特性を有し、一敗毎に勇氣を一倍し、愈窮して益、強く、奉天の敗戦は露國の全敗にあらず、尙再舉を準備しつゝあり。露國は戦勝後にあらざれば、平和を欲せざるなりと。又曰く、露國は外には奉天の苦戦あり、内には紛擾絶えず、實に歴史的重大の時期に際せり。今や國民一般の聲を聞き事を決するの時來れり、國會を召集するの機會も熟したりと。

ルース新聞は曰く、奉天に於て敗戦したるも、露國自身は未だ撃破せられず、宜しく續々援軍を出して其缺損を補充すべし。是將來和戰の決するとき必要缺く

べからざる處分なり。然れども同時に今後の經營及び是迄失敗の理由に關し、國民の輿論を推するの必要あり。即ち和戰の聲も此處より起るべきなり云々と。ノーヴェ・ウレミヤの從軍記者は曰く、日本軍は三月八日を以て鐵道線を切斷することなかりしを以て莫大なる戰利品を鹵獲すること能はざりきと。又彼は撫順炭礦の喪失を以て今回の戰鬪の結果中最も悲しむべきものなりと思惟すと云へり。

乙、奉天戰後の戰局に對する彼等の觀察は如何

ロンドン・タイムスは曰く、

露軍は其退却中に於て、鐵嶺に多少の破壊を試みたるが如し。渾河の鐵橋は退却の始めらるる前に於て已に一部分破壊され、鐵嶺北方ツヤイ河に架する五個の橋梁中その一個は又爆破されたり。其他の暗渠、橋梁、停車場、倉庫盡く退却に當りて破壊されたるは疑ふべからず。露軍一般の意志は、松花江の線に退却し、西伯都納より東吉林に亘る線を保持せんとするにあるが如し。即ち露國より來着する増援兵の助力に依り、此線を守持するを得べきを期するに似たり。

大山元帥は三月十三日を以て、日本軍各方向より其敵の追撃を繼續し居れるを報じたる以來、會て其後の意志を報じたるとなじた。鐵嶺の三月十六日を以て占領され、開原の三月十九日を以て占領され、北方更に二十哩昌圖府の三月二十一日を以て占領されたるの單に事實のみを傳へたるのみ。軍隊は考ふるが如くに速に旅行するものにあらず。組織ある軍隊は、組織を失へる軍隊よりも其進行の速度常に遲緩なり。日本軍は日露双方の傷兵莫大の員數を有し、之に其手當を加へざるべからざるなり。又海岸に後送せざるべからざるなり。又一軍相當の捕虜を有し、鐵道又修繕されざるべからず。縱隊輜重、附屬物等は鐵嶺の溪谷を経て北方平原に送られざるべからず。而して軍隊また其任務を擴充——即ち其既に大打撃を加へたる露軍をして、更に盡く四散せしむるにあり——する爲め兵員の補給を受けざるべからざるなり。其激しかりし行動の後、軍隊休息の時を得、糧食彈藥補給され、鐵道が次回の進軍に用ふることを得るに至るまで、其進軍を強行せざるを以て、即ち自然の方策なりとす。

此等の行動が、その進行をなしつつあるに當り、露軍の後衛を窮追し、其退却線上

に偵察を行ふの任自ら日本騎兵及び前衛の上に落下すべし。解氷は今既に始まりたるもの如く、従うて總進軍の困難を加へ來たるものあるべし。兩交戦者の其主力を以てする戦闘は何の日を以て再始さるべきや未だ知るべからず。日本軍の前衛は、長春(一名寬城子)を把握せんことを計るものなるべく、大山は此市街を以て、其北方進軍の前進根據地に供せんとするものなるべし。作戦軍隊の大數なるに見て、鐵道完成して、此點に達するに至るまで、何等眞面目なる計畫を試みらるゝものにあらざるを察すべし。

戦闘及び追撃中に生じたる露軍の損害に關しては、其説區々たり。聖彼得堡に於ては、之を以て十萬五千なりとし、東京よりの報は之を二十三萬と異算し、奉天よりの報は十七萬五千なりと稱す。後者寧ろ推算の當を得たるものなるが如し。敗殘兵の遁逃し得たるもの及び其頃恰も哈爾濱に到着したる増援兵と併せ、今用ふべき兵二十萬人を算すべきは我等之を認めざるべからず。尤も中には病兵を包含すべし。其病兵にあるとあらざるを問はず、内二分の一乃至三分の二は多く言ふに足らざるものなるべし。我等は例に依りて、巨大の増援兵その途にある

の流言を聞く。然れ共露國の稱する數字は、今頗る人を動かすの力を喪失せり。何人も亦之に重きを措かず、軍事問題の一般状態、既に廣く熟知さるゝに至りたるを以て、カッシニータリとも、カッサンドラ(トロイ)の女豫言者たりとも、亦事實を蔽ふこと能はざるなり。フシントン在勤露國公使は、その數週前稱して以て現代歴史に利する所あるべしとなしたる其七十五萬の兵は、今如何の狀にありとなせるか、我等は彼の語る所を聞かんことを欲するものなり。

露都の參謀將校中には松花江の線を守持するに堪ふるを思ふものあり。江は固より追撃を沮止するに其効あるべし。江の河幅五百碼より千五百碼に至る。而して吉林及び哈爾濱に於けるの外、架橋用の船舶を索むべからず。然れども日本の架橋設計頗る整へるものあるは、我等の既に其證を見たる所なり。吉林より伯都納に至る防禦線は、長さ百六十哩に亘り、兩翼共に轉回さるべく、中部また突破さるべきは、之を見るに難からず。重ねて其退却線路に並行して面する敵に會し、日本用のふべき戰略は自ら明白なり。南都に於ける露人は、以爲らく、松花江はボシエツト灣よりこれを攻撃するにあらざれば、決して轉回すること能はずと。然れど

も歴史は日本の實演したる處に一致し、戰術的側面攻撃は、また戰略的攻撃と等しく有効にして、且つ勝れる所あるを示す。日本の主力軍隊は、解氷若くは鐵道修理の爲めに依るの外、その進軍を躊躇するの理由あるべからず。日本の騎兵は襲撃に抗すること能はずとのリネウイッチ將軍の言、即ち露軍新指揮官大に亦聞知の明なきを表明するものなりとすべし。ム花江の重要なる利便は、寧ろ露軍和議を開かんとするに當り、兩軍の對陣地域を定むるに於て、其好都合なる區劃とするにあるが如し。商議開かれたりとし、四月中に數週日の遲滞を見るが如きは、日本の甚だしく苦痛とせざる所なるべし。然れども、着實なる結果が急速に收められざるに於ては、其軍隊の既に一たび最終打撃を試みんとし、其準備を整へたる以上、商議の遷延を許すは斷じて日本の利益にあらざるべし。萬一露國政府にして、その軍隊と其國とを屈辱の極度に陥れんことを欲し、哈爾濱を日本の手中に附し、浦鹽斯德を孤立せしめ、之を其知るに難からざる運命に陥れんことを欲し、全然不満足なるにあらざる條件を以て和議を締するの機會あるも、之を無期限に延長せんことを欲するものにあらざる限り、其媾和の議を提する今の時機を

措いて他に之を求むべからず。蓋し之が提案は、必らず自尊大國民の自ら嚆下するに難しとする苦樂なるべし。然れども最終勝利の望み既に絶え、戰鬪を繼續するより生ずる犠牲何等の利益を收むる能はざらんとする機會頗る多きに當り、尙之を繼續せんとするは、決して意志の鞏固なる表徴なりとすべからず。寧ろ意志薄弱なる人の心に纏綿する虚偽の性質、即ち世の稱して頑拗となすものを表明するものなりとすべし。露國にして和を欲せば、疑ふべくもなく、或條件を以て之を獲得することを得ん。彼戰ひを欲せば、亦之を獲得することを得べし。我等の業は、和議の日至るに當り、盟約を守持し、躊躇なく相一致して我同盟國を支持するにあり。媾和條件の問題に關し、種々の方面に面白き風説發表さる。而も露國は尙之を諾する位置にあるを想像するが如し。露國の擇び得る所は、損害を賠償するに貨幣を以てすべきや、或は其代物を以てすべきやにあり。此點につきて、露國の決斷すべき期限は今頗る切迫し、幾許ならずして盡くるに至らんとす。既に其大なる犠牲を経て、大なる勝利を得たる以上、幸福なる所有者の位置に己れを置くに至るまで、戰史を鎖さざるは斷じて日本の利益にあらざるなりと。

其二 此時期に於ける海上戦局の観測は如何な しか

甲 日本海大海戦前に於ける彼等の観測

ロンドンタイムスは論じて曰く絶東に於ける海軍の形勢を論ずるに當り我等は切迫せる戦闘云々の語を用ふるを以て殆ど其例となす、恰もロジエストウエンスキー提督の艦隊遠からずして日本の艦隊と衝突すべきを確信して疑はざるものゝ如し。露國艦隊は目今よりも戦ふべき良好の状態に出することあるべしとは思はれず、又戦路の原則に顧みて何人も未だ戦闘を経るとなくして戦争を遂行するを得るの道を發見したる者なきを以て——露國提督は出来る限り速に其敵を索め之と戦を交へんことを謀るものなりとすべきに似たり。日本艦隊に至りては衝突の機を延べんことを欲する許多の理由を有す。然りと雖敵にして若し實際に速に戦はんことを欲するものならば、日本は之に對して其機會を與ふるを辭せざるべし。されど露國提督は戦を交ふるとなくして浦鹽斯德に航入せんことを試みるにはあらずや、十分有り得べき事態なり、同港は旅順口よりも更に閉塞するに難き地なり、其造船所は尙破損せずして存し、内には最大戦闘

艦を容るゝに堪へたる一大船渠あり、健全なる戦路の原則は露國海軍に依りて無視することあるは必無を期すべからず、否な彼等の往々にして之を無視せる事例我等之を有す。艦隊を全うして之に達せんとする計畫必らずしもなされざるにあらざるべし、此計畫結局何等の結果も齎らすこと能はず、唯悲惨高價の戦争を延長するのみにして、其末に至り敗北を免るゝ能はず、或は露國艦隊の破壊を見るに至るべきは我等殆ど之を豫期して可ならんとす。兎も角も我等は交戦當事者たるにあらず、其敵己れを索めんとするに當り、尙庇保の下に隠れ得るを豫期するが如き迷想を有するものにあらざるなり。

然れども戦路の原則至當に遵奉するゝものなりと假定して、我等は戦闘の遠からずして行はるべきを豫期せんとす、是に於て兩對抗兵力の比較は此戦闘の如何の結果に終るべきやを推測するに於て我等に便する所あるべし。我等はネボカトッフ少將の分艦隊司令長官の旗下に投合するに至りたるを知るものなり。又所謂ロジエストウエンスキー提督の艦隊の優劣に關しては露國の評論界にも論戦少なからざりしなり。ジヨナル・デセント・ピータスバーグ紙上にスルコーフ

氏が外交機關新聞として、黒海艦隊出峽問題に對して最も單純なる解答を與へたり。スルコーフ氏は諸新聞に向つて警告して曰く、政府は能く露國の利益に應じて解決するを得べし、斯くの如き事件に關しては成るべく干渉すべからずと。且つ同氏は更に語を激まして論じて曰く、露國今日の位置は實に是一步誤れば外交上重大なる事件を演出せざるを得ざる至難なる評論の時代にある者ならずや、かの北海漁船事件が既に挑戰的絶叫を喚起せる事を忘却したるか。若しそれ黒海艦隊が海峽を通過せんか、是實に巴里條約に調印せる列國に對して直接抗議を招かんとする者にあらずして何ぞや云々と。されど斯くの如き説は、殆ど一顧に値ひせざる説なり。同氏は更に進んでロジストウンスキー艦隊は之を日本艦隊に比較して、決して劣弱なりと言ふべからずと論せり。されど其論證は甚だ薄弱なるを如何せん。

同氏は吾人が艦隊の力を戦闘力計算法に従つて比較せるを批難して、斯くの如き戦闘力の計算法はこれ露國海軍の理論家の想像説に過ぎずして、外國の計算法を識らざる者なりと。されどこれスルコーフ氏が偶々斯かる問題を論せんとして

其無識を曝露せる者に過ぎず。戦闘力の計算法は勿論外國と我國と同じからざる者ありて、獨佛英伊等何れも其計算を異にせり、吾人の取りたる計算は最も便利なるものを選びたるものにて、諸外國の軍事雜誌にも精確と認められし所者なり。又スルコーフ氏はこの戦闘力計算法は實際事實上果して精確なるや否や疑はしと論せり。されど吾人は今回の戦争に就きて過ぐる十個月間に之を確むるに足る豊富なる材料を得たる者なり。

若しスルコーフ氏尙是を信せずんば余は最も確信すべき海軍士官が記したる表によりて第二太平洋艦隊と日本の殘艦とを對比して示すべし(比較表は略す)スルコーフ氏又無遠慮に論じて曰へり、旅順浦鹽の艦隊を算入せざるは不可なり、若し之を算入せば第二太平洋艦隊は確に東郷艦隊よりも優勢なり。若し第二艦隊にして日本艦隊を撃破する能はずんば我等の悪運にて致方なし、若し第三艦隊にして撃破せらるゝ憂ひあるが故に續航せしむべからずと言はゞ、第三艦隊も亦派遣するの必要なし。何となれば第三艦隊も同様に撃破せらるゝの憂ひあるべきを以てなり云々と。されど斯くの如き論をなして我艦隊の不利を惡運



に歸し觀念せんとするは、これ恰も捷利の主なる成功を運命に歸し捷利の重なる戰鬪力は人員の編成に歸せんとするに異ならず。ロジエストウンスキー艦隊に援助艦隊を送る必要なこと論ずる説の根據の薄弱なるや明かなり云々。

アウト・ルックの如きは露國第二艦隊の努力の如何及び援助艦隊派遣必用の有無如何はさておき佛國の中立態度の思慮に依らざれば艦隊は東洋に到る能はざるなりと言へり。曰く、

佛國政府は果して何の日まで魯提督の艦隊が、マダガスカル島を艦船の集合點及び需用品搭載所に利用するを許すべきや。是實に現戰局に於ける海軍戰略上最も重要な問題なり。數週前波羅的艦隊は召還せらるべしとの噂ありしも、其後毫もさる事實はなくして、却つて吾人は先週援助艦隊の同艦隊に合併する爲め、佛國の一港を發して阿弗利加の北岸を航行しつゝありとの報道に接したり。則ち魯提督は明かに自己の欲する如く、既に數週間マダガスカル島を利用したるなり。右に就きて英國のポンチ雜誌の滑稽畫にマダガスカル知事は魯提督に對して「閣下は猶滯留せざるべからざるか猶出發する能はざるかと諷刺せる狀を

示し、以て佛國が深く所置に困却せる態を描寫したり。

ジャバン・メールは曰く、

佛國にして若し自國の港灣を露國に貸與する事なくんば波羅的艦隊は到底東洋に來航する能はざるべし。即ち同艦隊は、途上の一港に根據地を置くにあらざるよりは、決して日本の近海に到着する能はざるべきは何人も少しく熟考する者の之を肯定するに憚らざる所ならん。而して斯くの如き計畫を遂行するには、是非とも佛國の援助に俟たざるべからず。一般の軍事専門家の唱ふるが如く、戰敗の不名譽を回復せんとする露國唯一の希望は、唯極東の制海權を占有するに依りて之を成就するを得べく、波羅的艦隊は今その爲め遠征の途上にあり。茲に於てか佛國は無限の大責任を負ふものと云ふべし。吾人は知る、曾て南北戰爭に際し、英國政府は米國の通商を妨害したる一軍艦の出發を差止めざりし故を以て、後に莫大の賠償金を支拂ふの不名譽を蒙りたり。然るに今や佛國は區々たる一軍艦にあらずして堂々たる大艦隊を、其領海内に無期限に淹留せしめんとす。斯くの如きは假令佛國の位置其同盟國に對する情誼上大に恕すべきものあり

りとするも實は正義の問題に屬し又親交國に對する義務の問題に關聯す。情實を以て正義及び義務を蹂躪するは斷じて許容すべからざるなりと。

乙、日本海大海戦に對する彼等の論評

聖彼得堡發電に曰く露國海軍省及び外務省は朝鮮海峽の戦況に就きて只今までの處全然東京より來るアツシエーテッド・プレス通信に信據し居り夜半までは露國艦隊より一片の電報だに來たらずアツシエーテッド・プレスの斷言する處に依れば浦鹽の諸巡洋艦は出港し豫定の計畫に従ひ今やロジエストウエンスキーと協同動作をなしつつあり米國に熱く知らるゝかのブラウシコフ大佐はグロム・ポイを指揮す。

ロジエストウエンスキーが浦鹽の門口たる朝鮮海峽まで達したる其成功は殆ど驚喜を惹起し露帝即位紀念日の爲めに催されたるイルミネーションはこの場合に取ての祝祭なるかの如く聖彼得堡は茲に初めて樂觀的なり。ロジエストウエンスキーが東郷を撃滅したりとの報道は到る處事實として受取られ露國提督の名は市中到る所各人の唇頭にあり彼の名は珈琲店公園に於て英

雄として祝盃を擧げられたり。しかも聖彼得堡は其實單に東京よりの報道のみを得居るに過ぎず。然れども露國民は失望を重ねたり。この尙早なる祝典を擧ぐる其心事亦恕すべき點なきにあらず。

然れども官憲は其報道を見て得意なると同時に過大の喜びとなすことなく却つて心配げに更に報道に接せんことを翹望し居れり。海軍省には夜晩くまで燈光消えざりき。しかも何等の報道も來らざりき。軍令部長ウイレニエヌ提督は一通信員に語りて曰く「ロジエストウエンスキー若し朝鮮海峽を通過したるならんは彼は最早や安心なり。若し彼にして日本艦隊を迷はし以て自己の艦隊に損害を被ることなくして日本海に入らんか彼は海軍戰略の王なりと。戦争の勝敗は愚か露帝國の運命亦繫つて此一戦にあるを知れるザースコエセロにありては憂慮最も甚だしかりき。露帝はかの報告(東郷艦隊撃滅せられたりとの)を以てロジエストウエンスキーが巧みに日本艦隊を迷はし日本海への難關を通過したるものなりと解釋し満足を以て之を迎へられたれども更に得意がることなかりき。露帝は終始ロジエストウエンスキーの伎倆を信じたれども愈々結局の機迫るや頗に

神經過敏となり、屢、海軍省外務省をして報告を帝に送らしめられたれども、露帝の苦悶は救ふに由なかりき。

エッセン大佐語りていはく、ロジエストウンスキーが朝鮮海峡に到りたるは奇計に依るにあらず、日露兩艦隊の勢力より打算して茲に出でたるものなり。東郷艦隊は劣弱にして、大海に於ては戦ふに足らざるを以て、ロジエストウンスキーは決戦を行ふことなくして浦鹽に達すべきことを極めて確實なりと。自由派の人士は今日までロジエストウンスキーの航海に伴ひたる成功に仰天し居れり。彼等の信ずる所に依れば、ロジエストウンスキーにして若し決戦を行ふて勝利を博せんか、管に平和の見込遠慮となるのみならず、彼等の希望したる改革、國會、憲法の夢は永久に實現せざるべし。

また曰く、本日午後諸新聞紙は號外を發行し、賣れ行き最も多かりき。海軍省は直に人を以て充滿し、報知に就き問合せをなさんとすれど、海軍省は何等の情報を有せず、午後五時海軍省は通信員に繰返し語つて曰く、本省は全然東京よりの報道に依頼せるものにして、ロジエストウンスキーの浦鹽に達するまでは我國の側

よりの報道を期待する能はずと。將校は東京より來たれる報道に所謂ロジエストウンスキー對馬海峡にありと云へることを讀んで喜悅の面に現はるゝを禁ずる能はざりき。一將校語りて曰く、今までの所に依りて見るにロジエストウンスキー戰略の王たるを知るに足る。若し彼にして東郷を迷はし、水雷艇よりの損害を受くるとなくして對馬海峡を通過したりとせば、彼は彼の親友が希望したるよりも多くなしたるものなり。若し彼にして對馬海峡に於て戦闘を行ひたりとすれば、ロジエストウンスキーは無論勝利を得たるならん。然れども余の見る所によれば、東郷が果して應戦するや否やは疑問なり。勿論ロジエストウンスキーに對する危険は過ぎ去れりといふべからず。東郷提督或はロジエストウンスキーを日本海に誘ひ入れたるものなるやも知るべからず。果して然りとせば、敵は露國艦隊の前外方にあるものなり。然れども廣濶なる日本海に入らんか、浦鹽に達するの機會は既に大に増大したる者といはざるべからずと。

又曰く、皇帝、海軍省、公衆は此危急の場合に際し呼吸を殺してロジエストウンスキー及び其艦隊の運命に關する報道を待ちつゝあり、蓋し露國の運命は一に繫つ

て此艦隊にあり、官憲は日本側の沈黙を以て日本艦隊の敗北したるが故なりと解釋せんとすると同時に、亦沈黙の軍路上必要ある者なることを認め居れり。公衆は尙早なる歡喜の後再び悲觀に傾かんとする長崎駐在米國領事の所謂露國軍艦五隻撃沈せられたりとの報告は夜半までに到着したり。こは最も信憑すべき報道として認められ、疑ひもなく惡感情を作り、日本艦隊は旗艦に對ひ集弾したるべきを以て、スワロフ或は右の五隻中にあるにあらざるやの恐れあり、カムチャトカ號は最新式の機械を満載し居たるを以て、同船の沈没は後に至り軍艦の沈没よりは一層苦痛を感ずるに至るべし。然れどもロジエトウエンスキーにして五隻の損失を以て日本海に入るを得たるものとすれば、通航料に對する此代價餘りに高價なりといふべからず。況んや日本艦隊も亦同様の損害を被りたるべきに於てをや。露國廣しと雖、露帝の如く憂慮を極めたるものはあらざるべし。帝は二十八日早朝アレキシス大公、海軍大臣アウエラン、軍令部長ウイレニスをザースコエセロに召喚し、夜晩くまで密談し、海圖を案じては情報を待ちつゝありしも、支那に於ける謠報官及び芝罘領事より送られたる風説の外には何

等の報告來たらす、此間にありて帝は僅に一度閣臣と相分れたり。これ禮拜堂に入りたる時にして、僧侶はロジエトウエンスキーの成功を祈れり。在長崎米國領事よりの報道華盛頓より至るや帝は大に煩悶せり。海軍官憲の大部分は、ロジエトウエンスキーは朝鮮海峡に於て水雷艇に出會したるに過ぎずと信せり。然れども此説は一般に賛成せられず。一般は思へらく、東郷の哨艦は戰艦と接觸を待つを得而して戰艦起りたりといふ狹隘なる水道にありて、ロジエトウエンスキーを待受けたるなりと。然れども何人も東郷が大戦を行ひたりと信するものなく、夜に入り水雷襲撃を行ひたるなるべく、又敷設水雷のあるありて、斯くは露艦の沈没を見るに至りたるならんと思惟しつゝあり。官憲の信する所に依れば二十八日に長距離の追撃戰行はれたるべく、此種の戰艦よりは良好なる結果を收め得べしと。グロムボイ、ロシアは恐らく出港してロジエトウエンスキーを助けつゝあるべく、若しロジエトウエンスキーにして廿八日夜朝鮮海峡を通過するを得ば、廿九日には浦鹽と通信を交換し得るの近距離に達すべし。午前一時アウエラン、ウイレニ